

授業シラバス

科目名 (英)	【コミュニケーションⅠ】 アソシエイトホスピタリティコーディネータ Associate Hospitality Coordinators	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員_実務者経験】						
<p>榮真子→JR東海パッセンジャーズにて勤務。グリーン車のVIP対応などパーサーとして従事。 梅内香織→(株)ジェイエア、(株)AirJapanにてキャビンアテンダントとして従事。客室乗務員としてVIP含めた対応を行う。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>ホスピタリティとは何か、サービスとホスピタリティの違いを理解し、お客様・仲間と喜びを分かち合うホスピタリティを提供できるような人材を目指すため、ホスピタリティの歴史、原点、日本の「おもてなし」文化の概要を学び、理解する。</p>						
【到達目標】						
<p>自分が行っていることは本当に「ホスピタリティ」か、どのような形・思いがホスピタリティなのかを理解し、実践して理解することができる。</p>						

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション:アソシエイトホスピタリティコーディネータの授業の概要を理解し、真のホスピタリティを身に着ける気持ちを養うことができる。検定に対する流れを理解し、今後に取り組む。
2回目	第一章:日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性 自分が目指そうとしている業界が今日本の産業のどの立ち位置にいるのかを理解し、ホスピタリティの大切さを理解することができる。
3回目	第二章:ホスピタリティの歴史と文化 ホスピタリティの考え方はどこからきたのか、西洋・東洋・日本の視点からホスピタリティの文化を学ぶことができる。
4回目	第三章:サービスとホスピタリティの語源 「ホスピタリティ」と「サービス」の言葉はどこからきたのか、またその言葉の意味を理解することができる。
5回目	第四章:ホスピタリティの定義 「ホスピタリティ」と「サービス」の違いを学ぶことができる。
6回目	第五章:ホスピタリティの5領域 社会とホスピタリティの関係性、必要性を理解することができる。
7回目	第六章:組織と顧客のホスピタリティ 組織と顧客の間に生まれる「ホスピタリティ」がどのように重要なのかを理解することができる。
8回目	第七章:組織と社員のホスピタリティ ホスピタリティ溢れるチームを作るには、何が重要なのかを理解することができる。
9回目	第八章:ホスピタリティの実践① 1～8章の学びを踏まえ、ホスピタリティを実際に実践、検証を行う。(グループワークを通して行い、理解しあう。)
10回目	第八章:ホスピタリティの実践② 1～8章の学びを踏まえ、ホスピタリティを実際に実践、検証を行う。(グループワークを通して行い、理解しあう。)
11回目	第八章:ホスピタリティの実践③ 1～8章の学びを踏まえ、ホスピタリティを実際に実践、検証を行う。(グループワークを通して行い、理解しあう。)
12回目	第九章:各産業におけるホスピタリティの実現 各産業の視点からホスピタリティを理解することができる。
13回目	1～12回の授業を通して、ホスピタリティの考え方を理解したうえで、実践した体験に対し、レポート作成を行う。
14回目	1～12回の授業の振り返りを行うことで、本当のホスピタリティを行うことができる意識を持つことができる①
15回目	1～12回の授業の振り返りを行うことで、本当のホスピタリティを行うことができる意識を持つことができる②(テストを実施し、振り返る。)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・小テスト8回分 ・レポート提出
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【コミュニケーションⅠ】 コアマネージメント・ベーシックⅠ Core Management Basic	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 認定トレーナー。井上由美先生の元で学び、小学校教諭の経験を活かし教室を立ち上げ、今では世界から集まる独自のオンライン講座を開校。
その経験から一人でも多くの生徒たちに「自分にしかない良さ」に気づき、「どんな逆境でもチャンスに変えられる」メンタルを伝えたいと考えている。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通し、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

<コアマネージメント> 心理学的な脳の仕組みを理解し、自分と他人とのコミュニケーションを円滑にする手段として、実生活で使えるようになる。
<気質学> 生まれ持っている人間の4つのエネルギーについて理解し、自分のエネルギーバランスから行動や考え方の特性を知り、「自分らしさ」を理解することができる。

回数	授業計画・内容	回数	授業計+B19:134画・内容
1回目	(オリエンテーション)コアマネとは、自分らしさを活かした夢を叶えるための最高の学び～前期授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる～	16回	4つのエネルギーの特徴を理解し、気質を活かした接客を円滑することができる(2)
2回目	NLPの前提を理解し、成功に近づくマインドセットに気が付くことができる	17回	それぞれの気質ごとの現場での実践を考えることができる ～会議、接客、ボスマネジメント、報連相などの具体的な方法を学ぶ～
3回目	現在の目標を明確にし、達成に必要なステップを知ることができる(1)	18回	1～17回までの復習・まとめ
4回目	現在の目標を明確にし、達成に必要なステップを知ることができる(2)	19回	気質学を知識を応用して、4つの気質それぞれの特性に合う商品、又はサービスを考えることができる(1)
5回目	人間関係、仕事、恋愛も思いのままになる気質学フォートロジー®とは何か、学ぶ意義を理解することができる	20回	チームワークをよくするには？ ～気質学知識を応用し、それぞれの気質に合うモチベーションの上げ方を理解することができる～
6回目	4つの気質の特性を知り、フォートロジー®の面白さに気づくことができる。	21回	気質学を知識を応用し、4つの気質のそれぞれの特性に合う商品、又はサービスを考えることができる(2)
7回目	仲間と交流しながらそれぞれの気質の特性に気づき、気質を考慮したチーム作りをすることができる。	22回	気質を知った上で、チームで課題を取り組むことを通して、成長した自分を知ることができる
8回目	気質別に交流することで、4つの気質の理解を深めるとともに自分の特性に気が付くことができる	23回	チームごとで商品またはサービスを発表することができる
9回目	相手の強みを理解し、活かし合うコミュニケーションと場づくりを理解することができる	24回	人気があった商品、又はサービスを分析し、さらに気質学の理解を深めることができる
10回目	エンジョイのエネルギーの特性を知り、エンジョイの接客の相性を理解することができる	25回	気質学の授業を通して気が付いた「自分らしさ」「自分の強み」を理解することができる
11回目	サイレンスのエネルギーの特性を知り、サイレンスの接客の相性を理解することができる	26回	「自分らしさ」「自分の強み」をドリームシートにまとめることができる。試験対策。
12回目	パーフェクトのエネルギーの特性を知り、パーフェクトの接客の相性を理解することができる	27回	前期の総まとめを行う
13回目	ウィナーのエネルギーの特性を知り、ウィナーの接客の相性を理解することができる	28回	コミュニケーションの流れと、自分と相手を観察する方法を理解することができる
14回目	4つのエネルギーのクレーム対応を理解することができる	29回	信頼関係を築くコミュニケーションスキルを学び、活用することができる！ ～効果的な現場ラポールとペーシング技法～
15回目	4つのエネルギーの特徴を理解し、気質を活かした接客を円滑することができる(1)	30回	1～29回の授業を振り返り、グループワークを通して実践し、自分の理解度を確認することができる

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・テスト20%
・課題提出20%

【使用教科書・教材・参考書】

・テキスト① マネージメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 ② 禁断の気質学 ③ 別冊
・筆記用具(プロッキーマジック) ・ポストイット(7, 5×12, 7サイズ)

授業シラバス

科目名 (英)	【コミュニケーション I】 コアマネジメント・ベーシック II Core Management Basic	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	プライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員・実務者経験】							
<p>井上由美：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構代表理事。プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴20年、および部下指導歴25年の経験を持つ。著書に「禁断の気質学フォートロジ[®]」「オレ様信長のトリセツ」がある。</p> <p>各務里奈：一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 認定トレーナー。井上のもとで学び、小学校教諭の経験を活かし教室を立ち上げ、今では世界から集まる独自のオンライン講座を開校。その経験から一人でも多くの生徒たちに「自分にしかない良さ」に気付き、「どんな逆境でもチャンスに変えられる」メンタルを伝えたいと考えている。</p>							
【授業の学習内容】							
成功心理学のスキルを学ぶことで、今の自分を最大限に生かした目標設定ができるようになり、目標達成までのプロセスや方法がわかる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通し、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。							
【到達目標】							
成功心理学のスキルを学ぶことで、今の自分の気質を最大限に生かした人生の目標設定ができる。また目標達成までのプロセスや方法がわかる。そして、気質やVAKを生かして、お客様一人一人に合った接客やコミュニケーションの仕方が分かり、最高のおもてなしができるようになる。							
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容				
1回目	前期の復習・後期の授業に向けての目標設定	16回	アンカリング：刺激を与えることで意図的によい状態をつくりだす方法を活用することができる				
2回目	信頼される人間関係を築くことができるコミュニケーションをとることができる(1)	17回	(対面授業)：アンカリング実践：刺激を与えることで意図的によい状態をつくりだす方法を活用することができる(2)				
3回目	ラポール(信頼関係)を築くことができるペーシングを活かしたコミュニケーションができる(2)	18回	リフレーミング：視点を変えることで、柔軟な前向きな思考の大切さに気が付き、活用できる(1)				
4回目	(対面授業)：五感(VAK)を理解し、自分や相手に合わせた発信の仕方がわかる(1)	19回	リフレーミング：視点を変えることで、柔軟な前向きな思考の大切さに気が付き、活用できる(2)				
5回目	講師：今井千尋【ビジネス実践編】VAKを使ったコミュニケーションVAKがビジネスではどのように活かされているのかがわかる	20回	ミルトンモデル：あいまいな表現によって、気づきを促す質問ができる				
6回目	五感(VAK)を理解し、自分や相手に合わせた発信の仕方がわかる(2)	21回	(対面授業)：1年生、2年生合同授業				
7回目	ポジション：立ち位置を変えることによって、客観的に自分を分析することができる	22回	タイムライン：五感を使って、過去の体験を現在と未来に役立てることができる(1)				
8回目	(対面授業)：視線解析：目の動きからわかる思考パターンを理解し、活用することができる	23回	講師：今井千尋【ビジネス実践編】タイムラインを使ってビジョン構築を理解する 効果的な目標設定の仕方を理解できる				
9回目	サブモダリティ：物の見え方・捉え方を変化させるスキルから、相手に変化を与える効果的なコミュニケーションスキルを学ぶことができる(1)	24回	(対面授業)：タイムライン：五感を使って、過去の体験を現在と未来に役立てることができる(2)				
10回目	サブモダリティ：物の見え方・捉え方を変化させるスキルから、相手に変化を与える効果的なコミュニケーションスキルを学ぶことができる(2)	25回	後期の振り返りを行う				
11回目	メタモデル：相手の地図がより正確に理解できる、効果的な質問ができる(1)	26回	後期の総まとめを行う				
12回目	(対面授業)：メタモデル実践：相手の地図がより正確に理解できる、効果的な質問ができる(2)	27回	アウトカムの設定と宝地図作成：目標を設定し、具体的にビジュアル化することができる(1)				
13回目	効果的質問：方向性や本来の意図を掴むための質問をすることができる	28回	(対面授業)：アウトカムの設定と宝地図作成：目標を設定し、具体的にビジュアル化することができる(2)				
14回目	チャンクアップ・チャンクダウン：物事の抽象化と詳細化の効果を理解し、両方を効果的に取り入れてコミュニケーションをとることができる(1)	29回	講師：今井千尋【ビジネス実践編】目標設定力強化 ストレッチの高い目的と目標を設定するための見方・考え方・捉え方を理解することができる				
15回目	チャンクアップ・チャンクダウン：物事の抽象化と詳細化の効果を理解し、両方を効果的に取り入れてコミュニケーションをとることができる(2)	30回	(対面授業)：1年間のまとめ&宝地図の発表				
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト50% ・課題提出50%						
【使用教科書・教材・参考書】							
・マネジメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 ・禁断の気質学 ・筆記用具 ・ポストイット							

授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティ・ヒューマンスキルⅠ】 キャリアプログラムⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	Career Program I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科					曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

榮真子→JR東海パッセンジャーズにて勤務。グリーン車のVIP対応などパーサーとして従事。
梅内香織→(株)ジェイエア、(株)AirJapanにてキャビンアテンダントとして従事。客室乗務員としてVIP含めた対応を行う。

【授業の学習内容】

学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。
社会人基礎力を身に付ける

【到達目標】

自己肯定と他己肯定が出来るようになる(自分とクラスメイトを受け入れ、肯定する)

回数	授業計画・内容 ★毎回ルール伝達 ★毎回1分スピーチ ★毎回Evernote5分
1回目	オリエンテーション～キャリアプログラムの目的、学校ルール説明を行い、これからのスクールライフに対する準備ができる。
2回目	自己紹介・他己紹介①:「自己紹介とは?」どのような項目を伝えれば、相手に「自分らしさ」を伝えることができるかを考えることができる①
3回目	自己紹介・他己紹介②:「自己紹介とは?」どのような項目を伝えれば、相手に「自分らしさ」を伝えることができるかを考えることができる② サポートアンケートの実施
4回目	自己紹介・他己紹介③:「聞き手上手」「話し上手」の技法を知り、今後にいかすことができる。
5回目	自己紹介・他己紹介④:担任の自己紹介を通して、再度自分の自己紹介文を考えることができる。前回の自己紹介文と比較して、どちらが自分らしさを伝えられているかを検証することができる。
6回目	Teams の使い方の理解、ポートフォリオの活用方法を理解することができる/ CSU願書記入
7回目	相槌・繰り返し・傾聴の技法～どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることができるのか理解出来る
8回目	～伝達トレーニング～言葉だけでメッセージを正確に共有する為の条件を理解して、実践できる。
9回目	～ブラインドウォーク～指示の出し方を改善して、問題解決できる方法を体現することができる
10回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
11回目	～担任自己紹介～ライフチャートのFBを行い、自己紹介の多様性を知ることができる
12回目	～ライフチャートの作成～自分の人生を振り返り、GWを通して自己紹介、PRができるようになる
13回目	～ライフチャートの作成～自分の人生を振り返る、GWを通して自己紹介、PRができるようになる
14回目	～認知特性を知る～自分の学習タイプを知って、対策方法を見つけることができる
15回目	～前期振り返り～後期にどうつなげていくか考え、成長ポイントを見つけることができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出物
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティヒューマンスキルⅠ】 キャリアプログラムⅡ Career ProgramⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

榮真子→JR東海パッセンジャーズにて勤務。グリーン車のVIP対応などパーサーとして従事。
梅内香織→(株)ジェイエア、(株)AirJapanにてキャビンアテンダントとして従事。客室乗務員としてVIP含めた対応を行う。

【授業の学習内容】

学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。
社会人基礎力を身に付ける

【到達目標】

自己肯定と他己肯定が出来るようになる(自分とクラスメイトを受け入れ、肯定する)
人に伝わる自己表現ができるようになる
人の話を聞く姿勢が理解できるようになる

回数	授業計画・内容 ★毎回ルール伝達 ★毎回1分スピーチ ★毎回Evernote5分
1回目	学校ルールの再確認と各ルールの意味を理解し、自己採点・振り返りを行い、何事も意味を考えて行動できるようになる
2回目	入学時の自分と現在の自分を見比べ、どう変わったか振り返ることにより、授業の意義を再確認することができるようになる
3回目	ライフチャートを使用して、自己PR(1人1分+クラスメイトFB1分)を一人一人発表し、人前で話すことができるようになる
4回目	ライフチャートを使用して、自己PR(1人1分+クラスメイトFB1分)を一人一人発表し、人前で話すことができるようになる
5回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
6回目	企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について知ることができる
7回目	企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について資料にまとめることができるようになる
8回目	企業研究発表(グループ毎)を行い、より多くの情報を得ることができる
9回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
10回目	PPT自己紹介(1人5分)を行い、自分をプレゼンテーションできるようになる
11回目	PPT自己紹介(1人5分)を行い、自分をプレゼンテーションできるようになる
12回目	～共感の技法～共感の方法を理解し体現することによって、より人の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを取ることができるようになる
13回目	～ジェスチャーコミュニケーション～人に伝えようとする姿勢、聞きとろうとする姿勢を理解することができる
14回目	～特別講義～講義を通して、夢を実現する方法を知ることができる
15回目	～1年振り返り～2年次にどうつなげていくか考え、成長ポイントを見つけることができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出物 ・

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 ビジネスコンピューティング I Business Computing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。ITリテラシーを学び、安心・安全な環境を作り、ホスピタリティ業界でも大切なマナーを学ぶ。

回数	授業計画・内容
1回目	インターネットガイダンス(ITリテラシーの概要・理解度テスト・COMメールの使用方法)
2回目	Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①
3回目	Word② 入力練習・文書作成・編集② (効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる)
4回目	Word③ 入力練習・表の作成① (表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる)
5回目	Word④ 入力練習・印刷・図形(地図) (ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れる)
6回目	Word⑤ 入力練習・便利な機能 (検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる)
7回目	Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成 (ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる)
8回目	Word⑦ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
9回目	Word⑧ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
10回目	Word⑨ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
11回目	Word⑩ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
12回目	PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。画面構成)
13回目	PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ)
14回目	TeamsやZOOMIについて理解を深め、利用できるようになる
15回目	総まとめ(入力/Wordの文書作成のレベルアップを図る)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験80% ・前期提出物 20%
【使用教科書・教材・参考書】	
30時間でマスターWord&Excel	

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 ビジネスコンピューティング II Business Computing II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。
現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。
そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	PowerPoint③ 課題発表と準備(課題作成にあたり、デザインシートの作成やデータ収集が出来るようになる)
2回目	PowerPoint④ 課題作成と発表準備(効率よく課題作成や発表準備に取り組むことが出来るようになる)
3回目	PowerPoint⑤ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する。 (発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
4回目	PowerPoint⑥ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する。 (発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
5回目	PowerPoint⑦ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する。 (発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
6回目	Excel① 基本操作・データ入力・表の作成編集 (Excelの基本操作を知り、効率的な表編集が出来るようになる)
7回目	Excel② 数式と関数 I (Excelの数式や関数を扱えるようになり、業務で応用出来るようになる)
8回目	Excel③ 表の編集・条件付き書式 (見栄えの良い表作成と条件付き書式を使えるようになり、効率の良い業務に応用出来るようになる)
9回目	Excel④ グラフ作成・練習問題実施 (用途に合わせて、グラフを作成出来るようになる。また、練習問題を実施し、実力養成を図る)
10回目	Excel⑤ 印刷方法、シート操作、関数 II (印刷方法、シート間の入力方法、関数 II を実施し、業務での応用が出来るようになる)
11回目	Excel⑥ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
12回目	Excel⑦ データベース機能 (データベース機能を学ぶ事により、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
13回目	総まとめ実践(表作成・関数・グラフ・データベース機能を使用したもの)を行う
14回目	振り返り 試験を振り返る事により、理解出来ていなかった点などを、クリアにし、スキルを高めよりExcelを利用出来るようになる。
15回目	Excel⑧ 総合演習 (Excelの機能を利用して、演習問題に取り組む事により、ビジネス場面での応用が出来るようになる)

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験(Excel) 80% ・PowerPoint発表評価 20%

【使用教科書・教材・参考書】

30時間でマスターWord&Excel

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 就職対策 I Employment Support	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・企業分析を深め、就職活動時に必要な情報の収集方法を学ぶ ・グループでの取り組みを通して、情報のまとめ方、コミュニケーションスキルを学ぶ ・経験者の話を聞くことで今の自分に必要なものを知る 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・就職・就職活動とはなにが必要か理解できる ・グループの中でのコミュニケーションスキルを発揮し、印象良く協働作業ができる。 ・業界を理解し、採用情報をまとめることができる 							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 <ul style="list-style-type: none"> ・就職とは何かを再確認することができる。 ・自分の就職意識レベルを確認し、何をすべきか明確にすることができる。 						
2回目	【一足先に就職活動した学生の体験談を聴き、リアルに自分の就職活動をイメージし、取り組むべきことを理解する】 <ul style="list-style-type: none"> ・実際にコロナ禍の中、就職活動をした先輩方の体験談を聴き、より具体的にイメージできるようになる。 ・不安な点など先輩に質問し、やるべきことを明確にできるようになる。 						
3回目	【企業研究】 <ul style="list-style-type: none"> ・目指す業界ではどんな仕事があるのか、採用があるのか認識することができる ・個人ワークで企業研究ノートを作成する 						
4回目	【企業研究】 <ul style="list-style-type: none"> ・目指す業界ではどんな仕事があるのか、採用があるのか認識することができる ・個人ワークで企業研究ノートを作成する 						
5回目	【企業研究】 <ul style="list-style-type: none"> ・企業の理念や取り組みを理解し、共感するポイントをまとめる ・個人ワークで企業研究ノートにまとめる 						
6回目	【企業研究】 <ul style="list-style-type: none"> ・企業の理念や取り組みを理解し、共感するポイントをまとめる ・個人ワークで企業研究ノートにまとめる 						
7回目	【企業研究】グループで2社の比較情報をまとめる						
8回目	【企業研究】グループで2社の比較情報をまとめる						
9回目	【企業研究】グループでまとめた情報を元にプレゼンテーションをする(多方面からの情報を得ることが出来る)						
10回目	【企業研究】目指す業界に入るにはなにが必要か考え、まとめる						
11回目	【企業研究】目指す業界に入るにはなにが必要か考えた内容をプレゼンテーションする						
12回目	【一足先に就職活動した学生の体験談を聴き、リアルに自分の就職活動をイメージし、取り組むべきことを理解する】 <ul style="list-style-type: none"> ・実際にコロナ禍の中、就職活動をした先輩方の体験談を聴き、より具体的にイメージできるようになる。 ・不安な点など先輩に質問し、やるべきことを明確にできるようになる。 						
13回目	【一足先に就職活動した学生の体験談を聴き、リアルに自分の就職活動をイメージし、取り組むべきことを理解する】 <ul style="list-style-type: none"> ・実際にコロナ禍の中、就職活動をした先輩方の体験談を聴き、より具体的にイメージできるようになる。 ・不安な点など先輩に質問し、やるべきことを明確にできるようになる。 						
14回目	【自己研究】自分がなぜその業界を目指すようになったのか考える(文字に起こす)						
15回目	【自己研究】自分がなぜその業界を目指すようになったのかを人に伝えられるようになる(文字に起こしたものを発表する)						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・企業研究ノート						
【使用教科書・教材・参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・A5サイズのノート ・講師作成プリント 							

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 就職対策Ⅱ Employment Support Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員_実務者経験】							
・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表を実施し、コミュニケーションスキル、PRする力を磨く(お互いにアドバイスし合う) ・自己分析を重ね、文字に起こして人に伝える力を身に付ける ・第一印象を良くみせる方法を学ぶ 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の「強み」を自己分析し、伝わる表現方法でアピールすることができる。 ・自分のキャリアについて考察を深め、どんな企業に就職したいか具体的にイメージし、行動できる ・第一印象を良くみせることができるようになる 							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 ・自己分析とはなにかを理解できるようになる ・第一印象の大切さを理解できるようになる						
2回目	【自己分析】 自分の人生の全体像を振り返り、年表チャートを作成する						
3回目	【表現力】 人に伝わる話し方、言葉の選び方を理解できるようになる						
4回目	【表現力】 人に伝わる話し方、言葉の選び方を理解し、体現することができる						
5回目	【自己分析】 今まで力を入れて頑張ったことについて、伝わる表現ができているか確認することができる。(個人ワーク)						
6回目	【自己分析】 今まで力を入れて頑張ったことをまとめたものを印象良く、表現力豊かに伝えることができる。(グループ発表)						
7回目	【自己分析】 自分の強み、弱みについて、伝わる表現ができているか確認することができる。(個人ワーク)						
8回目	【自己分析】 自分の強み、弱みをまとめたものを印象良く、表現力豊かに伝えることができる。(グループ発表)						
9回目	【自己分析】 今まででなにか失敗して悔しかったことについて、伝わる表現ができているか確認することができる。(個人ワーク)						
10回目	【自己分析】 今まででなにか失敗して悔しかったことをまとめたものを印象良く、表現力豊かに伝えることができる。(グループ発表)						
11回目	【自己分析】 業界を目指した動機について、伝わる表現ができているか確認することができる。(個人ワーク)						
12回目	【自己分析】 業界を目指した動機を印象良く、表現力豊かに伝えることができる。(グループ発表)						
13回目	【第一印象】 第一印象が与える効果、笑顔の法則を理解することができる						
14回目	【第一印象】 第一印象良い話し方、伝え方が出来るようになる(グループワーク)						
15回目	【自己分析・第一印象】 自己PRを第一印象良く伝えることができるようになる						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・レポート評価						
【使用教科書・教材・参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・A5サイズのノート ・講師作成プリント ・自己分析シート など 							

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 イベントプランニング I Event planning I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

プロダクションでのマネージャーを経て、イベント制作へ転身し現在に至る。
大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、
そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 この授業の概要、目的、到達目標を理解し、プランナーとしての発案、プレゼン力を身に付ける重要性を理解することができる。 イベントを提案する前に、発案力を身に付ける必要性を理解することができる。
2回目	【企画立案力を身に付ける①】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる。 どのように企画書を作成するのか理解することができる。課題①で発表し、伝えたいことが聞き手に伝わったかどうかを検証する。
3回目	【企画立案力を身に付ける②】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる。 どのように企画書を作成するのか理解することができる。課題②で発表し、伝えたいことが聞き手に伝わったかどうかを検証する。
4回目	【企画立案力を身に付ける③】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる。 どのように企画書を作成するのか理解することができる。課題③で発表し、伝えたいことが聞き手に伝わったかどうかを検証する。
5回目	【企画立案力を身に付ける④】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる。 グループで、最も良かったアイデアをプレゼンテーションを行うために、さらによいものにするために修正、改善を図ることができる①
6回目	【企画立案力を身に付ける⑤】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる。 グループで、最も良かったアイデアをプレゼンテーションを行うために、さらによいものにするために修正、改善を図ることができる② (講師の前で発表)
7回目	【企画立案力を身に付ける⑥】 企画立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる。 プレゼンテーション大会を行い、最もよい発表を行ったチームを決定し、何が良かったのかを検証することができる。
8回目	【企画書の作り方を身に付ける①】 企画書の必要性、重要な項目を理解することができる。(制作スケジュール、費用、準備物、指示書など)
9回目	【企画書の作り方を身に付ける①】 プレゼンテーション大会を通して、自分の案をさらに良いものにするために改善修正し、さらに細かく詳細を記した企画書を作成する。
10回目	【企画書の作り方を身に付ける②】 プレゼンテーション大会を通して、自分の案をさらに良いものにするために改善修正し、さらに細かく詳細を記した企画書を作成する。 (講師の前で発表)
11回目	【企画書の作り方を身に付ける③】 プレゼンテーション大会を通して、自分の案をさらに良いものにするために改善修正し、さらに細かく詳細を記した企画書を作成する。 (企画書提出)
12回目	【企画書の作り方を身に付ける③】 プレゼンテーション大会を行い、企画書をもって発表し、どのチームが一番具体的で分かりやすいプレゼンになったのかを検証することができる。
13回目	イベントの実施 実際にイベントを実施し、企画書を検証することができる。
14回目	【イベント検証の反省①】 企画書通りに行えたかどうかを反省し、次回のイベントにいかせるようまとめる。
15回目	【イベント検証の反省②】 各チーム、イベントの反省発表を行い、改善点を共有し、よりよいイベント作成ができるようにすることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 イベントプランニングⅡ Event planning II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
プロダクションでのマネージャーを経て、イベント制作へ転身し現在に至る。 大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事する。							
【授業の学習内容】							
企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、 そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。							
【到達目標】							
イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。 そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。 イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 この授業の概要、目的、到達目標を理解し、プランナーとしての発案、プレゼン力を身に付ける重要性を理解することができる。 イベントを提案する前に、発案力を身に付ける必要性を理解することができる。前期の振り返りを行い、自分ができるようになった点をあげて発表をする。						
2回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習 どのように企画書を作成するのか理解することができる。課題①で発表し、伝えたいポイントが伝わっているかどうかをチームで検証する。						
3回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習 どのように企画書を作成するのか理解することができる。課題②で発表し、伝えたいポイントが伝わっているかどうかをチームで検証する。						
4回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習 どのように企画書を作成するのか理解することができる。課題③で発表し、伝えたいポイントが伝わっているかどうかをチームで検証する。						
5回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習 グループで、最も良かったアイデアをプレゼンテーションを行うために、さらによいものにするために修正、改善を図ることができる① リスクマネジメントについても考え、メリット・デメリットまで考えることができるようになる。						
6回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習 グループで、最も良かったアイデアをプレゼンテーションを行うために、さらによいものにするために修正、改善を図ることができる② (講師の前で発表)リスクマネジメントについても考え、メリット・デメリットまで考えることができるようになる。						
7回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習 プレゼンテーションを行い、最も良かった案・発表の方法が良かったグループを決める。						
8回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習・イベントへ向けての実施 企画書の必要性、重要な項目を理解することができる。(制作スケジュール、費用、準備物、指示書など)①						
9回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習・イベントへ向けての実施 企画書の必要性、重要な項目を理解することができる。(制作スケジュール、費用、準備物、指示書など)②(講師の前で発表)						
10回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習・イベントへ向けての実施 企画書の必要性、重要な項目を理解することができる。(制作スケジュール、費用、準備物、指示書など)③(企画書・予算書を提出)						
11回目	【イベント制作の基礎・復習】企画の立案から～企画書作成までの復習・イベントへ向けての実施 プレゼンテーション大会を行い、企画書をもって発表し、どのチームが一番具体的で分かりやすいプレゼンになったのかを検証することができる。						
12回目	イベントの実施に向けての準備を行う。						
13回目	イベントの実施 実際にイベントを実施し、企画書を検証することができる。						
14回目	【イベント検証の反省①】 企画書通りに行えたかどうかを反省し、まとめて前期と比べて何ができるようになったのか、成長ポイントをあげて検証することができる。						
15回目	【イベント検証の反省②】 各チーム、イベントの反省発表を行い、改善点を共有して学びの総復習を行うことができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ウォーキング I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Walking & Posture I	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】
 大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】
 「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】
 人前にて実際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
5回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
7回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
11回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
12回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
13回目	ペアになってお互いのフォームを確認し、お互いにアドバイスをしあうことができる。
14回目	総まとめ 人前で一人ずつフォームを確認し、学びを意識しあいながらウォーキングができるようになっていくか評価する。
15回目	フィードバックを行い、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・入退出時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα ・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)

【使用教科書・教材・参考書】
 教科書は適時、配布
 持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ブライダルヘアメイク I Bridal Hair Make I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
(楠)化粧品メーカーに勤務し、その後メイク・フェイシャルエステプライベートサロン経営、美容歴32年。 JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA-shu uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。							
(酒井)美容部員を8年経てヘアメイクを13年勤めてきた。ブライダルヘアメイクや映画、映像CM、スチール撮影、舞台など様々な経験を積み現在に至る。							
【授業の学習内容】							
【メイク】 ブライダルのどの分野に携わってもヘアメイクの知識は必要不可欠。「メイクの基本理論」を学習。 まずは、自分自身の印象を左右する身だしなみメイクを学び、メイク実習を通して、道具の扱い方、接客ポイント等、花嫁様にアドバイスできる知識を学習する。							
【ヘア】 ブライダルヘアメイクとして必要な最低限の「ヘアの基礎知識と基礎技術」を学ぶ							
【到達目標】							
【メイク】 セルフメイク実習を通しメイク理論を学び、接客にふさわしい身だしなみができるようになる。身だしなみ好印象メイク・知識、接客力を身につける。							
【ヘア】 ブライダルに必要な基礎技術(カーラー巻きやピン打ちと逆毛)と基礎のデザインセットを最低限時間内にできるようになるまでを目指す。							

回数	授業計画・内容						
1回目	メイク	オリエンテーション) 授業の概要を理解し、美容道具の名称や衛生管理を学ぶようになる。 セルフメイク②(アイブロウ) アイブロウの基本を知識を知り、正しいバランスと自分に合ったアイテムで眉を描けるようになる。 セルフメイク③(アイシャドウ、アイライン、ビューラー、マスカラ) 基本知識、錯覚を学び、自分に合ったアイメイクに仕上げられるようになる。					
2回目	メイク	(自己分析) 顔の基本プロポーションを学び、自分自身がどのような印象なのかを知り、顔の印象を分析できるようになる。 (スキンケア) スキンケアのアイテムの違い等を学び、正しいスキンケアができるようになる。					
3回目	メイク	セルフメイク①(ベースメイク) コントロールカラー、ファンデーション、コンシーラーの基礎を知り、 様々なアイテムを使用して、ベースメイクを仕上げられるようになる。					
4回目	メイク	セルフメイク②(アイブロウ) アイブロウの基本を知識を知り、正しいバランスと自分に合ったアイテムで眉を描けるようになる。					
5回目	メイク	セルフメイク③(アイシャドウ、アイライン、ビューラー、マスカラ) 基本知識、錯覚を学び、自分に合ったアイメイクに仕上げられるようになる					
6回目	メイク	セルフメイク④(チーク・リップ) チークの基本ののせ方、錯覚理論を知り、顔のバランスを変える事ができるようになる。 リップの基本知識を知り、正しく塗る事が出来る。					
7回目	メイク	(セルフメイク総復習)これまでのポイントを活かし、基本バランスでセルフメイクを完成させられるようになる。					
8回目	メイク	基本のメイクの理解度を確認 印象に合わせたメイクプランシートを作成。					
9回目	ヘア	授業の概要美容道具の名称や衛生管理を学び、理解することができる。 基礎的なカーラー巻き、逆毛、ピン打ちを行う。					
10回目	ヘア	前回の技法を使いながら、前頭巻き・夜会巻きを学ぶ。					
11回目	ヘア	前頭巻き・夜会巻きの正確さを確認し、苦手なポイントを何度も繰り返して克服することができる。					
12回目	ヘア	夜会巻きの応用アレンジを学ぶ。					
13回目	ヘア	コテの正しい使い方ができているか確認チェックを行い、ペアになってそれぞれのヘアアレンジを行う①					
14回目	ヘア	コテの正しい使い方ができているか確認チェックを行い、ペアになってそれぞれのヘアアレンジを行う①					
15回目	ヘア	メイクとヘアメイク(夜会巻き)を行い、自分コーディネートを行って、上達を確認することができる。					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ブライダルヘアメイクⅡ Bridal Hair Make Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

(楠)化粧品メーカーに勤務し、その後メイク・フェイシャルエステプライベートサロン経営、美容歴32年。
JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA-shu uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

(酒井)美容部員を8年経てヘアメイクを13年勤めてきた。ブライダルヘアメイクや映画、映像CM、スチール撮影、舞台など様々な経験を積み現在に至る。

【授業の学習内容】

【メイク】ブライダルのどの分野に携わってもヘアメイクの知識は必要不可欠。「メイクの基本理論」を学習。
まずは、自分自身の印象を左右する身だしなみメイクを学び、メイク実習を通して、道具の扱い方、接客ポイント等、花嫁様にアドバイスできる知識を学習する。

【ヘア】ブライダルヘアメイクとして必要な最低限の「ヘアの基礎知識と基礎技術」を学ぶ

【到達目標】

【メイク】セルフメイクで学んだ基礎知識を基盤に、さらなるメイクの知識を深め、修正メイクやイメージメイクのデザイン作成等、お客様にアドバイス出来る知識を学習し、カウンセリングによるメイクアップが出来る。

【ヘア】ブライダルで必要な基礎技術(三つ編み、編み込み、アレンジ編み)、ポニーテール、お団子ヘアの基礎のデザインセットを最低限時間内にできるようにするまでを目指す。

回数	授業計画・内容	
1回目	メイク	イメージメイク理論① イメージメイクの理論を理解することができるようになる。 接客のためのセッティングが出来るようになる。(A4/バインダー要) 相モデルで顔分析・対極のメイクプランをシートに描く。どこに修正が必要かプランニング出来るようになる。
2回目	メイク	イメージメイク理論② 様々な顔型を理解し、ポイントメイク・チーク・ハイライト・ローライトで基本バランスに近づける事が出来るようになる。
3回目	メイク	イメージメイク理論③ キュートメイクを理解出来るようになる。 (※相モデル・メイクシート使用・ノーメイク着席)
4回目	メイク	イメージメイク理論④ エレガントメイクを理解出来るようになる。 (※相モデル・メイクシート使用・ノーメイク着席)
5回目	メイク	イメージメイク理論⑤ フレッシュメイクを理解出来るようになる。 (※相モデル・メイクシート使用・ノーメイク着席)
6回目	メイク	イメージメイク理論⑥ クールメイクを理解出来るようになる。 (※相モデル・メイクシート使用・ノーメイク着席)
7回目	メイク	(メイク編)相モデルで相手の要望に応えたメイクを完成させられるようになる。 (プレゼンテーション有)
8回目	ヘア	三つ編みの基本的な技法を学ぶことができる。
9回目	ヘア	三つ編みの基本的な技法を使いながら、応用編アレンジを学ぶことができる①
10回目	ヘア	三つ編みの基本的な技法を使いながら、応用編アレンジを学ぶことができる②
11回目	ヘア	正しいポニーテールを学ぶ。(おくれ毛の処理)
12回目	ヘア	ふんわりポニーテールを学び、大人らしいスタイリングをつくる事が出来る。
13回目	ヘア	基本なお団子ヘアを学ぶ。
14回目	ヘア	お団子ヘアのアレンジを学び、ナチュラルお団子スタイル、パーティーお団子スタイルをつくる事が出来る。
15回目	メイク ヘア	相モデルで三つ編み、ポニーテール、お団子ヘアを行うことができる。そのヘアに見合ったメイクを行い、コーディネートをする。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。	
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。	
【使用教科書・教材・参考書】		

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ブライダル基礎 I Bridal basic I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

株式会社ロイヤルホテルに入社。総支配人付アシスタントマネジャー、ゲストリレーションズ・ブライダル部プランナーとして勤務ののち、現在は、研修講師として活躍。新入社員研修や接客研修など担当し、「食べ方のマナー」の書籍も監修。産業カウンセラー・サービス接客検定1級・ビジネス実務マナー検定1級・メンタルヘルスケアマネジメントⅡ種保有。

【授業の学習内容】

ブライダルの幅広い知識の基礎を学びます。時代とともに移り変わる婚礼事情を理解し、多様化する婚礼スタイルやお客様のご要望に応えられる人材となります。全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称: JL検定)合格を目指します。

【到達目標】

講義中から、当たり前「感じの良い人」と感じていただける聴講姿勢を保ち、積極的に講義に参加することができる。
ブライダルの知識の基礎を理解し、検定試験に合格できる知識を身につけることができる。
人の話しを誠実に聴き、正しく理解し、自分の想いを論理的かつ的確に表現し、印象よく伝えることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	ブライダル基礎で学ぶ内容を理解できる。ブライダルの仕事には、どのようなものがあるのか理解できるようになる。
2回目	接客知識 良い接客を理解し、体現できるようになる。今後のあらゆる「聴く」「話す」「関わる」の中で、その知識を発揮できるようになる。
3回目	マナー 社会人として必要なマナーを理解し、実践できるようになる。学生から社会人へ移り変わる前に、正しい知識を正しく理解し、「わかる」だけでなく「できる」の習慣にすることができる。
4回目	ウェディングの種類 ウェディングの種類を理解し、説明できるようになる。専門用語も理解し、覚え、説明できるようになる。
5回目	ウェディングの歴史・現状とトレンド 古来からの流れを理解し、説明できるようになる。現状を理解し、トレンドを知ることができるようになる。
6回目	ファッションコーディネート・フォーマルファッション① 基本的なウェディングファッションの特徴と専門用語を理解することができるようになる。
7回目	ファッションコーディネート・フォーマルファッション② 基本的なウェディングドレスの特徴と専門用語を用いて、ドレスの特徴を感じよく説明することができるようになる。
8回目	カラーコーディネート 「色」の力を理解することができるようになる。理論的に「色」の世界を理解し、どのような色が自分や周りの人に似合うのか想像することができるようになる。
9回目	フラワーコーディネート ウェディングにおけるフラワー装飾について理解できるようになる。会場装花、ブーケなどについて理解し、説明できるようになる。
10回目	和装コーディネート 江戸時代から繋がる和装の婚礼衣装についての知識を理解することができる。専門用語を理解し、説明できるようになる。
11回目	フォトスタイリング ウェディングを映像に残す際に必要な知識、アattend方法、より魅力的に写すための知識を理解できるようになる。
12回目	カップルアattend 挙式・披露宴当日の新郎、新婦、ご親族さまなどの心情を理解し、的確なサポートを的確なときに、的確に実施するための知識を理解できるようになる。
13回目	結納、婚約の現状とトレンド 結納の意義やしきたり、婚約について理解し、説明できるようになる。
14回目	まとめと今後の課題理解 検定に向けて知識の復習(1～6回目)と自分の理解不足の部分を理解し、克服するためにどうしたらよいか理解できる。
15回目	まとめと今後の課題理解 検定に向けて知識の復習(7～13回目)と自分の理解不足の部分を理解し、克服するためにどうしたらよいか理解できる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 試験評価40% とする。 なお、この講義の試験内容は、筆記試験の点数とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
ブライダルの基礎知識・ブライダル雑誌・ドレス・衣装・ウェディングアイテム	

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ブライダル基礎Ⅱ Bridal basic Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
老舗ホテルのブライダル部にて、ブライダルプランナーとして婚礼施行に携わる。ホテル退職後、講師となり、短大、専門学校でのブライダル講義の実績多数。就職し、即戦力となりうる人材育成と、リアリティショックの起こらない実務的な指導を心がけている。							
【授業の学習内容】							
JL検定の合格を目指すことができる。 ・講義の中でも、実技演習を採り入れ、「知る」→「理解する」→「教えることができる」の流れで、理解の定着をはかる。							
【到達目標】							
・JL検定に合格できる知識を学習することができる。 ・資格取得に向けて、計画を立て、実行し目標達成するための方法を知ることができる。 ・ブライダルの基礎知識を知り、説明できるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【JL検定対策①】 ・結婚式についての概要を復習し、説明することができる。 ・挙式について理解を深め、説明することができる。						
2回目	【JL検定対策②】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・衣装についての知識を復習し、説明することができる。						
3回目	【JL検定対策③】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・色についての知識を復習し、説明することができる。						
4回目	【JL検定対策④】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・結納についての知識を復習し、説明することができる。						
5回目	【JL検定対策⑤】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・マナーについての知識を復習し、説明することができる。						
6回目	【JL検定対策⑥】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・フォーマルウェアについての知識を復習し、説明することができる。						
7回目	【JL検定対策⑦】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・JL検定で、良く出題されるが、間違いが多いポイントを知り、対策を講じることができる。						
8回目	【JL検定対策⑧】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・最近の業界事情について知ることができる。						
9回目	【JL検定直前対策】 ・これまでの過去問の結果を振り返り、自分の弱点を把握し、克服することができる。 ・出題範囲を総復習し、満点合格できる力を確認することができる。						
10回目	・ブライダルの現場でのトラブルやクレーム、感動のエピソードなどを知ることができる。 ・印象に残ったエピソードと自分だったらどうするかを具体的に考察し、発表することができる。						
11回目	【幅広い基礎知識理解①】 ブライダルの基礎知識をより多角的に確認し、理解を深めることができる。						
12回目	【幅広い基礎知識理解②】 ブライダルの基礎知識をより多角的に確認し、理解を深めることができる。						
13回目	【わかりやすく、印象の良い伝え方演習】 ・ロープレ演習によって、お客様に対して、身に付いた専門的知識をわかりやすくポイントを抑えて伝える方法を学び、演習することができる。						
14回目	模擬試験 模擬試験を行い、自分の理解度を確認することができる。						
15回目	【総復習】 ・自分が身に付いたブライダルの基礎知識を確認することができる。ロープレ演習によって、お客様に対して、どれだけわかりやすく、正確に説明できるか確認することができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(筆記試験評価)40%とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							
・ブライダルの基礎知識 ・講師作成プリント など							

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 ドレススタイリスト I Dress Stylist I	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め、婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいくことで、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

初めてブライダルの衣裳に触れて、着る喜びと着せる喜びを体感しながら、衣装の基礎知識を学ぶことでスタイリストとしての自信と希望を持つことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション(志望動機・自己紹介・生徒・講師) 授業内容を理解し、正しいドレスコーディネート目的をお互いに持つことができる。
2回目	ウェディングドレス試着 インナーを付けずに、好きなドレスを試着。実際の重さや構造を理解することができる。
3回目	インナーの選び方・何故必要か。 採寸して自分のサイズを知り、自分に合ったインナーを選ぶことができる。
4回目	インナーを付けてウェディングドレスを美しく着ることができる。 インナーの重要性を知る。ドレス画を描き、特徴をつかんでいるか確認することができる。
5回目	インナーを付けてイブニングドレスを美しく着ることができる。 付属のドレス小物もコーディネートする。ドレス画を描き、特徴をつかんでいるか確認することができる。
6回目	ドレスを着ての立ち振る舞いの体感(歩く・座る・ターン・チャペルを歩く)ご新婦様の気持ちが理解できる。
7回目	ドレスのボディー内側や裾周りを採寸することで、よりドレスの知識が深まる。
8回目	フォーマルについて(レディース)画像参考 正しいコーディネートを理解することができる。
9回目	フォーマルについて(メンズ)画像参考 正しいコーディネートを理解することができる。
10回目	メンズの衣裳の襟の形や小物を学ぶ・採寸等を学ぶことでより深く衣裳が理解できる。
11回目	ドレススタイリストとは？ ファーストアプローチやヒアリングの仕方・ドレスの選び方までの手順を学ぶことができる
12回目	「お日柄」について理解することができる。 (ブライダル業界では大切な知識であり・他業種の営業活動でも深く関わる)
13回目	今までの授業の総復習を行い、理解度を確認することができる①
14回目	今までの授業の総復習を行い、理解度を確認することができる②
15回目	提出したドレスデザイン画のフィードバックを行い、初回から今までの理解度を確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験60点 ・ドレス画2枚40点

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 ドレススタイリストⅡ	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
	Dress Stylist Ⅱ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			4	曜日/時限		

【担当教員、実務者経験】

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め、婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいくことで、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

初めてブライダルの衣装に触れて、着る喜びと着せる喜びを体感しながら、衣装の基礎知識を学ぶことでスタイリストとしての自信と希望を持つことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	今までの授業を受け、ドレスに触れてどの様に感じたか？ 自分の変化に気づき、ドレススタイリスト・ドレスコーディネートについて新しい目標を立てることができる。
2回目	テキストを見ず、美しくドレスを着せることができたかを確認する。 基本を確実に覚えることで着付けの自信に繋がる①
3回目	テキストを見ず、美しくドレスを着せることができたかを確認する。 基本を確実に覚えることで着付けの自信に繋がる②
4回目	復習としてフォーマルの知識(T・P・O)を確認しながら、イブニングドレスをジャストフィットに着付ける。 (ボディメイク・お直し・ヘアメイク)
5回目	ドレスのパーツ(ネックライン・お袖)お小物(ベール・ヘッド・グローブ・ブーケ)を学ぶ。
6回目	メンズの種類とメンズの採寸の方法を学ぶことは、メンズ衣装サイズを選ぶ為の必要な知識を身に付けることができる。
7回目	プロトコルに添ってメンズのコーディネートを考える。(グローバル社会に通用するマナーを身に付ける)
8回目	ドレスの内寸を測る(ドレスのサイズ確認が容易にできる。)
9回目	ドレスの裾さばき、歩き方、お辞儀の仕方・アテンドの仕方を理解することで花嫁のサポートに自信が持てる。 (ウェディングドレス・ベールも着ける)①
10回目	ドレスの裾さばき、歩き方、お辞儀の仕方・アテンドの仕方を理解することで花嫁のサポートに自信が持てる。 (ウェディングドレス・ベールも着ける)②
11回目	メンズのお直し(裾・袖丈)ができる(着てみる 小物も付ける)バランスの良いスタイリングが提案できる。
12回目	ドレスのスカートについてより理解を深める。
13回目	ウェディングドレスに関するマナーと風習(サムシングフォー)を理解することができる。
14回目	テーマに添ったウェディングドレスとメンズ衣装をコーディネートする。 1年間の学びを再確認できる。(グループワーク)
15回目	フィードバック(グループワークの評価・試験の解答・1年の反省を行い、進級時の目標を改めてたてる)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験60点 ・ドレス画2枚40点

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 ブライダルビジネス I Bridal business I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員_実務者経験】							
株式会社ニューバリューフロンティアへ入社後、専門式場・ゲストハウス・ホテルでウェディングプランナーを経験。 社内トレーナーを経て、現在は全国のウェディングプランナーへ新規接客における成約率アップのコンサルティングを担当。							
【授業の学習内容】							
現役ウェディングプランナーが学ぶ新規接客のカリキュラムをもとに、接客で新郎新婦の要望を聞き出し結婚式のご提案ができるようになることを目的として人材を育成します。学習方法は、座学による接客理論と、実践のロールプレイングを通じて学習します。							
【到達目標】							
新規接客において、新郎新婦のご要望を聞き出すことができるようになる。 そして、聞き出したご要望に対して、自分が持っている知識を用いて結婚式のご提案ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	婚礼施設における新規接客の重要性を理解することができる 新規接客プランナーに必要な要素を理解することができる
2回目	新郎新婦の購買心理を理解することができる 新規接客で大切なことと即決理論を理解することができる
3回目	即決をいただける新規接客の流れを理解することができる 好印象を持たれる自己紹介のオリジナルトークを作成する
4回目	好印象を持たれる名刺渡しと自己紹介ができるようになる(ロールプレイング) 新郎新婦のご要望を聞き出すヒアリングができるようになる①(ロールプレイング)
5回目	新郎新婦のご要望を聞き出すヒアリングができるようになる②(ロールプレイング)
6回目	新郎新婦へご提案するための知識を習得する 提案内容を、新郎新婦が理解できるように伝えることができる(ロールプレイング)
7回目	新郎新婦のご要望に対して、持っている知識を用いてご提案ができるようになる(ロールプレイング)
8回目	名刺渡しから提案までの一連の接客スキルを身につけることができる(ロールプレイング) 新規接客ヒアリングコンテストに向けた練習①(ロールプレイング)
9回目	新規接客ヒアリングコンテストに向けた練習②(ロールプレイング)
10回目	新規接客ヒアリングコンテスト(チームに分かれ、各チームから決勝トーナメントに進む1名を決定する)
11回目	新規接客ヒアリングコンテスト(決勝戦:チーム代表者がロールプレイングを行い、採点により優勝者を決定する)
12回目	コンテストの振り返りを行い、自己採点をした上で、成長ポイントを見つけることができる
13回目	成長ポイントを重点的にロールプレイングを行う
14回目	成長ポイントを重点的にロールプレイングを行う
15回目	特別講義～現場のプロからの実践アドバイス～
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ロールプレイング(名刺渡し)10% ・ロールプレイング(自己紹介)10% ・ロールプレイング(ヒアリング・ご提案)20%
【使用教科書・教材・参考書】	
株式会社ニューバリューフロンティアから提供されるプレゼンテーション資料	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 ブライダルビジネスⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Bridal businessⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			4	曜日/時限		
【担当教員、実務者経験】							
株式会社ニューバリューフロンティアへ入社後、専門式場・ゲストハウス・ホテルでウェディングプランナーを経験。社内トレーナーを経て、現在は全国のウェディングプランナーへ新規接客における成約率アップのコンサルティングを担当。							
【授業の学習内容】							
現役ウェディングプランナーが学ぶ新規接客のカリキュラムをもとに、会場のご案内方法やプレゼンテーション能力・表現力を身につけることを目的として人材を育成します。学習方法は、座学による接客理論と、実践のロールプレイングを通じて学習します。							
【到達目標】							
新規接客における挙式会場・披露宴会場のご案内方法や、重要なポイントを理解できる。 新郎新婦のご要望にあった会場のご案内ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	挙式会場で新郎新婦に感動していただくためのポイントを理解している
2回目	挙式会場をご案内するための、トークスクリプトを作成する
3回目	トークスクリプトを用いて挙式会場のご案内ができる①(ロールプレイング)
4回目	トークスクリプトを用いて挙式会場のご案内ができる②(ロールプレイング)
5回目	披露宴会場をご案内する際の重要なポイントを理解している
6回目	トークスクリプトを用いて披露宴会場のご案内ができる①(ロールプレイング)
7回目	トークスクリプトを用いて披露宴会場のご案内ができる②(ロールプレイング)
8回目	お客様のご要望に合わせた挙式会場のご案内ができる(ロールプレイング)
9回目	お客様のご要望に合わせた披露宴会場のご案内ができる(ロールプレイング)
10回目	ロールプレイングコンテスト実施(他己採点)し、一連の流れを体得できる
11回目	ロールプレイングコンテスト実施(他己採点)し、一連の流れを体得できる
12回目	コンテストの振り返りを行い、自己採点をした上で、成長ポイントを見つけることができる
13回目	成長ポイントを重点的にロールプレイングを行う
14回目	年間の振り返りを行い、学んだことの意味を考えることができる
15回目	特別講義～現場のプロからの実践アドバイス～
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ロールプレイング(表現力)20% ・ロールプレイング(新郎新婦の要望にあったご案内ができているか)20%
【使用教科書・教材・参考書】	
株式会社ニューバリューフロンティアから提供されるプレゼンテーション資料	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 MCTトレーニング I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員
	MC Training I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2	曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

ホテルやゲストハウス等にてブライダル司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。
CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事を多数こなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当。

【授業の学習内容】

社会人になると、話し方一つでその後の仕事が左右されることもある。
その重要な話し方を、腹式呼吸や滑舌などと共に、どのように話せば人に伝わりやすくなるのかを学習する。
同時に、プランナーとMCのかかわり方やMCの果たす役割を学び、人前式の司会者コメントを考えながら、現場での流れを知る。
社会人としての話し方も学習する。

【到達目標】

就活の面接や人前で話す時に、自信を持って話せる声や話し方ができるようになる。
ブライダルの現場で通用するように、人前式の流れを理解し、ブライダルコメントができるようになる。
社会人としての話し方・伝え方ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 自己紹介(動画撮影を行い、自分の話す姿、口調、表情を確認する) / 印象の良くなる話し方ができるようになる
2回目	腹式呼吸で相手へ届く声の出し方ができるようになる / プランナーとMCのかかわり方を理解できるようになる
3回目	一言一言の発声をしっかりとできるようになる / MCとしての結婚式における重要性を理解できるようになる
4回目	口周りのトレーニングをし、滑舌良く話すことができるようになる / 接客における敬語を話すことができるようになる
5回目	【発声・滑舌確認】 正しいアクセントで発声できるようになる / 人前式の流れを知り、理解できるようになる
6回目	強弱をつけて、より伝わりやすい話し方ができるようになる / 新郎新婦入場の司会コメントを考え、話すことができるようになる
7回目	間を意識した話し方で、伝えたいことが伝わる話し方ができるようになる / 開式の司会コメントを考え、話すことができるようになる
8回目	感情を込めて、心まで届く話し方ができるようになる / 誓いの言葉シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
9回目	台本台詞を使って、感情を込めた話し方ができるようになる① / 誓いのキスシーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
10回目	台本台詞を使って、感情を込めた話し方ができるようになる② / 指輪の交換シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
11回目	【感情を込めた話し方確認】 / 結婚誓約書シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
12回目	試験発表用の文章を考える / フラワーシャワー退場シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
13回目	試験発表のリハーサル / グループごとに人前式司会コメントを通して話すことができるようになる
14回目	1～13回目を振り返りながら、総復習発表を行い、撮影をして成長度を確認する。
15回目	話し方の総復習 / グループごとに人前式司会コメントを通して発表を行い、クラスメイト同士で総評を行う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験発表20% ・発声・滑舌テスト10% ・感情を込めた話し方テスト10%
【使用教科書・教材・参考書】	
レジュメ 筆記用具	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 MCTレーニングⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	MC Training Ⅱ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2		曜日/時限
【担当教員_実務者経験】							
ホテルやゲストハウス等にてブライダル司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。 CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事を多数こなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当。							
【授業の学習内容】							
前期で身に付けた話し方の基礎をもとに、就活やブライダルの現場を意識した伝え方を学習する。 同時に、プランナーとMCのかかわり方や、披露宴の司会者コメントを考えながら、披露宴の流れを知り、司会者としての話し方も学習する。							
【到達目標】							
就職活動や、その後の仕事現場で活かせる、「分かりやすく伝える話し方」「熱意が届く話し方」の技術を身に付ける。 ブライダルの現場で通用するように、披露宴の流れを理解し、いざという時に司会ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	アクセントを意識して話すことができるようになる / 披露宴の流れを理解し、開宴・新郎新婦入場の司会コメントができるようになる
2回目	自己PRをしっかりと伝えることができるようになる① / ウェルカムスピーチ・新郎新婦紹介の司会コメントができるようになる
3回目	【発表】自己PRをしっかりと伝えることができるようになる② / 主賓挨拶・乾杯のご発声の司会コメントができるようになる
4回目	志望動機を熱く伝えることができるようになる① / ケーキ入刀・ファーストバイトの司会コメントができるようになる
5回目	【発表】志望動機を熱く伝えることができるようになる② / 料理スタート・歓談・ご祝辞の司会コメントができるようになる
6回目	表現力をアップする① / 新婦中座・新郎中座の司会コメントができるようになる
7回目	表現力をアップする② / 祝電披露・プロフィールムービーの司会コメントができるようになる
8回目	グループディスカッションで論理的に伝えることができるようになる① / 再入場・テーブルラウンドの司会コメントができるようになる
9回目	グループディスカッションで論理的に伝えることができるようになる② / 余興・歓談タイムの司会コメントができるようになる
10回目	アドリブ力を向上する① / 新婦の手紙・ご両親への花束贈呈の司会コメントができるようになる
11回目	アドリブ力を向上する② / 両家代表挨拶・新郎謝辞の司会コメントができるようになる
12回目	プレゼンテーション① / 新郎新婦退場・サンクスムービー・お開きの司会コメントができるようになる
13回目	【発表】プレゼンテーション② / 試験用原稿の作成
14回目	ゲストとMCに分かれ、模擬結婚式のMC発表を行う。
15回目	14回目の動画を確認し、各自できるようになった部分を発表しあい、成長度を確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験発表40% ・授業内実技発表小テスト3回60%
【使用教科書・教材・参考書】	
レジュメ 筆記用具	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダルプランナーⅠ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Bridal Planner Ⅰ				60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	4	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

実践で役立つコミュニケーション能力、提案力、問題回避能力について学習し、幅広い提案ができるよう実践的なプランニングを学ぶ。また、プランナーとしての結婚式に対する考え方やプロ意識を身につけ、実践できる力をつける。

【到達目標】

基本的なプランナーの知識に加え、お客様のニーズを引き出すコミュニケーション能力、多様な状況に応じた判断力を身につけ、お客様の思いを形にするスキルを身につける。また、結婚式の知識を深め、一組一組に真摯に向き合い、尽力する姿勢や考え方を身につける。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)授業についての流れを理解する。ブライダル業界の現状について学ぶ。
2回目	(ブライダルの知識)ブライダルのしくみについて理解する
3回目	(ブライダルの知識)ホテルウェディングについて理解することができる。
4回目	(ブライダルの知識)ブライダルハウスウェディングについて理解することができる。
5回目	(ブライダルの知識)ウェディングにかかわる仕事について学ぶことができる。(職種への理解を深める)
6回目	(ブライダルの知識)ブライダルプランナーの仕事について理解することができる。
7回目	(結婚式とは)挙式の種類について理解することができる。(マナー、宗教に対する注意点)
8回目	(結婚式とは)挙式の流れについて理解することができる① 講義
9回目	(結婚式とは)挙式の流れについて理解することができる② 実践を行いながら学ぶ。(新郎新婦の立ち位置～MC～入場)
10回目	(結婚式とは)挙式の流れについて理解することができる③ 実践を行いながら学ぶ。(結婚誓約書朗読～署名～結婚成立宣言)
11回目	(結婚式とは)挙式の流れについて理解することができる④ 実践を行いながら学ぶ。(祝辞～新郎新婦退場～ゲスト退場～お見送り)
12回目	(結婚式とは)挙式の流れについて理解することができる⑤ 実践を行いながら学ぶ。(新郎新婦の準備、親族の準備)
13回目	(結婚式とは)挙式の流れについて理解することができる⑥ チームに分かれて一連の流れを実際に行う(練習)
14回目	(結婚式とは)挙式の流れについて理解することができる⑦ チームに分かれて一連の流れを実際に行う(発表)
15回目	1～28回目を学んで振り返り、理解不足な部分を共有し合ってさらに挙式に対する理解を深めていく。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダルプランナーⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Bridal PlannerⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

実践で役立つコミュニケーション能力、提案力、問題回避能力について学習し、幅広い提案ができるよう実践的なプランニングを学ぶ。また、プランナーとしての結婚式に対する考え方やプロ意識を身につけ、実践できる力をつける。

【到達目標】

基本的なプランナーの知識に加え、お客様のニーズを引き出すコミュニケーション能力、多様な状況に応じた判断力を身につけ、お客様の思いを形にするスキルを身につける。また、結婚式の知識を深め、一組一組に真摯に向き合い、尽力する姿勢や考え方を身につける。

回数	授業計画・内容
1回目	(振り返り)授業の振り返りを行い、今後の授業にどのようにつながっていくかを理解する。
2回目	(接客の基本)基本的な接客について理解する①(言葉使い・仕草・注意すべき動作・立ち位置・座る位置・やってはいけないこと)
3回目	(接客の基本)基本的な接客について理解する② 前回学んだ接客を確認し、理解度をチェックすることができる。
4回目	(接客の基本)基本的な接客について理解する③ 前回学んだ接客を確認し、理解度をチェックすることができる。(ロールプレイングにて講師評価あり)
5回目	(接客の基本)結婚式当日のアテンドについて必要事項、注意事項を学び、大切な日にかかわる重要性を理解することができる①
6回目	(接客の基本)結婚式当日のアテンドについて必要事項、注意事項を学び、大切な日にかかわる重要性を理解することができる② チームに分かれ、実践練習を行う。
7回目	(接客の基本)結婚式当日のアテンドについて必要事項、注意事項を学び、大切な日にかかわる重要性を理解することができる③ チームに分かれ、発表を行う。
8回目	(結婚式アテンド・進行)ゲストを迎え入れ、アテンドも重視しながらチームで人前式の流れを実践し、挙式の理解度をさらに深めることができる(Aチーム)
9回目	(結婚式アテンド・進行)ゲストを迎え入れ、アテンドも重視しながらチームで人前式の流れを実践し、挙式の理解度をさらに深めることができる(Bチーム)
10回目	(結婚式アテンド・進行)役割の振り返りを行い、プランナーはすべての役割とかわりを持っていることを理解することができる。
11回目	(新規接客①)新規接客の役割について理解する。
12回目	(新規接客②)新規接客の流れを理解する
13回目	(新規接客③)商品を理解し、新規顧客にアピールする方法を学ぶことができる。(ホテルウェディングについて)
14回目	(新規接客④)商品を理解し、新規顧客にアピールする方法を学ぶことができる。(ハウスウェディングについて)
15回目	(新規接客⑤)顧客とプランナーになって、ホテルorハウスウェディングをアピールしながら接客する。(ロールプレイングを通して総評を行う)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 リアルウェディング基礎 I	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
	Real Wedding basic I	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
2003年4月～2007年3月・美術大学 立体アート学科にて彫刻・空間デザイン作品の制作を行う。※文部省認定色彩検定1級取得 2007年4月～2011年11月・株式会社テイクアンドグヴィ・ニーズにてウェディングプランナー・チーフを経験／SHOTO GALLERY(渋谷)・青山迎賓館(表参道) 2011年11月～現在・株式会社スタイルズの創業に伴い、1号店THE STYLE・2号店KIYOMIZU京都東山のOPENに携わる。ブライダルオペレーションの構築と商品企画、 プランナー育成、会場設備のデザインなどを担当。2013年にヒューマンリソース室を立ち上げ、以降、主に採用や研修、評価制度などの構築・運営を担当。							
【授業の学習内容】							
①タイプの異なる相手と良好な関係を築くための基礎知識 ②ヒアリング・カウンセリングの基本テクニック ③コンセプトウェディングのベースとなる”ストーリー・テーマ”の設定方法							
【到達目標】							
①サービス業に携わる上で必用となる、コミュニケーション能力を身につける事を目的とし、主に、ヒアリングとパーソナルタイプに合わせた接客手法について学ぶ ロールプレイングを通じてヒアリングの基礎技術が習得出来るようになる ②コンセプトウェディングのベースとなる”ストーリー・テーマ”の設定が出来るようになる							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション:ブライダル業界でどの様に活躍したいか未来を想像することが出来るようになる ①講師自己紹介、②プランナーに求められる要素(時代の変化)、③自己紹介シート記入						
2回目	導入:1年後の”なりたい姿”に向け、達成までのプロセスを理解することが出来るようになる ①パーティ事例紹介、②年間カリキュラム説明、③授業に取り組む上での心得・お約束事						
3回目	ソーシャルスタイル基礎Ⅰ:コミュニケーションを取る上で相手を観察することが重要であることを理解出来るようになる ①ソーシャルスタイル診断、②各ソーシャルスタイルの特徴						
4回目	ソーシャルスタイル基礎Ⅱ:ソーシャルスタイルに合わせて自身の表現をどの様に変えていくべきか、”考える”ということが出来るようになっている ①各ソーシャルスタイルの特徴整理、③心地よいと感じる接客とは(タイプ毎に分析)						
5回目	クラスタ分析基礎Ⅰ:クラスタ(趣味趣向の属性)について理解出来るようになる ①クラスタ診断、②各クラスタの特性						
6回目	クラスタ分析基礎Ⅱ:クラスタに合わせて表現(伝え方)を変える必要があるということを理解出来るようになる ①クラスタ毎に響くワード・ビジュアルの具体的な事例						
7回目	カウンセリング:カウンセリングの目的と”本当の望みを知る”までの過程を理解することが出来るようになる ①同意形成、②意思を確認するための方法、③5W1Hのワーク						
8回目	ヒアリング:本当の望みを知るための基本的なヒアリング手法について学び、技術習得に向けて取り組むことが出来るようになる ①縦の質問・横の質問、②ロープレ						
9回目	カウンセリングロープレ:”縦・横の質問”を意識しヒアリングを行うことが出来るようになる ①ロープレ、②振り返り・総括						
10回目	プランニング:テーマウェディングを実現する上で必要な要素を理解出来るようになる ①プランニングとは、②パーティの構成要素、③カリキュラムの概要(プロジェクトブック完成までの主な講義内容)						
11回目	ストーリー・テーマ設定Ⅰ:ストーリー・テーマの作成にチャレンジが出来るようになる ①ストーリー・テーマの重要性、②事例紹介、③発表方法リリース						
12回目	ストーリー・テーマ設定Ⅱ:ストーリー・テーマの作成にチャレンジが出来るようになる ①ストーリー・テーマ作成(個人ワーク)						
13回目	ストーリー・テーマ設定Ⅲ:ストーリー・テーマの作成を行うことが出来るようになる ①ストーリー・テーマ作成(個人ワーク・フィードバック)、②発表(予選)						
14回目	ストーリー・テーマ設定Ⅳ:ストーリー・テーマの作成を行うことが出来る、またクラスメイトの発表を参考に語彙力を伸ばすことが出来るようになる ①発表(最優秀賞決定)、②振り返りテスト、③総括						
15回目	振り返りを行い、プランナーにとって大切なことをグループワークで話し合い、理解度を共有し合う。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席率50%+授業態度評価10%+技術評価40% なお、本授業における技術評価は以下の割合にて行う ※技術評価内訳・ストーリー・テーマ発表(20%)、筆記テスト(20%)						
【使用教科書・教材・参考書】							
筆記用具							

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 リアルウェディング基礎Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Real Wedding basic Ⅱ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

2003年4月～2007年3月・・・美術大学 立体アート学科にて彫刻・空間デザイン作品の制作を行う。※文部省認定色彩検定1級取得
 2007年4月～2011年11月・・・株式会社テイクアンドグヴ・ニーズにてウェディングプランナー・チーフを経験／SHOTO GALLERY(渋谷)・青山迎賓館(表参道)
 2011年11月～現在・・・株式会社スタイルズの創業に伴い、1号店THE STYLE・2号店KIYOMIZU京都東山のOPENに携わる。ブライダルオペレーションの構築と商品企画、プランナー育成、会場設備のデザインなどを担当。2013年にヒューマンリソース室を立ち上げ、以降、主に採用や研修、評価制度などの構築・運営を担当。

【授業の学習内容】

2年生で実施が予定されている”リアルウェディング”に向けて、プロジェクトブック(企画書)を使ったパーティ提案が出来るようなプランナーを目指します。
 プロジェクトブックの作成と接客ロールプレイングを通じ、プランニング力(企画力)・プレゼンテーション力(提案力)を強化しましょう。

【到達目標】

- ①お客様の潜在的なニーズを汲み取り、それをプランニングに活かすことが出来るような企画力を身につける
- ②プロジェクトブックを使ったオリジナルウェディングの提案が出来るようになる
- ③接客ロールプレイングを通じてお客様のソーシャルスタイル&クラスタに合わせたプレゼンテーションが出来るようになる

回数	授業計画・内容
----	---------

1回目	カラーコーディネート基礎: テーマカラーを設定する際に意識すべきポイントを理解出来るようになる ※「新配色カード199a」のり・はさみを使用します ①カラーコーディネート基礎知識(PCCS、色相・明度・彩度、トーン)、②カラーコーディネート実践
2回目	画像選定基礎: 画像選定を行う際の基本的な判断基準を理解出来るようになる ①選定方法(検索方法、トーン・トリミングの仕方など)、②フォントの重要性、③プロジェクトブック課題発表、④ストーリー作成
3回目	プロジェクトブック作成Ⅰ: クラスタ(趣味趣向)・パーティテーマに合わせたプロジェクトブックが作成出来るようになる ①ストーリー完成、②コンセプトメイク、③テーマカラー選定、④画像選定
4回目	プロジェクトブック作成Ⅱ: クラスタ(趣味趣向)・パーティテーマに合わせたプロジェクトブックが作成出来るようになる ①コンセプト決定、②テーマカラー決定、③画像選定、④プロジェクトブック作成
5回目	プロジェクトブック作成Ⅲ: クラスタ(趣味趣向)・パーティテーマに合わせたプロジェクトブックが作成出来るようになる ①画像選定、②プロジェクトブック作成
6回目	プロジェクトブック作成Ⅳ: クラスタ(趣味趣向)・パーティテーマに合わせたプロジェクトブックが作成出来るようになる ①画像選定、②プロジェクトブック作成(仮完成) ※提出前チェック
7回目	プロジェクトブック作成Ⅴ: クラスタ(趣味趣向)・パーティテーマに合わせたプロジェクトブックが作成出来るようになる ①プロジェクトブック完成 ※プロジェクトブック提出
8回目	プレゼンテーションの基礎Ⅰ: 企画をより魅力的に伝える為の手法を理解できている ①プレゼンテーションの構成(PREP法)、②お客様の性格特徴に合わせたプレゼンテーション、③シナリオ作成
9回目	プレゼンテーションの基礎Ⅱ: 企画をより魅力的に伝える為の手法を意識しながら接客台本作成にチャレンジ出来るようになる
10回目	①シナリオ完成、②個人ロープレ(⇒シナリオ修正) ※シナリオ提出
11回目	プレゼンテーションの基礎Ⅲ: 企画をより魅力的に伝える為の手法を意識しながら接客のロールプレイングに取り組むことが出来るようになる ①チームロープレ
12回目	プレゼンテーションの基礎Ⅳ: 企画をより魅力的に伝える為の手法を意識しながら接客のロールプレイングに取り組むことが出来るようになる
13回目	①チームロープレ ※ロープレフィードバック
14回目	プレゼンテーションの基礎Ⅴ: 企画をより魅力的に伝える為の手法を意識しながら接客のロールプレイングに取り組むことが出来るようになる ロープレ ※ロープレフィードバック
15回目	クラス内発表: プロジェクトブックを使ったパーティ提案が出来るようになる ①クラス内発表、②フィードバック

評価基準
 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
 出席率50%+授業態度評価10%+技術評価40%
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にて行う
 ※技術評価内訳・プロジェクトブックを使った提案(20%)、筆記テスト(20%)

【使用教科書・教材・参考書】

①新配色カード199a、②のり(スティックまたはテープがおすすです)、③はさみ、④筆記用具、⑤USBまたはSDカード(画像を扱いますので8G以上をおすすめします)
 *最優秀賞を獲得した学生は、2/5(金)にWE ARE JSHのプレゼン大会に向けた練習を行う予定となっております。

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 シュウウエムラ メイクアップ I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当 教員	
	shu uemura makeup I	授 業 形 態	講 義 演 習	総時間 (単位)	60	開講 区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/ 時限	

【担当教員_実務者経験】

アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。
シュウウエムラ認定講師、JMA日本メイクアップ技術検定協会認定講師、AFT認定色彩講師、東商1級カラーコーディネーター。

【授業の学習内容】

世界最大の化粧品会社ロレアルグループに属するブランド『shu uemura』のシグネチャーメソッドを習得する。
検定試験合格を目指す。

【到達目標】

幅広い現場で活躍できるブライダルヘアメイクアーティストやスタイリストとして必要なメイクアップの知識と技術の向上を図る。
また、“美”を提供するプロとして必要なマナーや身だしなみ、立ち居振る舞いを身に着ける。
shu uemuraのシグネチャーメソッドを習得し、shu uemuraが認めるメイク技術ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(セルフメイク)自分の顔を通してメイクの基本テクニックが分かるようになる (オリエンテーション)シュウウエムラとは、検定概要、セッティング①
2回目	(ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる① なぎなた削りのテクニックを学ぶ。
3回目	(ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる② 前回の復習を行い、手が覚えるまで繰り返す。
4回目	(ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる③ なぎなた削りの実践試験 (評価1回目)
5回目	(ベースメイク)ベースメイク 計測して目標値を目指す① (リップ&アイシャドウ)リップメイク&アイシャドウ1色グラデーションができるようになる
6回目	(ベースメイク)ベースメイク 計測して目標値を目指す② 前回のタイムとの評価を各自で行う (リップ&アイシャドウ)リップメイク&アイシャドウ1色グラデーションができるようになる
7回目	(アイメイク&チーク)アイメイク、チークができるようになる① shuハードフォーミュラ配布、アイブロウ&リップ復習
8回目	(アイメイク&チーク)アイメイク、チークができるようになる② shuハードフォーミュラ配布、アイブロウ&リップ復習確認テストを行い、苦手なポイントを理解し、今後の課題とする
9回目	(ポイントメイククレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったポイントメイククレンジングができるようになる① 正しいセッティングができるようになる①
10回目	(ポイントメイククレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったポイントメイククレンジングができるようになる② 正しいセッティングができるようになる②
11回目	(ベースクレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったベースクレンジングができるようになる ポイントクレンジング復習、 なぎなた削りの実践試験 (評価2回目)
12回目	(確認試験①)試験内容: モデルセッティング~手指消毒~ベースメイク_12分 今までのメイクのポイントが試験の基準通りに行えているか確認を行う。ポイントメイクのブラッシュアップを行う。
13回目	(確認試験①)試験内容: モデルセッティング~手指消毒~スキンケア_18分 ベースメイク 計測して目標値を目指す、 ポイントメイクのブラッシュアップ
14回目	(トータルレッスン)シグネチャーメソッドがトータルでできるようになる(計測して目標値を目指す) 試験&検定ペア組み
15回目	(トータルレッスン)シグネチャーメソッドがトータルでできるようになる(計測して目標値を目指す) 試験&検定ペア組み
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎なぎなた削りの完成度_10% ◎試験_90%

【使用教科書・教材・参考書】

シュウウエムラテキスト、メイク道具一式、フェイスシールド、携帯用の手指消毒剤、筆記用具

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 セルフメイク I self make I	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	

【担当教員 実務者経験】

大手美容室での長年の勤務にて、関西コレクション、TGCなどコレクションのヘアメイク経験とブライダルでのヘアメイク、他の美容師さんへの講師などの経験を生かし今に至る。

【授業の学習内容】

花嫁に頼りにされるプロのブライダルプランナーとして、自分自身を綺麗に整えることは、とても大切です。まず、自身の看板となる顔を分析しその個性を知る。次に基本のメイク知識と技術を部分ごとに学び、誰からも好印象を持ってもらえる自分自身のメイクアップ方法を学習する。

【到達目標】

プロのドレススタイリストとしての身だしなみメイク、花嫁やお客様から好印象を持ってもらえるメイクができるようになる。また、提案や接客にも活かせるメイクの基礎知識が身につく。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) 授業の内容を理解し、セルフメイクに対しての目標を立てることができる。メイクに必要な化粧品や道具を知る。
2回目	現在の各自のメイク方法について分析をする。 ・どんなメイクを見本にしたか、どこで学んだか、正しいメイクを理解する必要性を知ることができる。
3回目	(顔を知る、ベースメイク1)顔分析をし、自分自身の顔が持つ個性を知ることができる。他人と顔の骨格の違いを知ることができる。 ・化粧水・化粧下地 ☆定規持参
4回目	(顔を知る、ベースメイク2)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる。 ・化粧下地 ☆定規持参
5回目	(ベースメイク2)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ・化粧下地 ・ファンデーション(様々なメーカーのファンデーションを使ってそれぞれのコスメの特徴を理解することができる)
6回目	(ベースメイク3)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ・フェイスパウダー (様々なメーカーのフェイスパウダーを使ってそれぞれのコスメの特徴を理解することができる)
7回目	(ベースメイク4)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ・コントロールカラー ・コンシーラー(様々なメーカーのコントロールカラー、コンシーラーを使ってそれぞれのコスメの特徴を理解することができる)
8回目	(ベースメイク5)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ・ベースメイク復習を行い、理解度を確認することができる。 ・自分の眉の形を確認し、自分にあったアイブローの方法を理解する。
9回目	(ベースメイク6)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ・自分の眉の形を確認し、普段と違った印象にするため、アイブロウの書き方に変化をつける。
10回目	(ベースメイク7)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ベースメイク応用 ・シェーディングを行い、立体感を見せるメイクの方法を習得することができる。
11回目	(ベースメイク8)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ベースメイク応用 ・ハイライト・アイブロウ・ノーズシャドウを学び、光を集めやすいメイク、立体感を見せるメイクの方法を習得することができる。
12回目	(ベースメイク9)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになる ベースメイク応用 ・ツヤ肌・アイブロウ
13回目	(ベースメイク10)肌を保護し美しく見えるベースメイクができるようになるベースメイク応用 ・ツヤ肌・アイブロウ
14回目	(アイメイク1)自分にあった印象的な目に仕上げるアイメイクができるようになる ・アイシャドウ ・アイライン ・マスカラ
15回目	(アイメイク2)一重、二重のアイメイクができるようになる ・アイシャドウ ・アイライン ・マスカラ
16回目	前期で学んだ授業をいかして、ベースメイクを行い、1回目の授業で撮影した自分のメイクからどのような変化が見られたかを確認する。
17回目	(リップ、チーク①) 美しい口元、健康的な顔を演出することができるようになる
18回目	(リップ、チーク②) リップの色をチェンジし、自分の雰囲気の違いを確認し、似合う色、TPOに合わせて用途を変えることができる。
19回目	(カラーメイク①)トレンドを知ることができる。艶メイクを学ぶ。
20回目	(カラーメイク②)トレンドを知ることができる。マットなメイクを学ぶ。
21回目	(カラーメイク③)トレンドを知ることができる。韓国風のメイクを学ぶ。
22回目	(フルメイク1)メイクで自分のイメージをコントロールすることができる ・「綺麗」大人イメージメイク
23回目	(フルメイク2)メイクで自分のイメージをコントロールすることができるようになる ・「ふんわり、穏やか」可愛いイメージ系メイク
24回目	(フルメイク3)メイクで自分のイメージをコントロールすることができるようになる ・「クール」イメージメイク
25回目	(フルメイク4)メイクで自分のイメージをコントロールすることができるようになる ・「就活」メイク
26回目	今までのメイクを習得した上で、学生時のメイクとお仕事に適したメイクの違い・注意点をグループワークを行うことで理解・発見をすることができる。
27回目	確認課題① オフィスカジュアルな服装(スカート)を着用の上、見合ったメイクができるか確認することができる。
28回目	確認課題② オフィスカジュアルな服装(パンツ)を着用の上、見合ったメイクができるか確認することができる。
29回目	確認課題③ ブラックスーツを着用の上、見合ったメイクができるか確認することができる。
30回目	今まで授業で学んできた学びをいかし、トレンドメイクの応用を学ぶ。 初回授業時の写真を用いて、変化を見比べる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50%+授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は下記のとおりとする。 ・課題提出20% ・前期試験80% ・レポート提出
【使用教科書・教材・参考書】	
メイク道具一式、セルフメイクのテキスト、筆記用具	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタ ディ】 ドレススタイリスト I Dress Stylist I	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科					曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

初めてブライダルの衣裳に触れて、着る喜びと着せる喜びを体感しながら、衣装の基礎知識を学ぶ事でスタイリストとしての自信と希望を持つ事が出来る

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション(志望動機・自己紹介・生徒・講師) 授業内容を理解し、正しいドレスコーディネート目的をお互いに持つことができる
2回目	ウェディングドレス試着 インナーを付けずに、好きなドレスを試着。実際の重さや構造を理解することができる。
3回目	インナーの選び方・何故必要か 採寸して自分のサイズを知り、自分に合ったインナーを選ぶ事が出来る
4回目	インナーを付けてウェディングドレスを美しく着る事が出来る インナーの重要性を知る。ドレス画を描き、特徴をつかんでいるか確認することができる
5回目	インナーを付けてイブニングドレスを美しく着る事が出来る。 付属のドレス小物もコーディネートする。ドレス画を描き、特徴をつかんでいるか確認することができる
6回目	ドレスを着ての立ち振る舞いの体感は、(歩く・座る・ターン・チャペルを歩く)ご新婦様の気持ちが理解出来る。
7回目	ドレスのボディー内側や裾周りを採寸する事で、よりドレスの知識が深まる。
8回目	フォーマルについて(レディース)画像参考 正しいコーディネートを理解することができる。
9回目	フォーマルについて(メンズ)画像参考 正しいコーディネートを理解することができる。
10回目	メンズの衣裳の襟の形や小物を学ぶ・採寸等を学ぶ事で寄り深く衣裳が理解出来る。
11回目	ドレススタイリストとは？ ファーストアプローチやヒアリングの仕方・ドレスの選び方までの手順を学ぶことができる
12回目	「お日柄」について理解することができる。 (ブライダル業界では大切な知識であり・他業種の営業活動でも深く関わる)
13回目	今までの授業の総復習を行い、理解度を確認することができる①
14回目	今までの授業の総復習を行い、理解度を確認することができる②
15回目	提出したドレスデザイン画のフィードバックを行い、初回から今までの理解度を確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合で行う。 ・試験60点 ・ドレス画2枚40点
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタ ディ】 ドレススタイリストⅡ Dress Stylist Ⅱ	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、
桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。
その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。
「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

初めてブライダルの衣裳に触れて、着る喜びと着せる喜びを体感しながら、衣装の基礎知識を学ぶ事でスタイリストとしての自信と希望を持つ事が出来る

回数	授業計画・内容
1回目	今までの授業を受け、ドレスに触れてどの様に感じたか？自分の変化に気づき、ドレススタイリスト・ドレスコーディネートについて新しい目標を立てることができる。
2回目	テキストを見ず、美しくドレスを着せる事ができたかを確認する。 基本を確実に覚える事で着付けの自信に繋がる①
3回目	テキストを見ず、美しくドレスを着せる事ができたかを確認する。 基本を確実に覚える事で着付けの自信に繋がる②
4回目	復習としてフォーマルの知識(T・P・O)を確認しながら、イブニングドレスをジャストフィットに着付ける。 (ボディメイク・お直し・ヘアメイク)
5回目	ドレスのパーツ(ネックライン・お袖)お小物(ベール・ヘッド・グローブ・ブーケ)を学ぶ。
6回目	メンズの種類とメンズの採寸の方法を学ぶ事は、メンズ衣裳サイズを選ぶ為の必要な知識を身に付けることができる。
7回目	プロトコールに添ってメンズのコーディネートを考える。(グローバル社会に通用するマナーを身に付ける)
8回目	ドレスの内寸を測る(ドレスのサイズ確認が容易に出来る。)
9回目	ドレスの裾さばき、歩き方、お辞儀の仕方・アテンドの仕方を理解する事で花嫁のサポートに自信が持てる。(ウェディングドレス・ベールも着ける)①
10回目	ドレスの裾さばき、歩き方、お辞儀の仕方・アテンドの仕方を理解する事で花嫁のサポートに自信が持てる。(ウェディングドレス・ベールも着ける)②
11回目	メンズのお直し(裾・袖丈)ができる(着てみる 小物も付ける)バランスの良いスタイリングが提案出来る。
12回目	ドレスのスカートについてより理解を深める。
13回目	ウェディングドレスに関するマナーと風習(サムシングフォー)を理解することができる。
14回目	テーマに添ったウェディングドレスとメンズ衣裳をコーディネートする。 1年間の学びを再確認出来る。(グループワーク)
15回目	フィードバック(グループワークの評価・試験の解答 ・1年の反省を行い、進級時の目標を改めてたてる)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合で行う。 ・試験60点 ・ドレス画2枚40点

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)

授業シラバス

科目名 (英)	【コミュニケーションⅠ】 コアマネジメントアドヴァンスⅠ Core Management AdvanceⅠ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科	プライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構 認定トレーナー。
 ヨガのインストラクターをしており、井上由美先生の元で学び、その学びをヨガに取り入れて新しい形のヨガを一人でも多くの方に広められるように邁進しております。
 気質とNLPの学びを通し、社会で生きていくためのスキルをお伝えいたします。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。
 オンラインの授業とリアル授業をミックスした形態で学んでいく事でインプットしたスキルを直ぐに実践し身につけることができる。

【到達目標】

フォートロジー® NLP、言語学を学び全てを使えるようになりよりコミュニケーションを豊かにし社会人になった時あらゆる人に対応できるようになる。
 そして人生を豊かにするスキルを身につけることができる。

回数	授業計画・内容		
1回目	(オリエンテーション)フォートロジー® 自分の第1の扉の見直し	16回目	実際にキャッチコピーを作ったものを発表しましょう
2回目	自分の中にある4タイプの中で少ないエネルギーでも活かすことができる	17回目	あなたは変化を好むタイプ？好まないタイプ？変化に対する意識の言語がわかるようになる
3回目	4タイプの相性を知って恋愛も人間関係も豊かにすることができる①	18回目	あなたは秩序を守るタイプ？ルールを守らないタイプ？ 考えてから動くタイプ？即行動タイプ？ 行動パターンの言語がわかるようになる
4回目	4タイプの相性を知って恋愛も人間関係も豊かにすることができる②	19回目	「質の高いコミュニケーション 影響力を発揮する自分自身になる ということ」
5回目	4タイプ別の接客の極意を知ってスーパーアドバイザーになることができる①	20回目	フォートロジー®×言語を使った復習①
6回目	4タイプ別の接客の極意を知ってスーパーアドバイザーになることができる②	21回目	フォートロジー®×言語を使った復習②
7回目	実際に4タイプの相性に合わせてコミュニケーションがとれるようになる	22回目	フォートロジー®×言語を使った復習③
8回目	実際に4タイプに合った接客ができるようになる	23回目	実際にフォートロジー®×言語を使って寸劇をしてみましょう①
9回目	4タイプそれぞれモチベーションが上がる指導と下がる指導を知ることができる	24回目	実際にフォートロジー®×言語を使って寸劇をしてみましょう②
10回目	4タイプへのノルマへの反応を知ることができる	25回目	「企業から必要とされるインクルージョン人材とは？」 それぞれの強みを掛け合わせて強いチームを作る
11回目	「気質の4タイプを活かしてシナジーを生み出そう！」 シナジーの生み出し方 1+1が2ではなく、10、100、1000の総和になる為には、...	26回目	学んだことを活かしたホスピタリティコミュニケーションを実践できる
12回目	今まで使ってきた自分自身の言語を知りオールマイティーに伝えられるようになる	27回目	総復習:この授業の今後の活かし方を理解することができる
13回目	あなたは目的地最優先タイプ？事故渋滞脱出タイプ？モチベーションが上がる言語が分かるようになる	28回目	脳の取り扱い方法を更に知ることができる。 そして学習の何段階を目指すのかを決める
14回目	あなたは自分で決めるタイプ？他人タイプ？判断基準の言語がわかるようになる	29回目	気づきから可能性を見出すことができる
15回目	順序立てて話すことができるようになる	30回目	将来の目標設定を立てましょう

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・テスト演習50%
 ・課題の提出率および完成度50%

【使用教科書・教材・参考書】

・テキスト①マネジメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構 ②禁断の気質学 ③別冊
 ・筆記用具(プロッキーマジック) ・ポストイット(7, 5×12, 7サイズ)

授業シラバス

科目名 (英)	【コミュニケーションⅠ】 コアマネージメントアドヴァンスⅡ Core Management Advance Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
<p>一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 認定トレーナー。 ヨガのインストラクターをしており、井上由美先生の元で学び、その学びをヨガに取り入れて新しい形のヨガを一人でも多くの方に広められるように邁進しております。 気質とNLPの学びを通し、社会で生きていくためのスキルをお伝えいたします。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。 それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。 この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。</p>							
【到達目標】							
<p><コアマネージメント> 人による言葉の違いと効果的な使い方を理解し、相手の心にきちんと届く言葉を効率よく活用することができる。 <気質学> 生まれ持っている人間の4つのエネルギーバランスから、人との接し方を理解し、「場に合わせた行動」を実践することができる。</p>							
回数	授業計画・内容						
1回目	前期復習 気質学の学びについて復習し、自己の理解度を確認することができる	16回目	効果的な質問： 自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(1)				
2回目	前期復習 コアマネージメントの学びについて復習し、自己の理解度を確認することができる	17回目	バリュー： 自分の内面とコミュニケーションをとって、自分自身を知ることができる(2)				
3回目	～顧客に愛され続けるホスピタリティサービス～ 顧客の価値を最大化し明確に課題解決する力を養い、使えるようになる	18回目	言語モデル： 心理的に作用する言語の組み立て方を理解することができる(1)				
4回目	存在の承認： 自分にとって良い助言者の存在やスポンサーシップを理解することができる	19回目	～学校型思考から職場型思考へ～ 私たちが企業で成果・結果を創り出す上で必要なリーダーとしての資質を理解し、使えるようになる				
5回目	言語学を学ぶ前に 自分の言語学テスト結果の見方を理解することができる	20回目	イエスセット： 心理的に作用する言語の組み立て方を理解することができる(2)				
6回目	ナビゲーション： 言語による捉え方の認識スタイルを理解することができる	21回目	たとえ話の作り方： たとえ話を使って、相手に気付を与える方法を理解することができる				
7回目	～Win-Winを考える-シナジーを生み出す最強のチームビルディング～ 互いを支援し、目標達成する力を養い、使えるようになる	22回目	ネステッド・ループ： 心理に働きかけるプレゼンテーションの手法を理解することができる(1)				
8回目	決めごとフレーム： 言語による判断の認識スタイルを理解することができる	23回目	ネステッド・ループ： 心理に働きかけるプレゼンテーションの手法を理解することができる(2)				
9回目	アプローチ法： 言語によるアプローチの仕方の認識スタイルを理解することができる	24回目	アウトカムの設定と宝地図作成： 目標を設定し、具体的にヴィジュアル化することができる(1)				
10回目	ギャップ対応： 言語による変化の捉え方の認識スタイルを理解することができる	25回目	後期試験対策				
11回目	ポリシー： 言語によるポリシーの認識スタイルを理解することができる	26回目	～ボスマネジメント～ 私たちが企業で上司・同僚から応援される人財になる為に必要なポイントを理解し、上司、部下との円滑なコミュニケーションができるようになる				
12回目	～成果を生み出す目的の考え方と目標の作り方～ 現場の目的をぶらさずに目標を構築する上で必要な考え方を理解し、目標設定ができるようになる	27回目	総復習：この授業の今後の活かし方を理解することができる(1)				
13回目	行動方法： 言語による行動方法の認識スタイルを理解することができる	28回目	総復習：この授業の今後の活かし方を理解することができる(2)				
14回目	言語による認識スタイルのまとめ	29回目	アウトカムの設定と宝地図作成： 目標を設定し、具体的にヴィジュアル化することができる(2)				
15回目	モデリング： まねることから始め、なりたい自分になる方法を活用することができる	30回目	1年間のまとめ				
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習50% ・制作課題の提出率完成度50%						
【使用教科書・教材・参考書】							
<p>・マネージメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネージメント機構 ・禁断の気質学 ・言語テスト診断結果(10/19～) ・特別授業のテキスト(特別授業受講時) ・ノート ・筆記用具(ブロックマジャック) ・ポストイット(7, 5×12, 7サイズ)</p>							

授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティヒューマンスキルⅠ】 パーソナルカラーコンサルテーションⅠ Personal Color Consultation I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
約30年間、カラー&イメージコンサルタントとしてパーソナルカラー診断、カラーコーディネート講座、テーブルコーディネート講座などを開催。 2020年全日本ブライダル協会ブライダルトップセミナー、ブライダル養成講座カラーコーディネート講師							
【授業の学習内容】							
ブライダルの現場では色彩が様々な商品に深く関与しており、色彩に関する提案力が求められる。本授業では、目的に合ったカラー提案ができることを目標に色彩理論とパーソナルカラー理論の基本を学習する。							
【到達目標】							
基礎的な色彩理論・パーソナルカラー理論を理解し、実習・課題制作などを行うことで、表現したいイメージに合うカラーコーディネートを提案できるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	(概要と必要性、パーソナルカラーの歴史) パーソナルカラーコンサルテーションと人間、環境との関わり、歴史を理解できるようになる
2回目	(色彩の基礎) 色彩の基礎知識を学び、自分の身の回りの色に対する理解が深まる。
3回目	(色彩の基礎) 代表的な色の持つ心理効果やイメージを学び、目的に合った適切な色選びができるようになる。
4回目	(色彩の基礎とコーディネート) トーン配色の基礎を学び、表現したいイメージに対する適切な色選びができるようになる。
5回目	(課題制作) イメージシートの制作を通じて色彩の基礎・トーン配色の理解が深まり自分が表現したいイメージのカラーコーディネートができるようになる
6回目	(パーソナルカラー1) パーソナルカラーの4シーズン理論を学び肌・眼・髪の色の特徴からシーズン分析の基本を理解する
7回目	(パーソナルカラー2) 基礎的なパーソナルカラー4シーズン理論に基づいた色彩の説明ができるようになる
8回目	1～7回目の復習を行い、理解度をさらに深めることができる。
9回目	(ドレーピングのテクニック) ドレーピングを始める注意点と着眼点を理解し、基礎的なカラー診断ができるようになる
10回目	(カラーコーディネート) パーソナルカラー理論を生かして、カラーコーディネートの提案ができる
11回目	(カラーコーディネート) パーソナルカラーとフォトリロジーをいかして、イメージに合ったカラーコーディネートができるようになる
12回目	(課題制作・発表) イメージシートを制作し、色彩の基礎とパーソナルカラー理論を用いてカラーコーディネート提案ができるようになる
13回目	(課題制作・発表) 色彩の基礎とパーソナルカラー理論を用いて指定されたイメージのカラーコーディネート提案ができるようになる
14回目	色彩とパーソナルカラー理論の基礎知識の理解度を確認する
15回目	総復習 これまでに学習した内容を活用し、お客様に対して基本的なカラーコンサルテーションができるようになる

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験結果 40% ・課題・レポートの提出率及び完成度 60%

【使用教科書・教材・参考書】	
パーソナルカラーコンサルテーション ベーシック(社)国際ライセンスマネジメント機構 参考図書ブライダルの基礎知識 カラーカード(新配色カード199a)日本色研 制作物用白い用紙 カラードレープ(学校備品および講師私物持参) ※パワーポイントスライド利用予定のため、PC、プロジェクタなど ※その他授業にて指示があったもの	

授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティヒューマンスキルⅠ】 パーソナルカラーコンサルテーションⅡ Personal Color Consultation II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

約30年間、カラー&イメージコンサルタントとしてパーソナルカラー診断、カラーコーディネート講座、テーブルコーディネート講座などを開催。
2020年全日本ブライダル協会ブライダルトップセミナー、ブライダル養成講座カラーコーディネート講師

【授業の学習内容】

ブライダルの現場では、お客様のタイプとニーズに合わせた幅広い提案力が必要とされる。本授業では、1年次で学んだ色彩学とパーソナルカラー分析の基本を生かし、顧客満足度の高いカラーの提案など、実践的なカラーコーディネートを学ぶ。

【到達目標】

基礎的な色彩理論・パーソナルカラー理論を身に着け、実習・課題制作などを行い、顧客満足度の高いイメージ表現・カラーコーディネートを提案できるようになることを目標とする。

回数	授業計画・内容
1回目	(概要・確認)前期に学んだ色彩理論の復習によって理解度を再確認する
2回目	(色彩の基礎) 代表的な色の持つ心理効果やイメージを確認し、目的に合った適切な色選びができるようになる。
3回目	(配色の基本) 配色の基本を復習し、表現したいイメージに対する適切な色選びができるようになる。
4回目	(webの色彩知識と実践)web上で用いられる色彩の知識を学び、アプリ等を用いて簡単な色彩の選択ができるようになる
5回目	(webの色彩知識と課題制作)web上で用いられる色彩の基礎知識をもとに、アプリ等を用いて指定されたイメージの制作物を作成できるようになる
6回目	(パーソナルカラーの復習) 現在までで学んだパーソナルカラーの復習を行い、4シーズンのカラーの特徴を説明できるようになる
7回目	(パーソナルカラーの復習) 現在までで学んだパーソナルカラーの復習を行い、4シーズンのカラーの特徴を生かしたコーディネートができるようになる。
8回目	(選択と提案) カラードレープを用いてお客様のカラータイプの目安を判断し、適切なカラーを提案できるようになる。
9回目	(選択と提案)フォートロジー®とパーソナルカラー理論に基づきお客様にあったカラーコーディネートが提案できるようになる
10回目	(選択と提案)イメージシートの制作を通じお客様の要望に合ったものを選び、より満足していただける提案ができるようになる
11回目	(課題制作発表)前回作成したイメージシートを用いてお客様に合ったブライダル・カラーコーディネート提案ができるようになる
12回目	(課題制作発表)前回作成したイメージシートを用いてお客様に合ったブライダル・カラーコーディネート提案に対し、振り返りを行って理解度を深めることができる。
13回目	(課題制作発表)作成したイメージシートを用いてお客様に合ったコンサルテーションと提案ができるようになる
14回目	(課題制作発表)作成したイメージシートを用いてお客様に合ったコンサルテーションと提案に対し、振り返りを行って理解度を深めることができる。
15回目	総復習 これまでに学習した内容を活用し、お客様に対して満足度の高いカラーコンサルテーション・提案ができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験結果 40% ・課題・レポートの提出率及び完成度 60%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

パーソナルカラーコンサルテーション ベーシック(社)国際ライセンスマネージメント機構 参考図書・ブライダルの基礎知識
カラーカード(新配色カード199a)日本色研 制作物用白い用紙
カラードレープ(学校備品および講師私物を持参)
※パワーポイントスライド利用予定のため、PC、プロジェクタなど ※その他授業にて指示があったもの

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 就職対策Ⅲ Employment SupportⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	プライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書の書き方、エントリーシートの書き方等 ・実技演習を活用し、本番の緊張感を持って、自己PRを表現力豊かに演習する。(グループ面接を主に行う) ・WEB面接練習等、実践に沿った内容を行う 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動で提出できる履歴書をワンパターン分、完成させることができる。 ・グループの中でのコミュニケーションスキルを発揮し、印象良く協働作業ができる。 ・自分の「強み」を自己分析し、伝わる表現方法でアピールすることができる。 ・自分のキャリアについて考察を深め、どんな企業に就職したいか具体的にイメージし、行動できる。 							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 ・就職活動に必要な書類、流れを理解することができる						
2回目	特別講義～綺麗な字を書くコツを知る～						
3回目	【履歴書を書く】 ・印象の良い履歴書の書き方のポイントを知ることができる。 ・自己PR、学チカ、志望動機の書き方のポイントを知ることができる。						
4回目	【履歴書を書く】 ・印象の良い履歴書の書き方のポイントを知ることができる。 ・自己PR、学チカ、志望動機の書き方のポイントを知ることができる。						
5回目	【オリジナルティあふれる自己PRを創ろう】 ・自己PRの内容をグループでさらに深めることができる。 ・印象良く、自己PRを伝えるポイントを知ることができる。						
6回目	【オリジナルティあふれる自己PRを創ろう】 ・自己PRの内容をグループでさらに深めることができる。 ・印象良く、自己PRを伝えるポイントを知ることができる。						
7回目	【志望動機の書き方のポイントを知る】 ・志望動機は企業さまに対するラブレターであることを理解できる。 ・自分の熱意が伝わりやすい表現力を知ることができる。						
8回目	【志望動機の書き方のポイントを知る】 ・志望動機は企業さまに対するラブレターであることを理解できる。 ・自分の熱意が伝わりやすい表現力を知ることができる。						
9回目	【エントリーシート形式で自分を豊かに表現する】 ・白紙のA4用紙を用いて、自分を自由に表現した課題を用いて、豊かに伝わりやすく自己表現をすることができる。 ・クラスメイトの表現力を客観視することで、表現力をより磨くことができる。						
10回目	【エントリーシート形式で自分を豊かに表現する】 ・白紙のA4用紙を用いて、自分を自由に表現した課題を用いて、豊かに伝わりやすく自己表現をすることができる。 ・クラスメイトの表現力を客観視することで、表現力をより磨くことができる。						
11回目	【一足先に就職活動した学生の体験談を聴き、リアルに自分の就職活動をイメージし、取り組むべきことを理解する】 ・実際にコロナ禍の中、就職活動をした先輩方の体験談を聴き、より具体的にイメージできるようになる。 ・不安な点など先輩に質問し、やるべきことを明確にできるようになる。						
12回目	【照明写真】 証明写真の撮られ方のコツを理解できる						
13回目	【書類の深堀】 書類を元に面接で深堀される質問を認識できるようになる						
14回目	【書類の深堀】 書類を元に面接で深堀される質問を認識できるようになる						
15回目	【マナー理解】 書類の出し方や企業とのメール・電話でのやりとり等のマナーを理解することができる						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・履歴書50%、エントリーシート50%						
【使用教科書・教材・参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・A5サイズのノート ・講師作成プリント ・自己分析シート など 							

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 就職対策IV	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Employment SupportIV	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
・実技演習を活用し、本番の緊張感を持って、表現力豊かに面接演習する。(グループディスカッション・グループ面接・個人面接、WEB面接、SPI対策)							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・グループの中でのコミュニケーションスキルを発揮し、印象良く協働作業ができる。(グループディスカッション) ・面接を想定し、伝わる表現方法で自己アピールすることができる。 ・自分のキャリアについて考察を深め、自分が企業でどう活躍できるか想像し、伝えることができる 							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 ・グループディスカッション・グループ面接・個人面接、WEB面接、SPI対策について理解することができる						
2回目	【WEB面接を体験する①】 ・WEB面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することと、自分の客観視ができる。						
3回目	【WEB面接を体験する②】 ・WEB面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することと、自分の客観視ができる。						
4回目	【グループ面接を体験する①】 ・グループ面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することと、自分の客観視ができる。						
5回目	【グループ面接を体験する②】 ・グループ面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することと、自分の客観視ができる。						
6回目	【グループディスカッションを体験する①】 ・グループディスカッションの模擬演習を体験することができる。 ・受付～入室～着席～説明～グループディスカッション～退室の流れを体験し、印象の良い学生はどのような学生か理解することができる。						
7回目	【グループディスカッションを体験する②】 ・グループディスカッションの模擬演習を体験することができる。 ・受付～入室～着席～説明～グループディスカッション～退室の流れを体験し、印象の良い学生はどのような学生か理解することができる。						
8回目	【質問に対する対応力を磨く】 ・想定外の質問に対しても、動じることなく、自分らしく瞬時に考え、返答するスキルを磨くことができる。 ・どうしても答えが思い浮かばない際の臨機応変な対応を知り、実践することができる。						
9回目	【個人面接を体験する①】 ・個人面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することができ、自分の印象も客観視できる。						
10回目	【個人面接を体験する②】 ・個人面接の模擬演習を体験することができる。 ・深掘された質問に対しても対応できるようになる						
11回目	【SPI・一般常識問題対策】 過去問を実施し、一般的な筆記試験に対応できるようになる						
12回目	【SPI・一般常識問題対策】 過去問を実施し、一般的な筆記試験に対応できるようになる						
13回目	【採用面接の流れ】 一連の流れを体得し、考えなくても行動できるようになる						
14回目	【採用面接の流れ】 一連の流れを体得し、考えなくても行動できるようになる						
15回目	【身だしなみ】 印象の良い身だしなみを再確認し、体現できるようになる						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・模擬面接						
【使用教科書・教材・参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・A5サイズのノート ・講師作成プリント ・自己分析シート など 							

授業シラバス

科目名 (英)	【企業マーケティング】 企業研究 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Corporate Project I	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。							
【授業の学習内容】							
テーマと課題に沿ってリサーチ、プレゼンテーション作成、発表に取り組む。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・業界、各企業の抱える課題とその背景を考察し、改善点を提案することができる。 ・後期の企業様へのプレゼンテーション(予定)を成功させることを意識しつつ、人の心を動かすプレゼンテーションの作成、発表をすることができる。 ・自分が活躍したい、活躍できる企業や業界を見つけることができる。 							

回数	授業計画・内容
1回目	【自己PR作成】就職活動や面接で役立たせることができるよう、自分の長所とそれがどのように培われてきたか、および短所とそれをどのように改善していくかをまとめ、人に伝わるようにプレゼンテーションができる。
2回目	【企業①】プレゼンテーションの仕方を映像資料を通して学ぶ。 クラスで選んだ企業を研究し、各々が企業の抱える課題・問題点を発見し、プレゼンテーションを作り始めることができる。
3回目	【企業①】プレゼンテーションを完成させ、ブラッシュアップし、発表することができる。(原稿を読んでもよいが、身振り手振りなどしぐさは意識する)
4回目	【企業②】プレゼンテーションの仕方を映像資料を通して学ぶ。 自分が選んだ企業を研究し、企業の抱える課題・問題点を発見し、プレゼンテーションを作り始めることができる。
5回目	【企業②】プレゼンテーションを完成させ、ブラッシュアップする。
6回目	【企業②】作成したプレゼンテーションを発表できる。(ただ話すだけではなく、どうすれば効果的に伝えられるかの工夫などを考える／原稿は暗記する)
7回目	【企業③】プレゼンテーションの仕方を映像資料を通して学ぶ。 自分が選んだ企業を研究し、企業の抱える課題・問題点を発見し、説得力あるプレゼンテーションを作り始めることができる。
8回目	【企業③】プレゼンテーションを完成させ、ブラッシュアップする。
9回目	【企業③】作成したプレゼンテーションを発表できる。 (ただ話すだけではなく、どうすれば効果的に伝えられるかの工夫などを考える／原稿は暗記する)
10回目	【企業④】プレゼンテーションの仕方を映像資料を通して学ぶ。 自分が選んだ企業を研究し、企業の抱える課題・問題点を発見し、前回までよりボリュームがあるプレゼンテーションを作り始めることができる。
11回目	【企業④】プレゼンテーションを完成させ、ブラッシュアップする。
12回目	【企業④】作成したプレゼンテーションを発表できる。(ただ話すだけではなく、どうすれば効果的に伝えられるかの工夫などを考える／原稿は暗記する)
13回目	【企業⑤】プレゼンテーションの仕方を映像資料を通して学ぶ。 自分が選んだ企業を研究し、企業の抱える課題・問題点を発見し、10ページを超えるスライドのプレゼンテーションを作り始めることができる。
14回目	【企業⑤】プレゼンテーションを完成させ、ブラッシュアップする。
15回目	【企業⑤】作成したプレゼンテーションを発表できる。 (ただ話すだけではなく、どうすれば効果的に伝えられるかの工夫などを考える／原稿は暗記する)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席率50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・全6回のプレゼンテーション(発表)のクオリティと熱意 (各回16点満点とする…前段階のリサーチとプレゼンテーション作成の姿勢、質も含む) + 自分が活躍したい、活躍できる企業や業界を見つける姿勢(4点満点)
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

※同授業科目内の「必須選択」から120時間選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ドレススタイリスト I	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	Dress Stylist I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め、婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいくことで、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

初めてブライダルの衣裳に触れて、着る喜びと着せる喜びを体感しながら、衣装の基礎知識を学ぶことでスタイリストとしての自信と希望を持つことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション(志望動機・自己紹介・生徒・講師) 授業内容を理解し、正しいドレスコーディネート目的をお互いに持つことができる。
2回目	ウェディングドレス試着 インナーを付けずに、好きなドレスを試着。実際の重さや構造を理解することができる。
3回目	インナーの選び方・何故必要か。 採寸して自分のサイズを知り、自分に合ったインナーを選ぶことができる。
4回目	インナーを付けてウェディングドレスを美しく着ることができる。 インナーの重要性を知る。ドレス画を描き、特徴をつかんでいるか確認することができる。
5回目	インナーを付けてイブニングドレスを美しく着ることができる。 付属のドレス小物もコーディネートする。ドレス画を描き、特徴をつかんでいるか確認することができる。
6回目	ドレスを着ての立ち振る舞いの体感(歩く・座る・ターン・チャペルを歩く)ご新婦様の気持ちが理解できる。
7回目	ドレスのボディー内側や裾周りを採寸することで、よりドレスの知識が深まる。
8回目	フォーマルについて(レディース)画像参考 正しいコーディネートを理解することができる。
9回目	フォーマルについて(メンズ)画像参考 正しいコーディネートを理解することができる。
10回目	メンズの衣裳の襟の形や小物を学ぶ・採寸等を学ぶことでより深く衣裳が理解できる。
11回目	ドレススタイリストとは？ ファーストアプローチやヒアリングの仕方・ドレスの選び方までの手順を学ぶことができる
12回目	「お日柄」について理解することができる。 (ブライダル業界では大切な知識であり・他業種の営業活動でも深く関わる)
13回目	今までの授業の総復習を行い、理解度を確認することができる①
14回目	今までの授業の総復習を行い、理解度を確認することができる②
15回目	提出したドレスデザイン画のフィードバックを行い、初回から今までの理解度を確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験60点 ・ドレス画2枚40点

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)

授業シラバス

※同授業科目内の「必須選択」から120時間選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ドレススタイリストⅡ	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
	Dress Stylist Ⅱ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め、婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいくことで、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

初めてブライダルの衣装に触れて、着る喜びと着せる喜びを体感しながら、衣装の基礎知識を学ぶことでスタイリストとしての自信と希望を持つことができる。

回数	授業計画・内容
1回目	今までの授業を受け、ドレスに触れてどの様に感じたか？ 自分の変化に気づき、ドレススタイリスト・ドレスコーディネートについて新しい目標を立てることができる。
2回目	テキストを見ず、美しくドレスを着せることができたかを確認する。 基本を確実に覚えることで着付けの自信に繋がる①
3回目	テキストを見ず、美しくドレスを着せることができたかを確認する。 基本を確実に覚えることで着付けの自信に繋がる②
4回目	復習としてフォーマルの知識(T・P・O)を確認しながら、イブニングドレスをジャストフィットに着付ける。 (ボディメイク・お直し・ヘアメイク)
5回目	ドレスのパーツ(ネックライン・お袖)お小物(ベール・ヘッド・グローブ・ブーケ)を学ぶ。
6回目	メンズの種類とメンズの採寸の方法を学ぶことは、メンズ衣装サイズを選ぶ為の必要な知識を身に付けることができる。
7回目	プロトコルに添ってメンズのコーディネートを考える。(グローバル社会に通用するマナーを身に付ける)
8回目	ドレスの内寸を測る(ドレスのサイズ確認が容易にできる。)
9回目	ドレスの裾さばき、歩き方、お辞儀の仕方・アテンドの仕方を理解することで花嫁のサポートに自信が持てる。 (ウェディングドレス・ベールも着ける)①
10回目	ドレスの裾さばき、歩き方、お辞儀の仕方・アテンドの仕方を理解することで花嫁のサポートに自信が持てる。 (ウェディングドレス・ベールも着ける)②
11回目	メンズのお直し(裾・袖丈)ができる(着てみる 小物も付ける)バランスの良いスタイリングが提案できる。
12回目	ドレスのスカートについてより理解を深める。
13回目	ウェディングドレスに関するマナーと風習(サムシングフォー)を理解することができる。
14回目	テーマに添ったウェディングドレスとメンズ衣装をコーディネートする。 1年間の学びを再確認できる。(グループワーク)
15回目	フィードバック(グループワークの評価・試験の解答・1年の反省を行い、進級時の目標を改めてたてる)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験60点 ・ドレス画2枚40点

【使用教科書・教材・参考書】

講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)

授業シラバス

※同授業科目内の「必須選択」から120時間選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ドレススタイリストⅢ Dress StylistⅢ	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。							
【授業の学習内容】							
日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいくことで、接客力や応用力がより強化される。							
【到達目標】							
ブライダル業界の現状とノウハウを学ぶことで、ブライダル(衣装・接客)の専門知識が習得できる。その学びは、スタイリスト・ビューティとしての自信に繋がり、様々な角度から幅広くお客様にとって最も相応しいご提案ができる。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 今年度の授業説明、個人目標を明確にできるようになる
2回目	ディスプレイの仕方やドレスの並べ方を学ぶことはドレスを美しく見せることを理解することができる
3回目	1年の復習としてフォーマルの知識(T・P・O)を確認しながら、ウェディングドレス6ラインのドレスをコーディネートしてみる。(ボディメイク・お直し・ヘアメイク)ドレス画2枚提出
4回目	1年の復習としてフォーマルの知識(T・P・O)を確認しながら、ウェディングドレス6ラインのドレスをコーディネートしてみる。(ボディメイク・お直し・ヘアメイク)ドレス画2枚提出
5回目	(T・P・O)を考えながら、ソフレ(カラードレス)全てのタイプを着ることができる (ボディメイク、お直し・ヘアメイク)ドレス画2枚提出
6回目	(T・P・O)を考えながら、ソフレ(カラードレス)全てのタイプを着ることができる (ボディメイク、お直し・ヘアメイク)
7回目	WDからEDへのチェンジ(約15分) 簡単なヘア・メイクを考える
8回目	ドレスのお直しの指示書を作成する ・ドレスライン別ポージングを考えて写真を撮る 3枚提出
9回目	ドレスのお直しの指示書を作成する ・ドレスライン別ポージングを考えて、写真を撮る3枚提出
10回目	ドレスの裾さばき、歩き方、アテンドの仕方を理解することができる(ペールも着ける)チャペルを歩く
11回目	スタイリストのヒヤリング力を身につけることで営業力を強化することができる (ファーストアプローチからドレスをえらびヘアメイクのイメージを提案することで、単価アップする)
12回目	メンズのお直し(裾・袖丈)をすることができる(着てみる 小物も付ける)
13回目	留袖採寸・柄いきを学ぶことはスタイリストビューティとしての信頼を得ることができる/試験の説明 (質問)
14回目	実家の紋を調べる(一般的な紋を知る)新郎新婦へのフォローができる
15回目	フィードバック(解答と補足)状況により変更もある (後期へ向けての希望内容その他)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験30点・ドレス画4枚40点 ・写真3枚30点等評価)40%とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)	

授業シラバス

※同授業科目内の「必須選択」から120時間選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ドレススタイリストⅣ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	Dress StylistⅣ						
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員_実務者経験】							
1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。							
【授業の学習内容】							
日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいくことで、接客力や応用力がより強化される。							
【到達目標】							
ブライダル(衣装・接客・その他の専門知識)を習得することにより、トータルコーディネートができ、営業力の強化となる。その学びは、ビューティとしての自信に繋がり、様々な角度から幅広くお客様にとって最も相応しいご提案ができる。							

回数	授業計画・内容
1回目	前期の目標T・P・Oに合ったドレスのコーディネートが出来たか振り返る 演習:ドレスのクリップ留め方を習得できるようになる
2回目	メンズのお直し(裾・袖丈)に付いての方法を学び実際にお直しをすることでスキルが更に強化できる。
3回目	ドレスの着付けが基本に添って出来ているかを確認することで着付けの難しさを再認識できる① (技術評価)
4回目	ドレスの着付けが基本に添って出来ているかを確認することで着付けの難しさを再認識できる② (技術評価)
5回目	ドレスの素材に付いての学びはより深くドレスを理解でき、提案力も強化できる。 (ドレスコメントも考える)
6回目	基本的な縫い方を学ぶことは衣裳のアレンジ(ドレスの小物のパーツ作り)やコーディネートがスムーズに提案することができる。 肩パットも作る①(評価対象)
7回目	基本的な縫い方を学ぶことは衣裳のアレンジ(ドレスの小物のパーツ作り)やコーディネートがスムーズに提案することができる。 肩パットも作る②(評価対象)
8回目	自分に合うドレスを美しく着る(ボディメイク・パニエ・前丈・ヘアメイク)(技術評価)
9回目	新郎の和装(黒紋服)に付いてサイズや形を知ることは寄り衣裳の知識を深めることができる。
10回目	列席衣裳:留袖採寸・柄いきを学ぶことはスタイリストとしての信頼を得え、お客様のご要望に応えることができる(衣裳の提案の仕方)①
11回目	列席衣裳に付いて(モーニング・タキシード・デレクターズスーツ) 復習と確認することで接客の自信につながる。(衣裳の提案の仕方)②
12回目	ヒヤリング力を身につけることで営業力を強化することができる (ファーストアプローチからドレスを選び、単価アップする)①
13回目	ヒヤリング力を身につけることで営業力を強化することができる (ファーストアプローチからドレスを選び、単価アップする)② レポート課題発表
14回目	座学:和装打ち掛けの柄に付いて学ぶことはスタイリストとしての知識を深めることができる。
15回目	フィードバック(レポート返却)状況により変更もある。(未知への希望と願い)その他
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト60% ・授業内課題(着付け・アレンジ・コーディネートの実技評価)40%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成テキスト・参考文献(全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)	

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 イベントプランニングⅢ Event PlanningⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

イベント制作会社での制作進行業務並びにディレクターを経て、フリーランスと転身し現在に至る。
式典進行、飲食イベント、行政関係等様々なイベントの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

イベント制作過程における、予算や制作スケジュール・当日に向けての準備から終了後までに
必要になるスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、予算管理・制作進行等の制作に関わる全てを担える力を習得することを目指します。
チームで取り組む際の情報共有の大切さ・リスクマネジメント等の認識の必要性を育みます。
イベント運営における、制作・事前準備・事後業務等、必要な知識やスキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】イベント制作とは何かを改めて理解する。イベントにとって大切なモノは何かを改めて考える。
2回目	【イベント制作の基礎】企画の立案から～企画書作成までの復習を行う。 1年次にできたこと、できなかったことを振り返り、できるようにするためには何が必要かを考える。
3回目	【イベント制作の基礎】概算予算、予算の組み立て方、収支を含む必要経費の算出、見積書等について理解する
4回目	【イベント制作の基礎】予算の組み立てや、見積書の作成が出来るようになる
5回目	【イベント制作の基礎】課題① 実際に予算をたてて、見積書を作成し、予算内にイベントを創ることができるかを検証してみる。
6回目	【イベント制作の基礎】課題① チームごとに発表。どのチームが予算内で楽しいイベントが作れているかを考え、比較することができる。
7回目	【イベント制作の基礎】課題① 各チーム、予算面からプランのブラッシュアップを行い、よりよくするためにアドバイスを出し合うことができる。
8回目	【イベント制作の基礎】制作スケジュールにおけるリスクマネジメントについて理解することができる。
9回目	【イベント制作の基礎】課題② 課題のイベントからリスクマネジメントを考えてチームごとに発表し、どのように行えば対処できるか考えることができる。
10回目	【イベント制作の基礎】制作スケジュールが作成出来るようになる。課題①において作成した予算内プランから、制作スケジュールを考える。
11回目	【イベント制作の基礎】イベント当日タイムスケジュールの理解・作成が出来るようになる
12回目	【イベント制作の基礎】イベント当日タイムスケジュールの理解・作成し、チーム内で役割分担を行い、役割において作業を明確にすることができる。
13回目	【イベント制作の基礎】イベント当日タイムスケジュールの理解・作成し、マニュアルを作成することができる①
14回目	【イベント制作の基礎】イベント当日タイムスケジュールの理解・作成し、マニュアルを作成することができる②
15回目	イベントにおけるプレゼンテーションを行い、イベントに向けての最終確認を行うことができる。(役割表、スケジュール、予算表、マニュアル必須)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 イベントプランニングⅣ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Event PlanningⅣ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

イベント制作会社での制作進行业務並びにディレクターを経て、フリーランスと転身し現在に至る。
式典進行、飲食イベント、行政関係等様々なイベントの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

イベント制作過程における、予算や制作スケジュール・当日に向けての準備から終了後までに
必要になるスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、予算管理・制作進行等の制作に関わる全てを担える力を習得することを目指します。
チームで取り組む際の情報共有の大切さ・リスクマネジメント等の認識の必要性を育みます。
イベント運営における、制作・事前準備・事後業務等、必要な知識やスキルを習得することを目指します。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション) イベントの日時決め、各チームの評価ポイント説明を行い、授業の目的を理解することができる。
2回目	Aチームのイベント開催 ※他チームはゲストとして参加。チームのスケジュール・タイムマネジメント・イベントの趣旨が伝わっているかどうか、 リスクマネジメントが考えられているかを評価する。
3回目	Aチームのイベントにおいて総評とブラッシュアップを行い、足りないポイントを理解し、次回にいかすことができる。
4回目	Bチームのイベント開催 ※他チームはゲストとして参加。チームのスケジュール・タイムマネジメント・イベントの趣旨が伝わっているかどうか、 リスクマネジメントが考えられているかを評価する。
5回目	Bチームのイベントにおいて総評とブラッシュアップを行い、足りないポイントを理解し、次回にいかすことができる。
6回目	Cチームのイベント開催 ※他チームはゲストとして参加。チームのスケジュール・タイムマネジメント・イベントの趣旨が伝わっているかどうか、 リスクマネジメントが考えられているかを評価する。
7回目	Cチームのイベントにおいて総評とブラッシュアップを行い、足りないポイントを理解し、次回にいかすことができる。
8回目	Dチームのイベント開催 ※他チームはゲストとして参加。チームのスケジュール・タイムマネジメント・イベントの趣旨が伝わっているかどうか、 リスクマネジメントが考えられているかを評価する。
9回目	Dチームのイベントにおいて総評とブラッシュアップを行い、足りないポイントを理解し、次回にいかすことができる。
10回目	イベントを行って「チームワーク」の大切さを再確認し、より「チームワーク」をよいものにするためには何が必要かを考えることができる。
11回目	イベントを行って「リーダー」の重要性を理解し、自分がリーダーだったらどのようにチームをまとめるかを考え、自分なりのリーダー像を発表しあう。
12回目	課題① 自分が行いたいイベントを考え、イベント概要、予算書、スケジュール、準備物、マニュアルを作成し、自己理解をより深めていく① (個人ワーク)
13回目	課題① 自分が行いたいイベントを考え、イベント概要、予算書、スケジュール、準備物、マニュアルを作成し、自己理解をより深めていく② (個人ワーク)
14回目	課題① 自分が行いたいイベントを考え、イベント概要、予算書、スケジュール、準備物、マニュアルを作成し、自己理解をより深めていく③ (個人ワーク)
15回目	個人ワークで行った「やりたいイベント」において、プレゼンテーションを行い、最優秀賞イベントを決める。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 花嫁着付 I Bride Kimono I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・筆筒整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営している。							
【授業の学習内容】							
日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では結婚式についての着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。							
【到達目標】							
講義・実技演習を通して結婚式における和装衣装について理解できるようになる							

回数	授業計画・内容
1回目	列席者の着物・着物についての復習を行い、講義で理解した上で実習を行う
2回目	日本の婚礼の歴史が理解できるようになる
3回目	花嫁の和装について理解できるようになる
4回目	新郎和装について理解できるようになる
5回目	新郎和装について理解できるようになる
6回目	体型補正・かつらについて理解できるようになる
7回目	掛下までの説明と実技ができるようになる
8回目	掛下帯までの説明と実技ができるようになる①
9回目	掛下帯までの説明と実技ができるようになる②
10回目	打掛までの説明と実技ができるようになる
11回目	花嫁振袖・相生結びの説明と実技ができるようになる①
12回目	花嫁振袖・相生結びの説明と実技ができるようになる②
13回目	花嫁振袖・相生結びの説明と実技ができるようになる③
14回目	1～28回目までの総まとめを行い、理解を深めることができる。
15回目	新郎新婦・列席者着付けを理解できるようになり、正確さを確認するため人前で着付けて見せて出来具合を確認する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験 70% ・レポート30%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 着付 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Kitsuke I	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科						
【担当教員、実務者経験】							
<p>You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。</p> <p>出張着付け・筆笥整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営・日本文化を通して学ぶ大人の教養講座を行っている。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では基本である小紋・名古屋帯を使用し、着せ付けの基本を学ぶ。着せ付けの技術だけでなく、日本人としての在り方、着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。また実践形式での授業で自らメモをとって知識を深める。着付けを通して、社会人としての役立つ力も同時に学んでいく。</p>							
【到達目標】							
<p>着せ付けの基本知識・技術を身に付けること。実践的な場面を想定しての練習を通して、15分着せ付けを目標とする。着付けに関する基礎知識を習得しながら、本授業終了時には、小紋・太鼓結びの着せ付けができるようになる。また着付けを通して礼節、日本の伝統文化に興味を持つこと、行儀作法や物を大切にできる心、美しい立ち居振る舞いへの意識、相手への気遣いができるようになる。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	(前半オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明・着付けに必要な小物の説明と準備・片付け方・採寸を行い、今後の学びの準備を行う。
2回目	(浴衣自装)浴衣の着付け・帯の結び方ができるようになる
3回目	(浴衣自装)浴衣の着付け・帯の結び方ができるようになる(講義)着物の種類が理解できるようになる
4回目	(着せ付け前の準備～小紋)長襦袢の準備・補正・長襦袢・小紋(腰ひもまで)・着物・長襦袢のたたみ方・小物の片付け方ができるようになる。
5回目	(小紋着せ付け)準備から小紋までの着せ付けの順番が理解できるようになる
6回目	(小紋着せ付け)準備から小紋までの着せ付けの順番が理解できるようになる。前回の復習。前回よりきれいにできているか確認。
7回目	(名古屋帯)一重太鼓の順序を理解できるようになる
8回目	(小紋・名古屋帯)一重太鼓の順序を理解できるようになる
9回目	(練習)準備～帯までの一連の流れができるようになる
10回目	(練習)準備～帯までの一連の流れができるようになる。前回の復習。前回よりきれいにできているか確認。
11回目	(練習)15分着せ付けができるようになる
12回目	(練習)15分着せ付けができるようになる。ペアで苦手な部分を確認。
13回目	(練習)15分着せ付けができるようになる。今までの授業の理解度を確認する
14回目	小紋・一重太鼓の15分着せ付け / 準備 7分 / 片付け 10分 時間を図り、的確に行うことができるかどうかを確認する
15回目	着物を着て写真を撮影し、着付ができるようになったことを皆で認識しあい、自信をつける。
16回目	(後半オリエンテーション)授業概要の説明・(自装)補正・長襦袢・小紋を自分で着ることができるようになる
17回目	(自装)補正・長襦袢・小紋を自分で着ることができるようになる
18回目	(自装)長襦袢・小紋・名古屋帯ができるようになる①
19回目	(自装)長襦袢・小紋・名古屋帯ができるようになる②
20回目	(自装)長襦袢・小紋・名古屋帯を15分で着ることができるようになる①
21回目	(自装)長襦袢・小紋・名古屋帯を15分で着ることができるようになる②
22回目	(自装)小紋と名古屋帯15分着付けをペアで発表し、人前でどれだけ丁寧にできるかを確認する
23回目	(復習)前回のフィードバックを行い、きれいに着せ付けができるコツを再度学ぶ。
24回目	(他装)小紋・袋帯ができるようになる①
25回目	(他装)小紋・袋帯ができるようになる②
26回目	(練習)小紋・袋帯を15分で着せ付けができるようになる。ペアで苦手な部分を確認。(着せ付けの正確さ)
27回目	(練習)小紋・袋帯を15分で着せ付けができるようになる。ペアで苦手な部分を確認。(時間を気にして行う)
28回目	(練習)小紋・袋帯を15分で着せ付けができるようになる。(人前で着せ付ける)今までの授業の理解度を確認する
29回目	(確認)小紋・二重太鼓の15分着せ付け / 準備 5分 / 片付け 10分 決められた時間内に的確に着せ付けができるかどうかを確認する。
30回目	(フィードバック)簡単な変わり結びができるようになる。総まとめ
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験:60% ・実技試験:40%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 MCTトレーニング I	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	MC Training I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			2	曜日/時限		
【担当教員・実務者経験】							
ホテルやゲストハウス等にてブライダル司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。 CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事を多数こなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当。							
【授業の学習内容】							
社会人になると、話し方一つでその後の仕事が左右されることもある。 その重要な話し方を、腹式呼吸や滑舌などと共に、どのように話せば人に伝わりやすくなるのかを学習する。 同時に、プランナーとMCのかかわり方やMCの果たす役割を学び、人前式の司会者コメントを考えながら、現場での流れを知る。 社会人としての話し方も学習する。							
【到達目標】							
就活の面接や人前で話す時に、自信を持って話せる声や話し方ができるようになる。 ブライダルの現場で通用するように、人前式の流れを理解し、ブライダルコメントができるようになる。 社会人としての話し方・伝え方ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 自己紹介(動画撮影を行い、自分の話す姿、口調、表情を確認する) / 印象の良くなる話し方ができるようになる
2回目	腹式呼吸で相手へ届く声の出し方ができるようになる / プランナーとMCのかかわり方を理解できるようになる
3回目	一言一言の発声をしっかりとできるようになる / MCとしての結婚式における重要性を理解できるようになる
4回目	口周りのトレーニングをし、滑舌良く話すことができるようになる / 接客における敬語を話すことができるようになる
5回目	【発声・滑舌テスト】 正しいアクセントで発声できるようになる / 人前式の流れを知り、理解できるようになる
6回目	強弱をつけて、より伝わりやすい話し方ができるようになる / 新郎新婦入場の司会コメントを考え、話すことができるようになる
7回目	間を意識した話し方で、伝えたいことが伝わる話し方ができるようになる / 開式の司会コメントを考え、話すことができるようになる
8回目	感情を込めて、心まで届く話し方ができるようになる / 誓いの言葉シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
9回目	台本台詞を使って、感情を込めた話し方ができるようになる① / 誓いのキスシーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
10回目	台本台詞を使って、感情を込めた話し方ができるようになる② / 指輪の交換シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
11回目	【感情を込めた話し方テスト】 / 結婚誓約書シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
12回目	試験発表用の文章を考える / フラワーシャワー退場シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
13回目	試験発表のリハーサル / グループごとに人前式司会コメントを通して話すことができるようになる
14回目	1～13回目を振り返りながら、総復習発表を行い、撮影をして成長度を確認する。
15回目	話し方の総復習 / グループごとに人前式司会コメントを通して発表を行い、クラスメイト同士で総評を行う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験発表20% ・発声・滑舌テスト10% ・感情を込めた話し方テスト10%
【使用教科書・教材・参考書】	
レジュメ 筆記用具	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 テーブルデコレーション I	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員
	Table decoration I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。
現在フリーランスで活動。フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級

【授業の学習内容】

ブライダルフラワーについて 特に花嫁に関するフラワーコーディネートを学ぶ

【到達目標】

テーブルコーディネート基礎を理解し、
コンセプトウェディングをコーディネート提案できるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション この授業の目標点について テーブルデコレーションに必要な事と目的について理解できるようになる
2回目	配色のセオリー 色相・トーン・配色を理解しコーディネート出来るようになる
3回目	イメージとカラーの関係性を理解し、イメージからコーディネート出来るようになる
4回目	花の種類とカラーコーディネートについて理解する
5回目	テーブルフラワーの種類と製作方法について理解する
6回目	会場装飾について学ぶ① インテリアカラーコーディネート・テーブルクロス・ナプキン他空間に合わせたコーディネートが提案出来るようになる。ナプキンの折り方
7回目	会場装飾について学ぶ② ペーパーアイテム・キャンドル・フラワーについて。コンセプトに合わせたコーディネート提案が出来るようになる
8回目	食空間コーディネート 食空間の在り方・食器、カトラリーの種類・セッティング方法について理解する
9回目	テーマ・コンセプトに合わせたテーブルコーディネートコンセプトシートを作成できるようになる(企画組み立てシートとデッサン) ※提出課題① 企画組み立てシートとコーディネートデッサン、コーディネートの企画を立てられるようになる
10回目	発表会のチーム分け チーム名・チームのコンセプト・役割分担・プレゼン発表のタイムスケジュール、クロス/ナプキンの決定
11回目	コンセプトに合わせたテーブルコーディネートを考える、MC内容を考える・BGM、コンセプトシート作成(企画組み立てシート・デッサン) 使用花器、キャンドルを選ぶ、予算について考えられるようになる
12回目	コンセプトとモデルに合わせたドレス・ブーケ・ヘア飾りをコーディネート及びスタイリングコンセプトシートの作成ができるようになる ※提出課題②『スタイリングコンセプトシート』パーソナルチェックを踏まえた内容であること
13回目	センターピース・ブーケ(ブートニア)・ヘア飾り・ペーパーアイテム等作成ができるようになる MC/プレゼンの流れ確認
14回目	発表会。アイデアを形にして、プレゼンテーションできるようになる
15回目	発表会の振り返りを行い、自己評価・他己評価を自分の成長ポイントとする
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 ブライダルヘアメイクⅢ Bridal Hair MakeⅢ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動しながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

「ヘアメイクの基本理論～基礎技術」を学ぶ

【到達目標】

- ・メイク⇒顔型やパーツの配置バランスによる人のイメージを知り、基本バランスとなるメイクアップができるようになる。
- ・ヘア⇒ヘアセットの基礎技術となるホットカーラー・ピン・ゴム等の使い方が身につく、ヘアアレンジへと繋がられるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】授業の概要を理解し、美容道具の名称や衛生管理を学ぶ。
2回目	美容器具のお手入れについて学ぶ。(接客の際のホスピタリティを衛生面から学ぶことができる)
3回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる①(ランダムでペアを決める)
4回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる②(ランダムでペアを決める)
5回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる③(ランダムでペアを決める)
6回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる④(ランダムでペアを決める)
7回目	【ヘア基礎】ブロッキングができるようになる。(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
8回目	【ヘア基礎】ブロッキングができるようになる。(ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
9回目	【ヘア基礎②】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
10回目	【ヘア基礎②】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
11回目	【ヘア基礎③】ゴムを扱い、ハーフアップ・一束結びができるようになる。(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
12回目	【ヘア基礎③】ゴムを扱い、ハーフアップ・一束結びができるようになる。(ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
13回目	【ヘア基礎④】ピンニングができるようになる。ヘアアイロン・ストレートアイロンが使えるようになる(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
14回目	【ヘア基礎④】ピンニングができるようになる。ヘアアイロン・ストレートアイロンが使えるようになる(ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
15回目	【総まとめ】事前にあたえられたテーマでヘアメイクをする(ウィッグを利用して一人ずつ確認を行う)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・実技メイク50% ・実技ヘア50%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 ブライダルヘアメイクⅣ Bridal Hair MakeⅣ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動しながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

ヘアメイクの応用技術を学ぶ

【到達目標】

- ・メイク⇒イメージメイクの理論を知り各イメージの基本的な技術ができるようになる。
- ・ヘア⇒面を生かした基本的なスタイルや、ゆるふわ・ハーフアップ等の基本パターンを学ぶ。

回数	授業計画・内容
1回目	後期の授業において内容を理解し、前期の振り返りを行う。
2回目	【ヘアアレンジ① ハーフアップアレンジ】ブロッキングをし、ピンを使用したハーフアップができるようになる。
3回目	【ヘアアレンジ② 面を生かしたアップスタイル】ブロッキングを知り、基本となるかぶせアップスタイルができるようになる。
4回目	【ヘアアレンジ③ 面を生かしたアップスタイル】基本のかぶせのアップスタイルを完成させる事ができるようになる。
5回目	【ヘアアレンジ④ ゆるふわスタイル】基本のかぶせアップスタイルのブロッキングからゆるふわスタイルへと変化させる。
6回目	【ヘアアレンジのまとめ】ハーフアップ・アップスタイルの技術を確認し、苦手な点を克服することができる。
7回目	【ヘアアレンジのまとめ】かぶせアップスタイル・ゆるふわスタイルの技術を確認し、苦手な点を克服することができる。
8回目	【メイクテクニック①】キュートメイク 可愛いイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
9回目	【メイクテクニック②】エレガントメイク 綺麗なイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
10回目	【メイクテクニック③】フレッシュメイク フレッシュなイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
11回目	【メイクテクニック④】クールメイク かっこいいイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
12回目	【メイクテクニック⑤】相手の個性を分析し、相モデルでメイクができるようになる(ペアを組み、A番がモデル)
13回目	【メイクテクニック⑥】相手の個性を分析し、相モデルでメイクができるようになる(ペアを組み、B番がモデル)
14回目	【総まとめ①】相モデルの希望スタイルから、メイク・ヘアメイクができるようになる(ペアを組み、A番がモデル)
15回目	【総まとめ②】相モデルの希望スタイルから、メイク・ヘアメイクができるようになる(ペアを組み、B番がモデル)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・メイク技術50% ・ヘアメイク技術50%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 リアルウェディング応用 I Real Wedding application I	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
1期生として卒業後、株式会社LLBへ就職。 京都・大阪・兵庫・滋賀を中心にホテル・ゲストハウス・レストラン・専門式場など、結婚式場といわれるすべての分野でウェディングプランナーを経験。 現在は京都にある和邸宅とゲストハウスの2会場でマネージャーを兼任しながら、他会社の結婚式場にて派遣プランナーとして担当を受け持つ。							
【授業の学習内容】							
模擬挙式を通じてお客様の人生に関わることの重大性を知り、結婚式を創るうえで大切な打合せやスケジュール管理等の事前準備・チームでの協調性をより強化していきましょう。							
【到達目標】							
1つの結婚式が創り上げられる過程から当日の流れまでを理解し行動に移すことができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	1. オリエンテーション(リアルウェディングという授業について) 2. チームメンバーの発表・挙式に必要な役割説明・チーム内での役割決め・提携チームの確定・提携先での役割決め
2回目	1. 挙式進行・スケジュールの組み立てができるようになる 2. 各チームごとに模擬挙式内容の検討・詳細資料作成(次回プレゼン用)
3回目	1～2. 各チームごとにプレゼン⇒フィードバックより改善・再構築⇒再プレゼン ★OKが出るまで繰り返す
4回目	1. 当日必須資料の作成ができるようになる(提出期限あり) 挙式における各役割の大切さが理解できるようになる 2. お衣装の提案～当日セッティング&片付けができるようになる
5回目	1～2. 模擬挙式当日の流れ(挙式前～お見送り)までの流れが理解できるようになる
6回目	1～2. 模擬挙式練習&改善
7回目	1～2. 模擬挙式練習&改善
8回目	1～2. 模擬挙式まで&模擬挙式後の動き練習&改善
9回目	1～2. 模擬挙式まで&模擬挙式後の動き練習&改善
10回目	1～2. 模擬挙式リハ ★お衣装着用なし・受付からお見送りまで(モデル必須)
11回目	1～2. 模擬挙式リハ ★お衣装着用なし・受付からお見送りまで(モデル必須)
12回目	1～2. 模擬挙式デモンストレーション★衣装着用あり・受付からお見送りまで(モデル必須)
13回目	1～2. 模擬挙式デモンストレーション★衣装着用あり・受付からお見送りまで(モデル必須)
14回目	1～2. 模擬挙式発表
15回目	1～2. 模擬挙式発表 ★上位者発表★
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
授業内にて随時配布	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダルプランナーⅢ	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
	Bridal PlannerⅢ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。
 様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。
 現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。
 フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

ブライダル業界で就労するにあたり、各専門分野のスキル習得や、マーケティング・マネジメントを理解しておく事は不可欠であるため、本授業では、実践学習を取入れたPDCAサイクルを行い、ブライダルのリベラルアーツとして幅広い知識と教養を身に付ける学習内容とする。
 株式会社ワールドウェディングより販売している「キャンパスウェディング」を学生が対応する。

【到達目標】

自分が習得しなければならない各専門分野が明確になる。また、産学連携プロジェクトに関わり、より実践的なブライダルを習得する事ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	1.オリエンテーション(ブライダルのリベラルアーツとは、産学連携プロジェクトリアンウェディングについて) 2.チーム編成について及び、役割分担について
2回目	1.商品企画における金額設定、利益構造、PR方法について知る 2.必要なトレンドリサーチ、マーケットリサーチの実践と各チーム担当カップルのヒアリング方法を学ぶことができる。
3回目	1.打ち合わせに必要なツールについてを知る 2.ツール作成 どのような内容をお客様にヒアリングするか、どのような準備が前もって必要かを考えて作成することができる。
4回目	1.ツールを用いた各チーム担当カップルと打ち合わせをロールプレイングをもって実践する。音響設備、プロジェクター使用が可能になる 2.各チーム施行発表(10分):お客様のヒアリングのもと(ロールプレイングを参考)、どのような施行を考えたのかを発表し、他チームが検証することでアイデアの知識を広くすることができる
5回目	1.チームに分かれて夏イベント概要考案し、会場をリサーチを行うことでさらに準備のイメージをつけることができる。 2.各チーム考案内容の発表と決定を行い、イベントの告知に向けて、インスタ告知用ハッシュタグ考案を考えPRをどのように行うかを考えることができる。
6回目	DAYスケジュール・施行装飾イメージシート、台本を行い、準備に対してイメージを深めることができる。 各チーム打ち合わせ、動作確認等を行い、役割をしっかりと認識することができる。
7回目	衣裳小物合わせ(ドレスフィッティング)とロールプレイング。 お客様に対して、ドレスフィッティングの対応、小物合わせのコーディネート対応方法を学ぶことができる。
8回目	衣裳フィッティング(30分)、準備(10分)施行発表(20分)の確認を行い、別チームがフィードバックすることで、気づかなかった点を発見することができる。
9回目	衣裳フィッティング(30分)、準備(10分)施行発表(20分)の確認を行い、別チームがフィードバックすることで、気づかなかった点を発見することができる。
10回目	1.衣裳フィッティング(30分)、準備(10分)施行発表(20分)の確認を行い、別チームがフィードバックすることで、気づかなかった点を発見することができる。 2.リアルウェディングPR用ハッシュタグ考案等を考えて、お客様に告知を行う準備をする。
11回目	イベント進行内容考案:役割分担、概算見積もり、必要資料作成、発注作業など、実際のイベント実施に向けての準備を行うことで、何が前もって必要なかを考えることができる。
12回目	イベントリハーサル及び、準備:当日の注意事項等打ち合わせを行い、リスクマネジメントについて確認することができる。
13回目	イベント本番:準備してきたことを学生で対応。実際のお客様(オープンキャンパスの来校者)をご案内するとともに、模擬挙式、ブライダルフォト撮影を実践することができる。
14回目	1.イベント振り返りと今後のイベント企画考案(マーケットリサーチ、ターゲットリサーチ、告知方法を資料作成)を行うことで、さらによりよいイベントを作るにはどうすればよいかを考えることができる。
15回目	企画発表:各チームで企画を検証し、イベント・接客対応の両方から考えてよい案を選び、実践につなげる準備イメージを行うことができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

--	--

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダルプランナーⅣ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	Bridal PlannerⅣ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
<p>フローリストナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていずれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>ブライダル業界で就労するにあたり、各専門分野のスキル習得や、マーケティング・マネジメントを理解しておく事は不可欠であるため、本授業では、実践学習を取入れたPDCAサイクルを行い、ブライダルのリベラルアーツとして幅広い知識と教養を身に付ける学習内容とする 株式会社ワールドウェディングより販売している「キャンパスウェディング」を学生が対応する。</p>							
【到達目標】							
<p>自分が習得しなければならない各専門分野が明確になる。また、産学連携プロジェクトに関わり、より実践的なブライダルを習得する事ができるようになる。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	前期の授業を振り返り、ブライダルフォトに向けての施行用資料作成することができる。
2回目	役割分担決定及び、打ち合わせ準備を行う。
3回目	お客様と実際に打ち合わせを行う。
4回目	お客様と打ち合わせを行った際の内容やお客様の雰囲気など情報共有を行う。 情報をもとに次のお打ち合わせにむけて資料作成など準備を行う。
5回目	お打ち合わせのために準備、必要なものの最終確認作業を行う。
6回目	ヘアメイクリハーサル、最終お打ち合わせを行う。
7回目	フォトウェディングに向けて準備、対応のロールプレイングを行い、接客の視点からも最終確認して準備に備えることができる。
8回目	フォトウェディング施行
9回目	フォトウェディングの振り返り。反省を行い、次回の挙式・イベントに向けて準備をすることができる。
10回目	ワールドウェディング様より依頼確認及び、資料概要確認を行い、どのように対応を行っていくかを考えることができる。
11回目	施行のための資料作成を行う①
12回目	施行のための資料作成を行う②
13回目	発表及び、役割分担決定
14回目	ワールドウェディング様に直接ご提案することができる。
15回目	挙式に向けての施行の準備、最終確認を行うことができる。リアン挙式施行
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダル応用 I	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	Bridal Application I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科			2	曜日/時限		
【担当教員 実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。 その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会発行の『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』『ブライダル用語辞典』を使用し、 ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識の修得を図るとともに、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級の取得を目指す。							
【到達目標】							
ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識を修得し、用語について説明することができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	・ガイダンス ・ブライダルコーディネーター技能検定についての説明・過去問題に取り組む
2回目	・【コーディネーター業務】ブライダルセールスについて理解し、実践できるようになる
3回目	・【新規業務】について学び、手続きについて説明することができる
4回目	・【ブライダルセールスの特徴】ブライダル商品の特徴について理解し、説明できるようになる
5回目	・【成約業務】について学び、手続きについて説明することができる
6回目	・【打合せ業務】成約時から初回打合せまでの業務を理解し、説明できるようになる
7回目	・【打合せ業務】成約後の第1回目打合せの内容を理解し、説明できるようになる
8回目	・【打合せ業務】成約後の第2回目打合せの内容を理解し、説明できるようになる
9回目	・【打合せ業務】成約後の第3回打合せの業務内容を理解し、説明できるようになる
10回目	・過去問題①を解く
11回目	・過去問題①の解説
12回目	・過去問題②を解く
13回目	・過去問題②の解説
14回目	・過去問題③を解く
15回目	・過去問題③の解説 授業の振り返りを行い、各自理解度を深めていく。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
【使用教科書・教材・参考書】	
・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダル用語辞典 ・授業内でプリントを配布します。それをまとめるA4サイズのファイルを用意してください。	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダル応用Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員
	Bridal ApplicationⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。						
【授業の学習内容】						
BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会発行の『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』『ブライダル用語辞典』を使用し、ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識の修得を図るとともに、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級の取得を目指す。						
【到達目標】						
ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識を修得し、用語について説明することができるようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	検定試験についての説明を行い、合格に向けて最後の取り組みを行うことができるようになる。
2回目	会場提案①: 自身が考える理想の結婚式場とは
3回目	会場提案②: 結婚式場に必要設備について説明できるようになる
4回目	会場提案③: 結婚式場のテーマについて検討し、具体的な施設を提案することができるようになる
5回目	会場提案④: オリジナルパンフレットの制作を通して、会場の強みをアピールすることができるようになる
6回目	会場提案⑤: オリジナルパンフレットの制作を通して、顧客のニーズ反映することができるようになる
7回目	・【技能検定対策①】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
8回目	・【技能検定対策②】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
9回目	・【技能検定対策③】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
10回目	・【技能検定対策④】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
11回目	・【技能検定対策⑤】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
12回目	・【技能検定対策⑥】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、答えることができるようになる
13回目	ランダム試験問題①を解き、同じ間違いをしていないか確認し、苦手ポイントを克服する。
14回目	ランダム試験問題②を解き、同じ間違いをしていないか確認し、苦手ポイントを克服する。
15回目	模擬試験で最後の確認を行い、合格を目指すことができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】	
・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダル用語辞典 ・ワークブック ・過去問題	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 リアルウェディング応用 I Real Wedding application I	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
学科	ブライダルマネジメント科					
【担当教員 実務者経験】						
<p>JSH1期生として卒業後、株式会社LLBへ就職。 京都・大阪・兵庫・師がを中心にホテル・ゲストハウス・レストラン・専門式場など、結婚式場といわれるすべての分野でウェディングプランナーを経験。 現在は京都にある和邸宅とゲストハウスの2会場でマネージャーを兼任しながら、他会社の結婚式場にて派遣プランナーとして担当を受け持つ。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>模擬挙式を通じてお客様の人生に関わることの重大性を知り、結婚式を創るうえで大切な打合せやスケジュール管理等の事前準備・チームでの協調性をより強化していきましょう。</p>						
【到達目標】						
<p>1つの結婚式が創り上げられる過程から当日の流れまでを理解し行動に移すことができるようになる</p>						

回数	授業計画・内容
1回目	1. オリエンテーション(リアルウェディングという授業について) 2. チームメンバーの発表・挙式に必要な役割説明・チーム内での役割決め・提携チームの確定・提携先での役割決め
2回目	1. 挙式進行・スケジュールの組み立てができるようになる 2. 各チームごとに模擬挙式内容の検討・詳細資料作成(次回プレゼン用)
3回目	1～2. 各チームごとにプレゼン⇒フィードバックより改善・再構築⇒再プレゼン
4回目	1. 当日必須資料の作成ができるようになる(提出期限あり) 挙式における各役割の大切さが理解できるようになる 2. お衣装の提案～当日セッティング&片付けができるようになる
5回目	1～2. 模擬挙式当日の流れ(挙式前～お見送り)までの流れが理解できるようになる
6回目	1～2. 模擬挙式練習&改善(3チーム)
7回目	1～2. 模擬挙式練習&改善(3チーム)
8回目	1～2. 模擬挙式まで&模擬挙式後の動き練習&改善(3チーム)
9回目	1～2. 模擬挙式まで&模擬挙式後の動き練習&改善(3チーム)
10回目	1～2. 模擬挙式リハ(3チーム) ★お衣装着用なし・受付からお見送りまで(モデル必須)
11回目	1～2. 模擬挙式リハ(3チーム) ★お衣装着用なし・受付からお見送りまで(モデル必須)
12回目	1～2. 模擬挙式デモンストレーション(3チーム) ★衣装着用あり・受付からお見送りまで(モデル必須)
13回目	1～2. 模擬挙式デモンストレーション(3チーム) ★衣装着用あり・受付からお見送りまで(モデル必須)
14回目	1～2. 模擬挙式発表(3チーム)
15回目	1～2. 模擬挙式発表(3チーム)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】	
授業内にて随時配布	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 リアルウェディング応用Ⅱ Real Wedding applicationⅡ	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員・実務者経験】							
JSH1期生として卒業後、株式会社LLBへ就職。京都・大阪・兵庫・師がを中心にホテル・ゲストハウス・レストラン・専門式場など、結婚式場といわれるすべての分野でウェディングプランナーを経験。現在は京都にある和邸宅とゲストハウスの2会場でマネージャーを兼任しながら、他会社の結婚式場にて派遣プランナーとして担当を受け持つ。							
【授業の学習内容】							
リアルウェディングを通して、結婚式の流れを準備段階から理解しお客様の人生に関わるという責任感と素晴らしさを経験する							
【到達目標】							
1つ1つの行動の理解を深め、お客様の要望をくみ取る力が身に着くようになる。お客様と進めてきた内容を形にすることができるようになる							
回数	授業計画・内容						
1回目	1.2 オリエンテーションの振り返り、お客様情報の整理、ヒアリング方法と実践を行い、前期からの学びをブラッシュアップする。						
2回目	1.2 初回打合せ内容の再確認し、必要資料作成を作成して打ち合わせに望む。						
3回目	1.2 初回打合せ内容の振り返りと情報共有を行い、今後のアプローチについて考える。初回打合せのロールプレイングを行う。						
4回目	1.2 初回打合せの振り返りとまとめを行う。提案書の作成(1人1案)を行い、プランナーになった気持ちで対応ができるように準備を行う。						
5回目	1.2 提案書の発表・選定を行い、2回目打合せ内容の確認をする。役割決め						
6回目	1.2 2回目打合せに向けた最終確認、発注アイテムの進捗を情報共有する。人員確保の進捗、宿題やアイテムの期日について再確認を行い、未確認、不足している部分を確認する。(お客様の宿題作成具合確認)						
7回目	1.2 2回目打合せ後の振り返り、発注物・準備物の変更期日・確定期日確認、最終打合せに向けた準備・挙式練習を行い、実際の挙式をイメージする。(リハ方法含む)						
8回目	1.2 最終打合せの再確認、必要アイテム類の見直し、予算確認、挙式練習(リハ方法含む)						
9回目	リアルウェディング前日準備・1日の流れ再確認を行い、担務の最終確認、準備物の確認を行う。(お迎えからお見送りまで)						
10回目	リアルウェディング(本番)						
11回目	リアルウェディングの振り返り・お礼状の作成・リアルウェディングの記録作成(各自)						
12回目	発表に向けたプレゼン資料作成						
13回目	プレゼン発表(仮)→ブラッシュアップ(プレゼン再作成)						
14回目	プレゼン発表						
15回目	プレゼン結果発表・振り返り						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							
授業内にて配布							

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 企業研究Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	Corporate ReserchⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	プライダグマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。							
【授業の学習内容】							
「最終プレゼンテーション」ならびに「卒業・進級制作展」で質の高いプレゼンテーションをするために、相手意識にたつたりサーチや立案、課題解決のためのプレゼンテーション制作、プレゼンテーションの実施に取り組む。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・「最終プレゼンテーション」ならびに「卒業・進級制作展」で質の高い課題解決を目的としたプレゼンテーションができるようになる ・業界に出て効果的なプレゼンテーションができるようになる ・業界の様々な課題を解決する、ターゲットへ訴求するためのアプローチの知識や技術を養う 							

回数	授業計画・内容
1回目	プロジェクト課題を理解し、準備ができる ・授業内容の説明とチーム分け、「私のチームを知る」ワークシートを完成させることができる／ 課題オリエンテーション／A4用紙1枚に企画概要をまとめる
2回目	業界研究を行い、知識を深め、課題の本質を考えることができる
3回目	企業研究を行い、知識を深め、課題の本質を考えることができる(課題提供企業)
4回目	課題に対する市場調査を行い、言語化・視覚化し内容をまとめることができる
5回目	モニタリング・リサーチを元に、仮プラン作成を含めたプレゼンテーションスライドを作成できる(スライド作成①)
6回目	プレゼンテーションスライドのフィードバックを受け、ブラッシュアップできる(スライド作成②)
7回目	中間プレゼンテーションに向けてスキルの向上を図り、人に伝える伝わるプレゼンテーションができるようになる
8回目	中間プレゼンテーション、フィードバック、座談会を行い、自己のプレゼンテーションを振り返り問題点を見つけることができる
9回目	中間プレゼンテーションのフィードバックを反映しつつ、ブラッシュアップできる(スライド作成③)
10回目	クラス内で完成したプレゼンテーションを行ない、フィードバックを受けることができる
11回目	クラス内プレゼンテーションのフィードバックを反映しつつ、ブラッシュアップできる(スライド作成④)
12回目	最終プレゼンテーション、フィードバック／ フィードバックを受けてブラッシュアップできる
13回目	卒業・進級制作展We are JSHでのプレゼンテーションに向けてブラッシュアップ、調整ができる
14回目	前回の改善点を踏まえて卒業・進級制作展We are JSHでのプレゼンテーションに向けてブラッシュアップ、調整ができる
15回目	卒業・進級制作展We are JSHでのプレゼンテーションに向けて伝え方を考えてプレゼンテーションが出来ように最終確認をする
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・最終プレゼンテーションの質100%(リサーチを元にした内容30%、スライドの質30%、プレゼンテーション時の質＝話し方30%、ブラッシュアップにおける熱意10%)
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 エステ基礎 I Esthetic basic I	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員_実務者経験】							
エステティックサロンで技術者として約9年勤務、専門学校で講師として4年。							
【授業の学習内容】							
フェイシャルエステティックの基礎理論、基本技術をセルフケア、相モデルで行う。							
【到達目標】							
スキンケアなど社会人に向け、自身のセルフケアができるようになるとともに、簡単なトリートメントが提供できるようになる。 相モデル実技演習を通して、おもてなしのスキルを向上させる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 フェイシャルエステの概要が理解できるようになる。						
2回目	【セルフスキンケア】 クレンジングの理論の理解と、正しいクレンジングができるようになる。						
3回目	【相モデル①】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)						
4回目	【相モデル②】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)						
5回目	【セルフスキンケア】 マッサージの理論の理解と、基本のマッサージができるようになる。						
6回目	【相モデル①】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)						
7回目	【相モデル②】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)						
8回目	【セルフスキンケア】 ディープクレンジングの理論の理解し、選択できるようになる。						
9回目	【相モデル①】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)						
10回目	【相モデル②】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)						
11回目	【相モデル①】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)						
12回目	【相モデル②】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)						
13回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。						
14回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。						
15回目	総まとめとよく起きうる肌トラブルの対処方法アドバイスを行い、さらに美意識を高めることができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎演習課題の完成度_100%						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 ブライダルフラワーコーディネート I Flower Coordination I	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員_実務者経験】							
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。 フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級							
【授業の学習内容】							
ブライダルフラワーについて 特に花嫁に関するフラワーコーディネートを学ぶ							
【到達目標】							
ブライダルヘアードについての基本を理解し、制作できるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション この授業の目標点について ウェディングスタイリストに必要な事と目的について
2回目	好みのドレスと似合うドレス パーソナルチェックシートを利用し骨格・パーソナルカラーから似合うドレスを コーディネート出来るようになる→スタイリングコンセプトシート
3回目	ドレスとヘアメイク・ヘアードについて 似合うヘアードをコーディネート提案出来るようになる ※提出課題 スタイリングコンセプトシート
4回目	ヘアード① 花材について理解する ワイヤークラフトとテーピングを学びヘアードの仕組みを理解する
5回目	ヘアード① 花材について理解する ワイヤークラフトとテーピングを学びヘアードの仕組みを理解する
6回目	ヘアード② プリザーブド・ドライ素材のワイヤークラフトとテーピングの練習
7回目	ヘアード② プリザーブド・ドライ素材のワイヤークラフトとテーピングの練習
8回目	配色のセオリー 色相・トーン・配色を理解しコーディネート出来るようになる
9回目	イメージとカラーの関係性を理解し、イメージからコーディネート出来るようになる
10回目	ヘアード③ 生花のワイヤークラフト・テーピングと保水処理の練習
11回目	ヘアード③ 生花のワイヤークラフト・テーピングと保水処理の練習
12回目	ヒアリングからドレス・ヘアについてのスタイリングコンセプトシートを作成 パーソナルチェックを踏まえた スタイリングと似合うブーケをデザイン出来るようになる ※提出課題 スタイリングコンセプトシート
13回目	ヒアリングからドレス・ヘアについてのスタイリングコンセプトシートを作成 パーソナルチェックを踏まえた スタイリングと似合うブーケをデザイン出来るようになる ※提出課題 スタイリングコンセプトシート
14回目	ヘアード④ テーマに合わせたヘアードが作成できるようになる
15回目	ヘアード④ テーマに合わせたヘアードが作成できるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出課題 評価 ・技術試験

【使用教科書・教材・参考書】

カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 ブライダルヘアメイクⅢ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	Bridal Hair MakeⅢ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。 現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。							
【授業の学習内容】							
「ヘアメイクの基本理論～基礎技術」を学ぶ							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・メイク⇒顔型やパーツの配置バランスによる人のイメージを知り、基本バランスとなるメイクアップができるようになる。 ・ヘア⇒ヘアセットの基礎技術となるホットカーラー・ピン・ゴム等の使い方が身につく、ヘアアレンジへと繋がられるようになる。 							

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】授業の概要を理解し、美容道具の名称や衛生管理を学ぶ。
2回目	美容器具のお手入れについて学ぶ。(接客の際のホスピタリティを衛生面から学ぶことができる)
3回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる①(ランダムでペアを決める)
4回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる②(ランダムでペアを決める)
5回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる③(ランダムでペアを決める)
6回目	【基本のフルメイクアップ】基本バランスのフルメイクを相モデルでできるようになる④(ランダムでペアを決める)
7回目	【ヘア基礎】ブロッキングができるようになる。(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
8回目	【ヘア基礎】ブロッキングができるようになる。(ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
9回目	【ヘア基礎②】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
10回目	【ヘア基礎②】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
11回目	【ヘア基礎③】ゴムを扱い、ハーフアップ・一束結びができるようになる。(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
12回目	【ヘア基礎③】ゴムを扱い、ハーフアップ・一束結びができるようになる。(ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
13回目	【ヘア基礎④】ピンニングができるようになる。・ヘアアイロン・ストレートアイロンが使えるようになる(ウィッグを利用して一人ずつ学ぶ)
14回目	【ヘア基礎④】ピンニングができるようになる。・ヘアアイロン・ストレートアイロンが使えるようになる (ウィッグを利用し、出来具合を確認する)
15回目	【総まとめ】事前にあたえられたテーマでヘアメイクをする(ウィッグを利用して一人ずつ確認を行う)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・実技メイク50% ・実技ヘア50%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 ブライダルヘアメイクⅣ Bridal Hair MakeⅣ	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

<p>【担当教員、実務者経験】</p> <p>フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。 現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。</p>
<p>【授業の学習内容】</p> <p>ヘアメイクの応用技術を学ぶ</p>
<p>【到達目標】</p> <p>・メイク⇒イメージメイクの理論を知り各イメージの基本的な技術ができるようになる。 ・ヘア⇒面を生かした基本的なスタイルや、ゆるふわ・ハーフアップ等の基本パターンを学ぶ。</p>

回数	授業計画・内容
1回目	後期の授業において内容を理解し、前期の振り返りを行う。
2回目	【ヘアアレンジ① ハーフアップアレンジ】ブロッキングをし、ピンを使用したハーフアップができるようになる。
3回目	【ヘアアレンジ② 面を生かしたアップスタイル】ブロッキングを知り、基本となるかぶせアップスタイルができるようになる。
4回目	【ヘアアレンジ③ 面を生かしたアップスタイル】基本のかぶせのアップスタイルを完成させる事ができるようになる。
5回目	【ヘアアレンジ④ ゆるふわスタイル】基本のかぶせアップスタイルのブロッキングからゆるふわスタイルへと変化させる。
6回目	【ヘアアレンジのまとめ】ハーフアップ・アップスタイルの技術を確認し、苦手な点を克服することができる。
7回目	【ヘアアレンジのまとめ】かぶせアップスタイル・ゆるふわスタイルの技術を確認し、苦手な点を克服することができる。
8回目	【メイクテクニック①】キュートメイク 可愛いイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
9回目	【メイクテクニック②】エレガントメイク 綺麗なイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
10回目	【メイクテクニック③】フレッシュメイク フレッシュなイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
11回目	【メイクテクニック④】クールメイク かっこいいイメージのメイクアップの基礎ができるようになる。
12回目	【メイクテクニック⑤】相手の個性を分析し、相モデルでメイクができるようになる(ペアを組み、A番がモデル)
13回目	【メイクテクニック⑥】相手の個性を分析し、相モデルでメイクができるようになる(ペアを組み、B番がモデル)
14回目	【総まとめ①】相モデルの希望スタイルから、メイク・ヘアメイクができるようになる(ペアを組み、A番がモデル)
15回目	【総まとめ②】相モデルの希望スタイルから、メイク・ヘアメイクができるようになる(ペアを組み、B番がモデル)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・メイク技術50% ・ヘアメイク技術50%
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p>	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 書道 I	必修 選択	必須 選択	年次	2	担当教員	
	Japanese calligraphy I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科				4	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
【書歴】 第45回日本美術展覧会(日展)入選 ・ (公益社団法人)日本書芸院評議員 ・ 読売書法展幹事 ・ 璞社(山本大悦主催)総務							
【授業の学習内容】							
<p>硬筆では、日常文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得する。そのうえで漢字の原則を学ぶ。 封筒、返信はがきのマナーと書き方を身につける。毛筆では、祝儀袋を作り表書きをすることで、表書きの知識やマナーと書き方を身につける。</p>							
【到達目標】							
<p>日常文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得することで、文章全体の印象を70%よくする。社会に出たときに恥ずかしくない様に、表書き、封筒や結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につける。日本の伝統文化である書道に触れ親しみ、おもてなしの心と精神を養う。</p>							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション シラバスの確認、自己紹介、書道とホスピタリティ、硬筆文字診断を行い、自分の「字」を理解することができる。
2回目	①硬筆 ひらがな特有の線を身につけることができる。
3回目	②硬筆 ひらがなの字源を知り字形をマスターすることで、日常文の印象がよくなる。実習⑫のはがきの書き方に生かすことができる。
4回目	③硬筆 住所・氏名がバランスよく書けるようになる。実習⑩の表書きに生かすことができる。
5回目	④硬筆 漢字の基本点画を身につけることができる。
6回目	⑤硬筆 漢字の基本点画を身につけ、丁寧に文字が書けるようになる。
7回目	⑥硬筆 漢字の書き方の原則を学ぶことができる。
8回目	⑦硬筆 漢字の書き方の原則を効率よく学ぶことで、実習⑪のいろんな文字に生かすことができる。
9回目	⑧筆ペン 表書きの知識やマナーと書き方を身につけることができる。
10回目	⑨筆ペン 祝儀袋の作製を通して祝儀袋のマナーを身につけることができる。実習⑩に生かすことができる。
11回目	⑩筆ペン 実習⑨で作った祝儀袋に表書きをすることで、より一層心を込めて表書きができるようになる。
12回目	⑪硬筆・筆ペン 封筒、はがきのマナーと書き方のポイントを身につけることができる。
13回目	⑫硬筆 結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につけることができる。
14回目	⑬毛筆 毛筆の基本点画を身につけることができる。
15回目	⑭毛筆 全員で1つの課題に取り組むことで、他者の気持ちを組み取り、また配慮することができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・実習①～⑭の取り組みと課題の提出

【使用教科書・教材・参考書】	
硬筆用箋(岩本オリジナル)	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 華道 I Kado I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当 教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講 区分	
						曜日/ 時限	

【担当教員_実務者経験】

生花店勤務・花の総合会社ウェディング部門を経て、現在はスクール部門でレッスンデザイン・講師を務める。花職向上委員会会員。同委員会編の書籍出版(誠文堂新光社)に作品提供。生け花・フラワーアレンジメントなど花の装飾全般を研究中。

【授業の学習内容】

生け花の基礎を学ぶ。(道具の使い方、生け花の歴史、フラワーアレンジメントとの違い、色合わせや花合わせについて、場の演出について、行事と花についてなど)生け花の成り立ちを通して、日本人が「自然」とどのように関わってきたかを学ぶ。生け花の歴史を探ると、日本人のものの考え方や精神性は「自然」が大きく関連していることが分かる。それを自覚することは今後の個人の大きな礎になると思われる。

【到達目標】

生け花を通じて、日本の伝統文化の理解を深める。
花でもてなす楽しさを感じ、空間演出に際して花が重要であるという感性を身につける。
基礎的な「生け花」ができるようになり、花を通じて日本を語れるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション① レポートの書き方。生け花についての概要を知る。ハサミ・剣山が使えるようになる。
2回目	オリエンテーション② 免状取得について。簡潔なデッサンでデザインを他者に伝えられるようになる。
3回目	オリエンテーション③ 池坊DVD鑑賞。生け花の歴史から日本文化の理解を深めることができる。
4回目	オリエンテーション④ 器に対する花の比率を考える。バランス感覚を身につける。
5回目	植物の扱い① 水揚げ法。植物を大切に扱う方法を知る。
6回目	植物の扱い② 植物を矯める方法。植物の動きを生かす技を知る。
7回目	作品鑑賞① 教科書の作例を観る。縦・横・斜めの作品の違いが分かるようになる。
8回目	作品鑑賞② 教科書の作例を観る。造形美と自然美の違いが分かるようになる。
9回目	生け花の歴史 歴史の復習。 池坊の「立花・生花・自由花」3つの代表的な型の成り立ちが理解できるようになる。
10回目	花の文化① 日本人の自然観について。日本人の自然に対する感じ方を生け花の歴史から学ぶ。
11回目	花の文化② 日本人と西洋人。 それぞれの文化を比較し、花文化の違いを認識することで異文化理解ができるようになる。
12回目	花の文化③ 生け花とフラワーアレンジメントの違い。それぞれの違いが理解できるようになる。
13回目	花のコーディネート① 季節感、色合わせ、花合わせについて。ハーモニーの重要性が理解できるようになる。
14回目	花のコーディネート② 場の演出について。花を用いた空間演出の作例を鑑賞し、空間装飾の感性を養う。
15回目	花のコーディネート③ 行事と花について。花と行事の関わりを知り、花でおもてなしができるような感性を養う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・各回のレポート (レポートの内容+完成度をもって理解度とする) ・各回の実技演習 10%

【使用教科書・教材・参考書】

いけばな池坊 自由花入門カリキュラム お稽古ノート

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 茶道 I Tea ceremony I	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
曜日/時限							

【担当教員 実務者経験】

学生時代に師と出会い、入門。師のお稽古場にて活動。

【授業の学習内容】

茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、
他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。

【到達目標】

茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け閉め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。
おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション：茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目	和室での立ち居振る舞い①：お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を理解することができる。
3回目	和室での立ち居振る舞い②：立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見を理解することができる。
4回目	和室での立ち居振る舞い③：水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を理解することができる。
5回目	割稽古①：袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い、棗と茶杓を清める作法を理解することができる
6回目	割稽古②：茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目	割稽古③：茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までを通して理解することができる。
8回目	盆略点前①：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
9回目	盆略点前②：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
10回目	盆略点前③：客と亭主に分かれ、お仕舞いまで理解することができる。
11回目	盆略点前④：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
12回目	盆略点前⑤：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
13回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
14回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
15回目	着物をきて、お点前を行い、総まとめを行う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎筆記試験+実技試験

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 エステ基礎 I Esthetic basic I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】 エステティックサロンで技術者として約9年勤務、専門学校で講師として4年。
【授業の学習内容】 フェイシャルエステティックの基礎理論、基本技術をセルフケア、相モデル実技演習で行う。
【到達目標】 スキンケアなど社会人に向け、自身のセルフケアができるようになるとともに、簡単なトリートメントが提供できるようになる。 相モデル実技演習を通して、おもてなしのスキルを向上させる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 フェイシャルエステの概要が理解できるようになる。
2回目	【セルフスキンケア】 クレンジングの理論の理解と、正しいクレンジングができるようになる。
3回目	【相モデル実技演習①】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
4回目	【相モデル実技演習②】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
5回目	【セルフスキンケア】 マッサージの理論の理解と、基本のマッサージができるようになる。
6回目	【相モデル実技演習①】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
7回目	【相モデル実技演習②】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
8回目	【セルフスキンケア】 ディープクレンジングの理論の理解し、選択できるようになる。
9回目	【相モデル実技演習①】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
10回目	【相モデル実技演習②】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
11回目	【相モデル実技演習①】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
12回目	【相モデル実技演習②】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
13回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
14回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
15回目	総まとめとよく起きうる肌トラブルの対処方法アドバイスを行い、さらに美意識を高めることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎演習課題の完成度_100%

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 華道 I Kado I	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	

【担当教員 実務者経験】

生花店勤務・花の総合会社ウェディング部門を経て、現在はスクール部門でレッスンデザイン・講師を務める。花職向上委員会会員。同委員会編の書籍出版(誠文堂新光社)に作品提供。生け花・フラワーアレンジメントなど花の装飾全般を研究中。

【授業の学習内容】

生け花の基礎を学ぶ。(道具の使い方、生け花の歴史、フラワーアレンジメントとの違い、色合わせや花合わせについて、場の演出について、行事と花についてなど)
生け花の成り立ちを通して、日本人が「自然」とどのように関わってきたかを学ぶ。生け花の歴史を探ると、日本人のものの考え方や精神性は「自然」が大きく関連していることが分かる。それを自覚することは今後の個人の大きな礎になると思われる。

【到達目標】

生け花を通じて、日本の伝統文化の理解を深める。
花でもてなす楽しさを感じ、空間演出に際して花が重要であるという感性を身につける。
基礎的な「生け花」ができるようになり、花を通じて日本を語れるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション① レポートの書き方。生け花についての概要を知る。ハサミ・剣山が使えるようになる。
2回目	オリエンテーション② 免状取得について。簡潔なデッサンでデザインを他者に伝えられるようになる。
3回目	オリエンテーション③ 池坊DVD鑑賞。生け花の歴史から日本文化の理解を深めることができる。
4回目	オリエンテーション④ 器に対する花の比率を考える。バランス感覚を身につける。
5回目	植物の扱い① 水揚げ法。植物を大切に扱う方法を知る。
6回目	植物の扱い② 植物を矯める方法。植物の動きを生かす技を知る。
7回目	作品鑑賞① 教科書の作例を観る。縦・横・斜めの作品の違いが分かるようになる。
8回目	作品鑑賞② 教科書の作例を観る。造形美と自然美の違いが分かるようになる。
9回目	生け花の歴史 歴史の復習。 池坊の「立花・生花・自由花」3つの代表的な型の成り立ちが理解できるようになる。
10回目	花の文化① 日本人の自然観について。日本人の自然に対する感じ方を生け花の歴史から学ぶ。
11回目	花の文化② 日本人と西洋人。 それぞれの文化を比較し、花文化の違いを認識することで異文化理解ができるようになる。
12回目	花の文化③ 生け花とフラワーアレンジメントの違い。それぞれの違いが理解できるようになる。
13回目	花のコーディネート① 季節感、色合わせ、花合わせについて。ハーモニーの重要性が理解できるようになる。
14回目	花のコーディネート② 場の演出について。花を用いた空間演出の作例を鑑賞し、空間装飾の感性を養う。
15回目	花のコーディネート③ 行事と花について。花と行事の関わりを知り、花でおもてなしができるような感性を養う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・各回のレポート (レポートの内容+完成度をもって理解度とする) ・各回の実技演習 10%

【使用教科書・教材・参考書】

いけばな池坊 自由花入門カリキュラム お稽古ノート

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 書道 I Japanese calligraphy I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当 教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講 区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

【書歴】 第45回日本美術展覧会(日展)入選 ・ (公益社団法人)日本書芸院評議員 ・ 読売書法展幹事 ・ 璞社(山本大悦主催)総務

【授業の学習内容】

硬筆では、日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得する。そのうえで漢字の原則を学ぶ。
封筒、返信はがきのマナーと書き方を身につける。
毛筆では、祝儀袋を作り表書きをすることで、表書きの知識やマナーと書き方を身につける。

【到達目標】

日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得することで、文章全体の印象を70%よくする。
社会に出たときに恥ずかしくない様に、表書き、封筒や結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につける。
日本の伝統文化である書道に触れ親しみ、おもてなしの心と精神を養う。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション シラバスの確認、自己紹介、書道とホスピタリティ、硬筆文字診断を行い、自分の「字」を理解することができる。
2回目	(実技演習①)硬筆 ひらがな特有の線を身につけることができる。
3回目	(実技演習②)硬筆 ひらがなの字源を知り字形をマスターすることで、日本文の印象がよくなる。 実技演習⑫のはがきの書き方に生かすことができる。
4回目	(実技演習③)硬筆 住所・氏名がバランスよく書けるようになる。実技演習⑩の表書きに生かすことができる。
5回目	(実技演習④)硬筆 漢字の基本点画を身につけることができる。
6回目	(実技演習⑤)硬筆 漢字の基本点画を身につけ、丁寧に文字が書けるようになる。
7回目	(実技演習⑥)硬筆 漢字の書き方の原則を学ぶことができる。
8回目	(実技演習⑦)硬筆 漢字の書き方の原則を効率よく学ぶことで、実技演習⑪のいろんな文字に生かすことができる。
9回目	(実技演習⑧)筆ペン 表書きの知識やマナーと書き方を身につけることができる。
10回目	(実技演習⑨)筆ペン 祝儀袋の作製を通して祝儀袋のマナーを身につけることができる。実技演習⑩に生かすことができる。
11回目	(実技演習⑩)筆ペン 実技演習⑨で作った祝儀袋に表書きをすることで、より一層心を込めて表書きができるようになる。
12回目	(実技演習⑪)硬筆・筆ペン 封筒、はがきのマナーと書き方のポイントを身につけることができる。
13回目	(実技演習⑫)硬筆 結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につけることができる。
14回目	(実技演習⑬)毛筆 毛筆の基本点画を身につけることができる。
15回目	(実技演習⑭)毛筆 全員で1つの課題に取り組むことで、他者の気持ちを組み取り、また配慮することができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

硬筆用箋(岩本オリジナル)

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 茶道 I tea ceremony I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

学生時代に師と出会い、入門。師のお稽古場にて活動。

【授業の学習内容】

茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。

【到達目標】

茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け閉め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション：茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目	和室での立ち居振る舞い①：お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を理解することができる。
3回目	和室での立ち居振る舞い②：立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見を理解することができる。
4回目	和室での立ち居振る舞い③：水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を理解することができる。
5回目	割稽古①：袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い、棗と茶杓を清める作法を理解することができる
6回目	割稽古②：茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目	割稽古③：茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までを通して理解することができる。
8回目	盆略点前①：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
9回目	盆略点前②：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
10回目	盆略点前③：客と亭主に分かれ、お仕舞いまで理解することができる。
11回目	盆略点前④：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
12回目	盆略点前⑤：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
13回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
14回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
15回目	着物をきて、お点前を行い、総まとめを行う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 エステ基礎 I Esthetic basic I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

エステティックサロンで技術者として約9年勤務、専門学校で講師として4年。

【授業の学習内容】

フェイシャルエステティックの基礎理論、基本技術をセルフケア、相モデル実技演習で行う。

【到達目標】

スキンケアなど社会人に向け、自身のセルフケアができるようになるとともに、簡単なトリートメントが提供できるようになる。
相モデル実技演習を通して、おもてなしのスキルを向上させる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 フェイシャルエステの概要が理解できるようになる。
2回目	【セルフスキンケア】 クレンジングの理論の理解と、正しいクレンジングができるようになる。
3回目	【相モデル①】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
4回目	【相モデル②】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
5回目	【セルフスキンケア】 マッサージの理論の理解と、基本のマッサージができるようになる。
6回目	【相モデル①】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
7回目	【相モデル②】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
8回目	【セルフスキンケア】 ディープクレンジングの理論の理解し、選択できるようになる。
9回目	【相モデル①】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
10回目	【相モデル②】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
11回目	【相モデル①】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
12回目	【相モデル②】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
13回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
14回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
15回目	総まとめとよく起きうる肌トラブルの対処方法アドバイスを行い、さらに美意識を高めることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎演習課題の完成度_100%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 書道 I Japanese calligraphy I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

【書歴】 第45回日本美術展覧会(日展)入選 ・ (公益社団法人)日本書芸院評議員 ・ 読売書法展幹事 ・ 璞社(山本大悦主催)総務

【授業の学習内容】

硬筆では、日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得する。そのうえで漢字の原則を学ぶ。
封筒、返信はがきのマナーと書き方を身につける。
毛筆では、祝儀袋を作り表書きをすることで、表書きの知識やマナーと書き方を身につける。

【到達目標】

日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得することで、文章全体の印象を70%よくする。
社会に出たときに恥ずかしくない様に、表書き、封筒や結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につける。
日本の伝統文化である書道に触れ親しみ、おもてなしの心と精神を養う。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション シラバスの確認、自己紹介、書道とホスピタリティ、硬筆文字診断を行い、自分の「字」を理解することができる。
2回目	硬筆 ひらがな特有の線を身につけることができる。
3回目	硬筆 ひらがなの字源を知り字形をマスターすることで、日本文の印象がよくなる。 12回目のはがきの書き方に生かすことができる。
4回目	硬筆 住所・氏名がバランスよく書けるようになる。実習⑩の表書きに生かすことができる。
5回目	硬筆 漢字の基本点画を身につけることができる。
6回目	硬筆 漢字の基本点画を身につけ、丁寧に文字が書けるようになる。
7回目	硬筆 漢字の書き方の原則を学ぶことができる。
8回目	硬筆 漢字の書き方の原則を効率よく学ぶことで、実習⑪のいろんな文字に生かすことができる。
9回目	筆ペン 表書きの知識やマナーと書き方を身につけることができる。
10回目	筆ペン 祝儀袋の作製を通して祝儀袋のマナーを身につけることができる。実習⑩に生かすことができる。
11回目	筆ペン 10回目で作った祝儀袋に表書きをすることで、より一層心を込めて表書きができるようになる。
12回目	硬筆・筆ペン 封筒、はがきのマナーと書き方のポイントを身につけることができる。
13回目	硬筆 結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につけることができる。
14回目	毛筆 毛筆の基本点画を身につけることができる。
15回目	毛筆 全員で1つの課題に取り組むことで、他者の気持ちを組み取り、また配慮することができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 演習の取り組みと課題の提出
【使用教科書・教材・参考書】	
硬筆用箋(岩本オリジナル)	

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 社会人即戦力 I work-ready course I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科	プライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

株式会社キーエンスで西日本1位になった営業力を駆使し、希望企業から内定獲得させる「内定獲得塾」と内定者向けの社会人即戦力塾(プロ養成塾)を15年間主宰している

【授業の学習内容】

企業が求める社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身につける。昨今、企業には新入社員を育てていける余裕がなく、企業はまさに即戦力を求めている。そのための社会人即戦力講座を行う

【到達目標】

いかなる問題や課題もチャンスと捉えらえるようになるだけでなく、自ら、問題解決できるようになる。また、分かち合い、助け合う、思いやりある人材を育てる。最後に社会人になる前に営業・販売の基礎を身に付け、実践できるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)社会人即戦力とは何か?についてグラドルールを理解できるようになる。
2回目	社会人基礎力を身につけるための考え方～安楽の欲求と充実の欲求について学び、充実感ある社会人像とは何か知る
3回目	社会人になるために自立型姿勢を学ぶことで、ピンチをチャンスにする思考を得られる
4回目	「分かち合える人財」について学ぶことで、他喜力が得られる
5回目	映画:「今を生きる」から学ぶ～カーペディエム(今を生きる)、行動力を得られる
6回目	「時流の変化」の5つの変遷を用いて、時流力を得られる
7回目	不可能を可能にする5箇条である「充実体験」ワークを行うことで、不可能を可能にする思考を得られる
8回目	不可能を可能にする5箇条である「可能思考」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
9回目	不可能を可能にする5箇条である「理想の一日」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
10回目	不可能を可能にする5箇条である「one team」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
11回目	「営業の5ステップ」を体系的に学ぶことで、営業力が得られる
12回目	「マーケティング」について学ぶことで、戦略的思考が得られる
13回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を学ぶことで、伝達力が得られる
14回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を活かしたプレゼンテーションを作成できるようになる
15回目	社会人になる前にどんな輝いた社会人になるかを発表し、ロールモデルを明確にする
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・「課題提出と小テストの完成度」
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【就職対策】 社会人即戦力Ⅱ work-ready courseⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
株式会社キーンエンスで西日本1位になった営業力を駆使し、希望企業から内定獲得させる「内定獲得塾」と内定者向けの社会人即戦力塾(プロ養成塾)を15年間主宰している							
【授業の学習内容】							
企業が求める社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身につける。昨今、企業には新入社員を育てていける余裕がなく、企業はまさに即戦力を求めている。そのための社会人即戦力講座を行う							
【到達目標】							
いかなる問題や課題もチャンスと捉えらえるようになるだけでなく、自ら、問題解決できるようになる。また、分かち合い、助け合う、思いやりある人材を育てる。最後に社会人になる前にプレゼンテーション力・営業力・メンタリング力を身につける							

回数	授業計画・内容
1回目	続・社会人即戦力とは何か?についてグランドルールを理解(営業力、メンタリングセッション、プレゼンテーション、前期振り返りなど)
2回目	営業の5ステップの概要と、「オープニング」とは何かを学び、営業力が身につく
3回目	営業の5ステップの「オープニング」の”傾聴力”を高め、営業力が身につく
4回目	営業の5ステップの「オープニング」の”ターゲットチャーム”力を高め、営業力が身につく
5回目	営業の5ステップの「オープニング」の”マインド”を学ぶことで、営業力が身につく
6回目	営業の5ステップの「プロービング」とは何かを学び、”問題意識を引き出す”力を高め、営業力が身につく
7回目	営業の5ステップの「プロービング」の”もし仮にトーク”力を高め、営業力が身につく
8回目	営業の5ステップの「プロービング」の6要素を学び、お客様のニーズを把握する力を高め、営業力が身につく
9回目	営業の5ステップの「クロージング」の”契約しない理由の10要素”の反論反証を学ぶことで、営業力が身につく
10回目	営業の5ステップの「クロージング」の”クロージング前トーク”と”間を使う”トレーニングを行うことで、営業力が身につく
11回目	メンタリングセッションについて何か学ぶことで、社会人即戦力が高まる
12回目	メンタリングセッションにおける結果発表と人をやる気にさせる6要素を学ぶことで、社会人即戦力が高まる
13回目	2300人を感動させた最先端プレゼンテーションを鑑賞することで、プレゼンテーションとは何か理解し、社会人即戦力が高まる
14回目	目指すべき社会人像について学生が決意表明を行うことで、全員でモデリングが明確になり、社会人即戦力が高まる
15回目	プレゼンテーション作成を行い、自分の目指すべき社会人像を明確にする
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・「課題提出と小テストの完成度」
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス ※同 授業科目内の「必須選択」より60時間選択する

科目名 (英)	【企業マーケティング】 PR戦略	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
	PR strategy	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	プライダルマネジメント科			4	曜日/時限		
【担当教員 実務者経験】							
テレビ局にて番組制作・営業企画に携わる。その後ガールズのメイベントの実行委員として従事。クロスメディアでのプロモーションの必要性を感じ、イベント企画運営の際にも様々な媒体と連携をとりながら、SNSでのプロモーションを独学で習得。現在はPR制作会社としてイベント企画運営・動画制作・メディアリレーション・外部広報をこなす。							
【授業の学習内容】							
PRはいずれの職業についても必要な項目。正しい広報のあり方を知り、プロモーションの基礎を学ぶ。また宣伝という分野では特にSNSのプロモーションのやり方、効果を学び、実践に役立てる。							
【到達目標】							
広報と宣伝の違いを知り、それぞれのメリットを知る。各SNSの違いを知り、目的に応じたツールを選択することができるようになり、簡単な操作ができるようになる。							

回数	授業計画・内容		
1回目	プロモーションの基礎、広報と宣伝の違い、手段について理解できるようになる	16回目	ツイッター運用について基礎を学ぶ/イベントの広報について概要と役割を説明
2回目	広報での必要条件を学ぶ。個人と企業との発信について理解できるようになる	17回目	イベントのメディア向け資料の作成ができるようになる
3回目	コンプライアンスについて学ぶ。発信する内容に責任を持つことを理解できるようになる	18回目	イベント体験(メディア受付のスタッフとして従事。実施報告書の作成に必要な取材ができるようになる)
4回目	SNSのツールについて概要・違いを知り、的確なツールを選定できるようになる。インスタのプロフィール、ハッシュタグの設定について理解できるようになる	19回目	イベント体験(メディア受付のスタッフとして従事。実施報告書の作成に必要な取材ができるようになる)
5回目	アプリ・キュレーションサイトの運用について理解できるようになる(読売テレビanna 設立者による特別講義)	20回目	イベント体験(メディア受付のスタッフとして従事。実施報告書の作成に必要な取材ができるようになる)
6回目	夏イベントのプロモーションとして必要なハッシュタグを発表。写真・動画の撮影方法について学び、アプリ・HPサイトを使って画像を制作することができるようになる。(パソコンルーム)	21回目	映画祭 イベントについての概要説明・担当内容の説明→イベント現場でスタッフとして従事することにより進行管理を実体験できる
7回目	共感できる動画の作り方を理解できるようになる(元MBS宣伝部 CPによる特別講義)(相談あり)	22回目	映画祭イベント体験をし、プレスリリースを作成することができるようになる
8回目	フェイスブックのビジネスマネジャー・インスタ広告の出稿方法について理解できるようになる	23回目	映画祭イベント体験をし、プレスリリースを作成することができるようになる
9回目	広告の分析方法を知る。ターゲットの絞り方について理解できるようになる	24回目	映画祭イベント体験をし、プレスリリースを作成することができるようになる
10回目	グループ実践:リアルウェディングを題材にし、PRの戦略を立てる。取材・スケジュールリングができるようになる	25回目	プレスリリースを以てプレゼンテーションが出来るようになる
11回目	グループ実践: SNSでの配信内容を考えて、発表。具体的な訴求内容を明確に理解することができる	26回目	産学連携プロジェクト(街をPRする内容を現地視察で考える)を通して、PRテクニックを実践することができる
12回目	グループ実践: 撮影・加工編集を実施 → 広告出稿ができるようになる。(パソコンルーム)	27回目	取材写真撮影。コンセプトや取材内容を考えることができるようになる
13回目	プレスリリースについて学び、簡易的なリリースを作成することができるようになる。	28回目	SNSの投稿準備を行い、企業さまにPRができるようになる
14回目	ユニークな広告・宣伝・プロモーションについて学ぶ。キャッチコピー・デザインの訴求力を学ぶ。ライブ配信・ライブコマースについても理解できるようになる。	29回目	企業さまにプレゼンテーションができるようになる
15回目	前期講義で学んだことから広報・宣伝のプランを立て、発表。(パソコンルーム)	30回目	プロジェクトで学んだことを発表し、今後につなげることができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。		
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。		
【使用教科書・教材・参考書】			
スマートフォン			

授業シラバス

科目名 (英)	【企業マーケティング】 企業研究 III	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Corporate Project III	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。

【授業の学習内容】

テーマ(月1つ目安)を設定してリサーチ → プレゼン作成 → 発表を行いません。

【到達目標】

・様々な情勢・災害・大事件が社会や観光業界に与える影響を学び、業界の対応と発展について考察することができる。
・リサーチ→プレゼン作成→発表を繰り返し、効果的なプレゼンテーションに必要な技術を養う。

回数	授業計画・内容
1回目	「〇〇が自分の生活に与えた影響」について振り返り、まとめることができるようになる
2回目	情勢や災害に大きく影響を受けたホスピタリティ業界の職業をひとつ選び、その影響と考えられる対策について調べ、まとめることができるようになる
3回目	前週の内容を必要に応じてブラッシュアップし、プレゼンすることができる
4回目	コロナ後、人々に「結婚式をしよう」と思わせるためにどんなプロジェクトを企画すれば効果的かを考え、まとめることができる
5回目	前週の内容を必要に応じてブラッシュアップし、プレゼンすることができる
6回目	阪神大震災、東日本大震災、熊本地震のうち天災をひとつ選んで取り上げ、それがホスピタリティ業界(職業をひとつ選んで取り上げても良い)に与えた影響について調べ、まとめる
7回目	前週の内容を必要に応じてブラッシュアップし、プレゼンすることができるようになる
8回目	地下鉄サリン事件、9.11、ロンドン同時爆破のうち人災をひとつ選んで取り上げ、それがホスピタリティ業界(職業をひとつ選んで取り上げても良い)に与えた影響について調べ、まとめる
9回目	前週の内容を必要に応じてブラッシュアップし、プレゼンすることができるようになる
10回目	中東情勢、反日主義、ユーロ危機のうち人災によって影響を受けた業界(職業をひとつ選んで取り上げても良い)がどのように復活したかについて調べ、考察を含めてまとめる
11回目	前週の内容を必要に応じてブラッシュアップし、プレゼンすることができるようになる
12回目	SNSがホスピタリティ業界(職業をひとつ選んで取り上げても良い)に与えた影響について調べ、まとめることができるようになる
13回目	前週の内容を必要に応じてブラッシュアップし、プレゼンすることができるようになる
14回目	ホスピタリティ業界(職業をひとつ選んで取り上げても良い)において自分がどのように仕事をしていくか、業界や職業にどのように影響を与えていくかを考え、ビジュアル的にまとめることができるようになる
15回目	前週の内容を必要に応じてブラッシュアップし、プレゼンすることができるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス ※同 授業科目内の「必須選択」より60時間選択する

科目名 (英)	【企業マーケティング】 企業研究 IV	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当 教員	
	Corporate Project IV	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講 区分	
学科	プライダルマネジメント科					曜日/ 時限	

【担当教員 実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。

【授業の学習内容】

「最終プレゼンテーション」ならびに「卒業・進級制作展」で質の高いプレゼンテーションをするために、相手意識にたったリサーチや、課題解決のためのプレゼンテーション制作、プレゼンテーションに取り組む。選ばれたチームのプランをプレスリリースとして作成し、業界に広く認知してもらう。

- ・「最終プレゼンテーション」ならびに「卒業・進級制作展」で質の高い課題解決を目的としたプレゼンテーションができるようになる
- ・社会に出て効果的なプレゼンテーションができるようになる
- ・社会(特にホスピタリティ業界)の様々な問題を解決するためのアプローチの技術や知識を養う
- ・提案内容を業界に認知してもらうことができるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	プロジェクト課題を理解し、準備ができる ・授業内容の説明とチーム分け、「私のチームを知る」ワークシートを完成させることができる／課題オリエンテーション／A4用紙1枚に企画概要をまとめる
2回目	業界研究を行い、知識を深め、課題の本質を考えることができる
3回目	企業研究を行い、知識を深め、課題の本質を考えることができる(課題提供企業)
4回目	課題に対する市場調査を行い、言語化・視覚化し内容をまとめることができる
5回目	モニタリング・リサーチを元に、仮プラン作成を含めたプレゼンテーションスライドを作成できる(スライド作成①)
6回目	プレゼンテーションスライドのフィードバックを受け、ブラッシュアップできる(スライド作成②)
7回目	中間プレゼンテーションに向けてスキルの向上を図り、人に伝える伝わるプレゼンテーションができるようになる
8回目	中間プレゼンテーション、フィードバック、座談会を行い、自己のプレゼンテーションを振り返り問題点を見つけることができる
9回目	中間プレゼンテーションのフィードバックを反映しつつ、ブラッシュアップできる(スライド作成③)
10回目	クラス内で完成したプレゼンテーションを行ない、フィードバックを受けることができる
11回目	クラス内プレゼンテーションのフィードバックを反映しつつ、ブラッシュアップできる(スライド作成④)
12回目	最終プレゼンテーション、フィードバック／フィードバックを受けてブラッシュアップできる
13回目	卒業・進級制作展We are JSHでのプレゼンテーションに向けてブラッシュアップ、調整ができる
14回目	プレゼンテーション内容をまとめ、業界にアプローチできるような記事をプレスリリースとして作成する
15回目	企業とコンタクトを取り、作成したプレスリリースをもって、業界にアプローチできるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・最終プレゼンテーションの質100%(リサーチを元にした内容30%、スライドの質30%、プレゼンテーション時の質＝話し方30%、ブラッシュアップにおける熱意10%)
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 イベントプランニングⅤ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
	Event Planning Ⅴ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
学科	ブライダルマネジメント科					

【担当教員 実務者経験】

イベント制作会社での制作進行業務並びにディレクターを経て、フリーランスと転身し現在に至る。
式典進行、飲食イベント、行政関係等様々なイベントの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

イベント制作過程における、予算や制作スケジュール・当日に向けての準備から終了後までに
必要になるスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、予算管理・制作進行等の制作に関わる全てを担える力を習得することを目指します。
チームで取り組む際の情報共有の大切さ・リスクマネジメント等の認識の必要性を育みます。
イベント運営における、制作・事前準備・事後業務等、必要な知識やスキルを習得することを目指します。

回数	
1回目	【オリエンテーション】イベント制作とは何かを改めて理解する。イベントにとって大切なモノは何かを改めて考える。
2回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 2年次の振り返りを行いながら、新しいイベントを企画する①(クラスで2グループに分かれてグループワークで考える。)
3回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 2年次の振り返りを行いながら、新しいイベントを企画する②(大人数で行うために何がチームに必要なことを考える。)
4回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 2年次の振り返りを行いながら、新しいイベントを企画する③(企画したうえでイベントの目的・目標を定めることができる。)
5回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 2年次の振り返りを行いながら、新しいイベントを企画する④(予算組、スタッフの役割を考える)
6回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 Aチーム、Bチームのプレゼンテーションを行い、互いのチームから質疑応答を行う。「気づき」に触れて、不足している部分を考えることができる。
7回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 前回のプレゼンテーションから案を練り直し、イベント企画においてさらに詳細を考えていく
8回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 イベントにおけるタイムスケジュールを考えていく。スタッフの導線も考えることができる。
9回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 講師の前で発表を行う。企画の上で学びが活かされているかどうか、実際に行うことが可能なイベントかどうかの確認を行う。
10回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 前回の発表からフィードバックをもとに、改めてイベントの詳細を見直し、よりよい計画を立てることができる。
11回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 集客方法について考える。イベントを盛り上げるための作戦を考えることができる①
12回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 集客方法について考える。イベントを盛り上げるための作戦を考えることができる②(前回と別案の集客方法を考える)
13回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 最終プレゼンテーションのための準備を行う。資料をまとめる、PPTの作成。
14回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 最終プレゼンテーションのための準備を行う。資料をまとめる、PPTの作成を行い、完成させる
15回目	【イベント制作】新しいイベントの企画を行う。 最終プレゼンテーション 講師よりの総評を行い、後期のイベント実施に向けてさらに準備を進めることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 イベントプランニングVI	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
	Event PlanningVI	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
学科	ブライダルマネジメント科					
【担当教員_実務者経験】						
<p>イベント制作会社での制作進行業務並びにディレクターを経て、フリーランスと転身し現在に至る。 式典進行、飲食イベント、行政関係等様々なイベントの制作業務に従事する。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>イベント制作過程における、予算や制作スケジュール・当日に向けての準備から終了後までに 必要になるスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。</p>						
【到達目標】						
<p>イベントを一から企画し、予算管理・制作進行等の制作に関わる全てを担える力を習得することを目指します。 チームで取り組む際の情報共有の大切さ・リスクマネジメント等の認識の必要性を育みます。 イベント運営における、制作・事前準備・事後業務等、必要な知識やスキルを習得することを目指します。</p>						
回数						
1回目	【オリエンテーション】前期の取り組みを振り返り、後期に行うイベントに向けての意識を高めることができる。					
2回目	【イベントの準備】 作成したタイムスケジュール通りにイベントマニュアルを作成する① 準備物の一覧を作成する。					
3回目	【イベントの準備】 作成したタイムスケジュール通りにイベントマニュアルを作成する② 準備品を制作、発注準備を行う。					
4回目	【イベントの準備】 作成したタイムスケジュール通りにイベントマニュアルを作成し、リスクマネジメントを踏まえうえで見直すことができる。準備品を制作、発注準備を行う。					
5回目	【イベントの準備】 イベントマニュアルの見直しを講師確認とともに進行。不足している部分に気づくことができる。					
6回目	【イベントの準備】 準備品の制作を完成させることができる。集客へのPRを開始させる。					
7回目	イベント開催Aチーム ※BチームはAチームのマニュアルに沿ってヘルプに入る。					
8回目						
9回目	イベント開催Bチーム ※AチームはBチームのマニュアルに沿ってヘルプに入る。					
10回目						
11回目	【イベント開催後の反省】 実際にイベントを開催し、良かった点や反省点をあげて、どのように行えば改善されるかを考えることができる。					
12回目	【プレゼンテーション準備】 イベントの開催報告のプレゼンテーションを行う準備をする①					
13回目	【プレゼンテーション準備】 イベントの開催報告のプレゼンテーションを行う準備をする②					
14回目	【プレゼンテーション準備】 プレゼンテーションを行い、互いのチームが総評しあい、「気づき」を発見することができる。					
15回目	総まとめ イベントを開催するに於ける大切なポイントは何か、むずかしさ、楽しさ、達成感のポイントを振り返ることができる。					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。					
【使用教科書・教材・参考書】						

授業シラバス ※同 授業科目内の「必須選択」から120時間の選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ウェディングパーティー基礎 I Wedding party basic I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員_実務者経験】							
<p>大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。 ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、 現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。</p>							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・披露宴の基本的な流れを学ぶ ・様々なパターンの演出を学ぶ 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・披露宴の知識を深め、基本的な流れを理解できるようになる ・お客様に合わせた演出が提案できるように、プランの引き出しを増やすことができる 							
回数	授業計画・内容						
1回目	(オリエンテーション)1年間を通し、この授業で何を勉強し何が身につくかが分かる シラバス確認、1年間の活動確認						
2回目	披露宴の意味、ルーツ、意義を知ることができる						
3回目	企業さま特別講義を通してトレンドの披露宴を知ることができるようになる						
4回目	披露宴の一般的な流れを理解できるようになる						
5回目	タイムスケジュールを管理できるようになる						
6回目	一般的な演出をタイムスケジュールも併せて理解できるようになる						
7回目	トレンドの演出を知り、意味合いを理解することができる						
8回目	ケーススタディーを行い、リスク管理をしながら演出を考えることができる						
9回目	新郎新婦パターンに合わせて披露宴演出を考えることができる						
10回目	新郎新婦パターンに合わせて披露宴演出を考えることができる						
11回目	一般的な披露宴の進行表を作成できるようになる						
12回目	仮の新郎新婦情報を元に披露宴提案書を提示できるようになる①(第1回打ち合わせ)						
13回目	仮の新郎新婦情報を元に披露宴提案書を提示できるようになる②(第2回打ち合わせ)						
14回目	仮新郎新婦情報を元に披露宴進行表を作成できるようになる①(第3回打ち合わせ)						
15回目	仮新郎新婦情報を元に披露宴進行表を作成できるようになる②(第4回打ち合わせ)						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス ※同 授業科目内の「必須選択」から120時間の選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ウェディングパーティー基礎Ⅱ	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
	Wedding party basicⅡ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
<p>大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。 ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、 現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。</p>							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング情報を元に披露宴の流れを提案する ・プランニングした披露宴を開催する 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング情報を活かして、お客様と一緒に披露宴をプランニングできるようになる ・プランニングした披露宴を実践することができるようになる 							
回数	授業計画・内容						
1回目	前期プランニングした披露宴を行う為に何が必要かリストアップできるようになる						
2回目	必要リストを理解し、記入できるようになる						
3回目	披露宴に必要な機器・備品管理を理解できるようになる						
4回目	披露宴に必要な人材をリストアップし、マネジメントできるようになる①(適任確保、マネジメント)						
5回目	披露宴に必要な人材をリストアップし、マネジメントできるようになる②(情報伝達、管理、連絡ルートの確保、ハウレンソウの徹底)						
6回目	披露宴準備を行う①(機材がない状態で流れのデモンストレーションを行う)						
7回目	披露宴準備を行う②(流れのデモンストレーションを行う)						
8回目	披露宴準備を行う③(必要備品、飾りつけの確認)						
9回目	披露宴準備を行う④最終確認・調整						
10回目	披露宴リハーサルを行い、流れを落とし込むことができるようになる						
11回目	披露宴を開催し、学んできたことを体現できるようになる						
12回目	企業さまへ開催した披露宴をプレゼンテーションする為に、資料準備、プレゼンテーション練習を行う						
13回目	企業さまに開催した披露宴をプレゼンテーションし、評価・フィードバックをいただく						
14回目	2次会について知識を深め、新しい提案ができるようになる						
15回目	1年間の振り返り						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス ※同 授業科目内の「必須選択」より120時間選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ドレスコーディネート I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当 教員	
	Dress Coordinate I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講 区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/ 時限	

【担当教員 実務者経験】

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

【授業の学習内容】

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

【到達目標】

ドレス・衣装の補正の基本を学ぶことができる。裁縫の基礎知識を身に着ける。

回数	授業計画・内容
1回目	授業説明、オリエンテーションを行う。今後の授業に対して、必要な知識の復習と準備を行い、取り組むことができるようになる。
2回目	裁縫の基本、縫い方の種類を学び、丁寧に行うことができる。
3回目	裁縫の基本、縫い方の種類を学び、丁寧に行うことができる。
4回目	どのような場合に縫うのか、縫う場合と縫わずに衣装の採寸変更を行う場合の対処方法を学ぶことができる。
5回目	メンズのお直し(裾・袖丈)に付いての方法を学び、採寸に合わせたお直しを実際に行うことができる①(正しい採寸)
6回目	メンズのお直し(裾・袖丈)に付いての方法を学び、採寸に合わせたお直しを実際に行うことができる②(正しいお直し、仮止め、表にお直し部分が見えないようにする方法)
7回目	ドレスの素材に付いて学び、サイズのお直しを行うことができる①
8回目	ドレスの素材に付いて学び、サイズのお直しを行うことができる②
9回目	ドレスの素材に付いて学び、サイズのお直しを行うことができる③
10回目	ドレスの素材に付いて学び、サイズのお直しを行うことができる④
11回目	リスクマネジメントを鑑みた補修方法を学ぶことができる①
12回目	リスクマネジメントを鑑みた補修方法を学ぶことができる②
13回目	ヒアリングと実際に採寸～お直しを行い、丁寧さと正確さを確認することができる①(ロールプレイング)
14回目	ヒアリングと実際に採寸～お直しを行い、丁寧さと正確さを確認することができる②(ロールプレイング)
15回目	振り返りを行い、各自の技術の成長を確認する。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は ◎実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)	

授業シラバス ※同 授業科目内の「必須選択」より120時間選択する

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ドレスコーディネートⅡ	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
	Dress Coordinate II	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。							
【授業の学習内容】							
日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。							
【到達目標】							
ドレスコーディネートの技術、センス、決まりと補正・修繕を学んだ上で、ドレスアレンジを行うことができる。							

回数	授業計画・内容
1回目	授業説明、オリエンテーションを行う。今後の授業に対して、必要な知識の復習と準備を行い、取り組むことができるようになる。
2回目	ドレスの付属品(セットになったアクセサリーやグローブ)のコーディネート学ぶ① (付属類からドレスデザインのポイントを考える)
3回目	コーディネートのバランスを考える。(必要なアクセサリー、不要な装飾のバランス)
4回目	ペアを組み、作品へのイメージ、テーマを決める。必要な準備を行う。イメージ画を描く。
5回目	テーマからドレスを選び、アレンジするポイントを考えることができる。
6回目	アレンジイメージからドレスを修繕する①
7回目	アレンジイメージからドレスを修繕する②
8回目	アレンジイメージからドレスを修繕する③
9回目	アレンジイメージに沿ったヘアアクセサリーを作成する
10回目	中間発表 アレンジしたドレスをもってテーマと特徴ポイントのオリエンテーションを行い、作品をPRすることができる。ほかチームから総評をうけ、今後の作品作成につなげることができる。
11回目	ドレスアレンジの改善を試み、見合ったヘア・メイクをコーディネートすることができる①
12回目	ドレスアレンジの改善を試み、見合ったヘア・メイクをコーディネートすることができる②
13回目	作品完成 フォト撮影を行い、「美しく見せる」ことを意識してコーディネートを完成させることができる。
14回目	今まで学んだ知識をいかして作り上げた作品の最終プレゼンテーションを行い、コーディネートの評価をする。
15回目	(総まとめ)各自の成長を振り返ることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は ◎コーディネート作品の評価、プレゼンテーション

【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)	

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ブライダルフォト I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Bridal photo I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

内田写真(株)にてブライダルフォトグラファーとしてリッツカールトン大阪や、その他多くのホテル、ゲストハウスに勤務。
その後フリーランスのカメラマンとしてフォトスタジオを開設し家族写真、七五三、成人式などのライフイベントの撮影に従事。

【授業の学習内容】

一眼レフカメラの操作を実習し、写真撮影の基礎から応用を学ぶ。
また、ウェディングに必要なコミュニケーション力や立ち振る舞い、ブライダルフォトのトレンドを学ぶ。

【到達目標】

一眼レフカメラの操作を習得し、目的やイメージに合わせた撮影ができるようになる。
ブライダルフォトを通じて現場で活かせる知識やスキルを身につける。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション、カメラの使用上の注意事項を理解し基本の操作ができるようになる。
2回目	露出について学びさまざまな環境でも適正露出で撮れるようになる。
3回目	ブライダルフォトからさまざまな構図を知り、構図を意識した撮影ができるようになる。
4回目	基本的なライティングを学び、光を意識した撮影ができるようになる。
5回目	屋外、屋内、光の種類、シーンなど露出はもちろん立ち振る舞いも含めシチュエーションに合わせた撮影ができるようになる。
6回目	様々なブライダルフォトから撮影意図を読み取り、撮影コーディネートを学ぶ。 イメージを持って受け手に響く撮影ができるようになる。
7回目	ウェディングフォトのポージングを学び、モデルに自分の意図を伝えることができるようになる。
8回目	ブライダルの現場における撮影とマナーの大切さを理解し、挙式の撮影ができるようになる。
9回目	作品撮影① プランニング・撮影ができるようになる
10回目	作品撮影① 撮影・作品提出
11回目	作品発表、評価を行い、次回への改善点を知ることが出来る
12回目	作品撮影② プランニング・撮影ができるようになる
13回目	作品撮影② 撮影・作品提出
14回目	作品発表、評価を行い、授業で学んできたことを今後業界で活かせるようになる
15回目	セルフポートレート撮影し、自分の良さやアイデンティティをアピールすることができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・作品提出50% ・作品技術50%

【使用教科書・教材・参考書】

SDカードを各自準備すること。(16GB以上が望ましい。) 授業前に図書室でカメラを借りること。

授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルベーシック】 ブライダルフォトⅡ Bridal photo Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

内田写真(株)にてブライダルフォトグラファーとしてリッツカールトン大阪や、その他多くのホテル、ゲストハウスに勤務。
その後フリーランスのカメラマンとしてフォトスタジオを開設し家族写真、七五三、成人式などのライフイベントの撮影に従事。

【授業の学習内容】

昨今の披露宴開催困難な状況を踏まえフォトウェディングの重要性が増すと予測されるなか、トレンドを取り入れた提案力を身につけ、撮影ができるように写真について学んでいく。

【到達目標】

フォトウェディングのスタイリングの企画立案、提案、及び撮影ができるようになる

回数	授業計画・内容
----	---------

1回目	オリエンテーション 前期の復習。
2回目	ブライダルフォトのトレンドを知り、お客様に提案できるようになる。 適正露出で撮れるようになる。
3回目	ブライダルフォトの歴史を知りフォーマルフォトの撮影ができるようになる。
4回目	ブライダルフォトにおけるセールスポイントを分析し、お客様との打ち合わせができるようになる。
5回目	ブライダルカメラマンの一日を知り婚礼に適した立ち居振る舞いができるようになる。
6回目	お客様に合わせたフォトウェディング、前撮りのコーディネートができるようになる。
7回目	企業プロジェクトのプランの最終構築ができるようになる。
8回目	プランに合わせた撮影方法や、ライティング、アテンドを演習しイメージに合った撮影ができるようになる。
9回目	モデルを起用した撮影ができるようになる
10回目	モデルを起用した撮影ができるようになる
11回目	撮影した画像をより効果的に見せるためのレタッチができるようになる。
12回目	プレゼン準備:効果的なプレゼンテーションスキルを実践できるようになる
13回目	作品をプレゼンテーションできるようになる
14回目	反省・フィードバックを行い、自分が成長するきっかけを掴むことができる
15回目	シチュエーション別のさまざまな撮影ができるようになる。

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・作品提出50%
・作品技術50%

【使用教科書・教材・参考書】

SDカードを各自準備すること。(16GB以上が望ましい。) 授業前に図書室でカメラを借りること。

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 エステ基礎 I Esthetic basic I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

エステティックサロンで技術者として約9年勤務、専門学校で講師として4年。

【授業の学習内容】

フェイシャルエステティックの基礎理論、基本技術をセルフケア、相モデル実技演習で行う。

【到達目標】

スキンケアなど社会人に向け、自身のセルフケアができるようになるとともに、簡単なトリートメントが提供できるようになる。
相モデル実技演習を通して、おもてなしのスキルを向上させる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 フェイシャルエステの概要が理解できるようになる。
2回目	【セルフスキンケア】 クレンジングの理論の理解と、正しいクレンジングができるようになる。
3回目	【相モデル①】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
4回目	【相モデル②】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
5回目	【セルフスキンケア】 マッサージの理論の理解と、基本のマッサージができるようになる。
6回目	【相モデル①】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
7回目	【相モデル②】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
8回目	【セルフスキンケア】 ディープクレンジングの理論の理解し、選択できるようになる。
9回目	【相モデル①】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
10回目	【相モデル②】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
11回目	【相モデル①】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
12回目	【相モデル②】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
13回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
14回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
15回目	総まとめとよく起きうる肌トラブルの対処方法アドバイスを行い、さらに美意識を高めることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎演習課題の完成度_100%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 テーブルサービス I Table service I	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員
		授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

ホテルオークラ神戸のオープニングスタッフとして入社後、ホテルの立ち上げや、リゾートホテル、フロント業務に料飲の実務全般を経て現在神戸の異人館の中国料理のレストランに勤務。

【授業の学習内容】

ホテルでの料飲に不可欠な洋食のテーブルマナーを学習し、理解することによりセッティングやサービスを学習する。

【到達目標】

基本的な洋食のテーブルマナー、セッティング、サービスが出来るようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	授業概要説明、自己紹介
2回目	シルバー、チャイナ、グラスなどの備品を理解理解出来るようになる①
3回目	シルバー、チャイナ、グラスなどの備品を理解理解出来るようになる②
4回目	シルバー、チャイナ、グラスをテーブルにセッティング出来るようになる①
5回目	シルバー、チャイナ、グラスをテーブルにセッティング出来るようになる②
6回目	シルバー、チャイナ、グラスをテーブルにセッティング出来るようになる③
7回目	6回目までに学んだ内容を動きで披露できるようになる
8回目	洋食のテーブルマナーが理解出来るようになる
9回目	ドリンクのサービスが出来るようになる①
10回目	ドリンクのサービスが出来るようになる②
11回目	料理のサービスが出来るようになる①
12回目	料理のサービスが出来るようになる②
13回目	ドリンク、料理のサービスの復習
14回目	8回目～13回目までに学んだ内容を動きで披露できるようになる
15回目	授業の振り返りを行い、後期につなげる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。

【使用教科書・教材・参考書】

カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 テーブルサービスⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
	Table serviceⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
ホテルオークラ神戸のオープニングスタッフとして入社後、ホテルの立ち上げや、リゾートホテル、フロント業務に料飲の実務全般を経て現在神戸の異人館の中国料理のレストランに勤務。						
【授業の学習内容】						
日本料理のマナー及びサービスの学習をする。						
【到達目標】						
実践ですぐに役に立つ日本料理のマナーとサービスが出来るようになる。						

回数	授業計画・内容
1回目	授業概要、目的、カリキュラムの説明
2回目	基本の日本料理を理解出来るようになる①
3回目	基本の日本料理を理解出来るようになる②
4回目	和室での立居振る舞いが出来るようになる①
5回目	和室での立居振る舞いが出来るようになる②
6回目	日本料理の食事のマナーを理解出来るようになる①
7回目	日本料理の食事のマナーを理解出来るようになる②
8回目	7回目までの授業の総復習を行い、流れを理解できるようになる
9回目	8回目までに学んだ内容を動きで披露できるようになる
10回目	日本料理の接客・サービスを理解出来るようになる①
11回目	日本料理の接客・サービスが理解出来るようになる②
12回目	日本料理の接客・サービスが出来るようになる①
13回目	日本料理の接客・サービスが出来るようになる②
14回目	10回目～13回目までに学んだ内容を動きで披露できるようになる
15回目	授業の振り返りにより、授業で学んだ知識、技術の総復習をする
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】	
カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 映像制作 I Video Production I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

フリーランスとして約10年、そして約5年キャンプがグオンを□□立ち上げ現在はマリンスポーツ施設のマネージメントを行いつつ、PV撮影やライブ配信といった映像制作も携わっています。

【授業の学習内容】

カメラ・PCまたはスマートフォンを用いて映像制作の基本を習得します。

【到達目標】

映像制作するための基本的なカメラワークはもちろん、編集技術の習得。
また、制作した映像の依頼者や見る人の気持ち考えられるような視点を身につけることができる。

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)カメラ・編集についての概要を理解できるようになる
2回目	(スマートフォンでの撮影の習得)スマートフォンを使用し撮影の基本概要を理解し、応用的な撮影もできるようになる
3回目	(PC編集の習得①)編集ソフトPremiereの基本概要を理解し、画面の基本操作・素材取り込み・ファイルの保存ができるようになる
4回目	(PC編集の習得②)映像素材・楽曲素材をタイムラインへ配置し、基本的な編集操作ができるようになる
5回目	(PC編集の習得③)文字の追加・映像素材の倍速・スローの編集を行い、仕上げるができるようになる
6回目	(PC編集の習得④)書き出しができるようになる／上記①～③のまとめ復習
7回目	1～12回目の授業の学びを通して校外にて撮影を行い、学んだ技術を通して作品を作ることができる
8回目	
9回目	(カメラ基本操作の習得①)カメラの基本概要を理解し、操作ができるようになる
10回目	(カメラ基本操作の習得②)動画編集時に必要な「状況説明」「インパクト」のある映像を撮れるようになる
11回目	(演習課題)カメラ基本操作の習得①②とPC編集の習得①～④を活用し、基本的な映像制作フローが理解できるようになる
12回目	(演習課題)編集した映像をより印象を与えられるように指導し、素人撮影にならないような映像編集ができるようになる
13回目	(演習課題)課外授業で撮影を実際に行い印象づけできる撮影ができるようになる。映像データを元に作品を制作する
14回目	
15回目	今まで学んだ操作を活用し撮影から出力まで一貫したフローが理解できるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)20% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)30%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎テスト演習50% ◎演習課題の完成度 50%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 映像制作Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
	Video ProductionⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				4		曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
フリーランスとして約10年、そして約5年キャンプがクションを□□立ち上げ現在はマリンスポーツ施設のマネージメントを行いつつ、PV撮影やライブ配信といった映像制作も携わっています。							
【授業の学習内容】							
ブライダルムービー制作のノウハウを学び、実践する							
【到達目標】							
お客様にとって心に残る映像を撮影から、編集まで行い、タイムリーに作成できるようになる							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)ブライダルムービーの概要を知ることができる
2回目	ブライダルムービーの意義、ルール、注意点を理由を含めて理解できるようになる
3回目	(ムービー撮影の習得①)シーン別の撮影ができるようになる
4回目	(ムービー撮影の習得②)シーン別の撮影ができるようになる
5回目	(ムービー撮影の習得③)シーン別の撮影を見比べて、フィードバックを行う
6回目	(ムービー編集の実践①)前期で学んだことを活かし、ムービーを編集・シーンを繋げることができる
7回目	(ムービー編集の実践②)前期で学んだことを活かし、ムービーを編集・シーンを繋げることができる
8回目	(ムービー編集の実践③)前期で学んだことを活かし、ムービーを編集することができる(音楽の選曲・字幕など)
9回目	(ムービー編集の実践④)前期で学んだことを活かし、ムービーを編集することができる(音楽の選曲・字幕など)
10回目	(ムービー編集の実践⑤)前期で学んだことを活かし、ムービーを編集することができる(音楽の選曲・字幕など)
11回目	作品を提出し、フィードバックを行う。(フィードバック箇所の修正)
12回目	(演習課題)編集した映像をより印象を与えられるように指導し、素人撮影にならないような映像編集が実践できるようになる
13回目	(演習課題)模擬挙式内でムービー撮影・編集を行い、エンドロールの作成・投影ができるようになる
14回目	
15回目	
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)20% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)30%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎テスト演習50% ◎演習課題の完成度 50%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 海外ウェディング I	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
	Overseas wedding I	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
大手ブライダル企業での国内・海外実務経験とOJT経験を活かし、現在も専門学校や大学でブライダル関係の授業を担当。							
【授業の学習内容】							
『海外ウェディング』の基礎知識を習得する。 申し込みから挙式当日までの流れなど、基礎知識を学ぶとともに、国内ウェディングとの違いや海外挙式のメリットデメリットなどを、全員参加でディスカッションし、ロールプレイングを通して理解を深める。							
【到達目標】							
海外ウェディングの流れやオプション・エリア情報などを理解できるように基礎知識を習得し、お客様に説明できるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション／海外ウェディングイメージDVD鑑賞／海外ウェディングQ&Aを行い海外挙式の全体像を把握できるようになる。						
2回目	ブライダルの動向／海外ウェディングの位置付け／今後求められるウェディングを考え、ディスカッションができるようになる。						
3回目	海外ウェディングの基礎知識と流れ／海外ウェディングのイメージディスカッションすることにより、知識を深めることができるようになる。						
4回目	海外ウェディングと国内挙式との違い／各々メリットデメリットをディスカッションすることにより、知識を深めることができるようになる。						
5回目	オプションについて／挙式パンフレット内容の理解／小テストに挑戦することにより、理解度を確認できるようになる。						
6回目	衣裳プラン(新郎新婦)の特徴／各種メリットデメリット、ディスカッションし、理解度を深め、他者の考えに気づくことができるようになる。						
7回目	ウェディングドレスの基礎知識(ドレスとブーケの相性とコーディネート実践)／ドレスに合ったブーケを選ぶことができるようになる。						
8回目	ウェディングドレス接客実践(衣裳提案とコーディネート)／実際のタレントさんを例に、その人に合ったドレスを選ぶことができる。						
9回目	エリア情報①／ハワイ・グアム・ヨーロッパ・オセアニア・他／重要なエリア情報を理解できるようになる。						
10回目	エリア情報②／主な挙式会場とお進め理由、ディスカッション／小テストを行うことにより、理解度を深めることができるようになる。						
11回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション①(グループ決め・エリア決め)／その人に合ったエリアの紹介ができるようになる。						
12回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション②(担当別 情報収集)／グループで協力しながら商品づくりの企画ができるようになる。						
13回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション③(企画纏め リハーサル)／グループ作業を完成させることができるようになる。						
14回目	グループワーク／お勧めエリアプレゼンテーション④ 発表 / 商品企画をプレゼンテーションできるようになる。						
15回目	海外ウェディング基礎知識 まとめ / プレゼンテーション評価 / 授業内容の振り返り、後期につなげることができるようになる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末テスト 60%(記述) ・授業参加度 40%(出席、発言、グループワーク、プレゼンテーション等参加度)						
【使用教科書・教材・参考書】							
使用教科書:無し / 参考資料:ゼクシィ 海外ウェディング 2021 Spring&Summer (リクルートムック) ムック 誌 (870円税込)							

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 海外ウェディングⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当 教員	
	Overseas weddingⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講 区分 曜日/時 限	
学科	ブライダルマネジメント科						
【担当教員 実務者経験】							
大手ブライダル企業での国内・海外実務経験とOJT経験を活かし、現在も専門学校や大学でブライダル関係の授業を担当。							
【授業の学習内容】							
前期『海外ウェディング』の基礎知識をベースに応用と実践を加えた知識と実技を習得する。 全員参加で共同作業やディスカッションを行い、プレゼンテーション実践で理解を深め、ロールプレイングができるようになる。							
【到達目標】							
海外ウェディングの企画提案ができるようになる。企画提案するためのPPT操作が理解できるようになる。 接客がスムーズにできるようになるための、コミュニケーション能力や技術を習得し、即戦力になる力を身に付けることができる。							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション(授業シラバス説明・概要・目的・授業内ルール) 授業の目的を理解し積極的に参加できるモチベーションが持てるようになる。
2回目	海外ウェディング準備編 / DVD鑑賞 / 海外ウェディングQ&A 前期の振り返りと個人の目標が明確に考えられるようになる。
3回目	接客のためのビジネスマナー / 接客対応DVD鑑賞 接客に必要なビジネスマナーが理解できるようになる。
4回目	新規接客カウンセリングシート作成①(グループワーク) /ゲーム(ペーパータワー) グループ作業のためのコミュニケーションができるようになる。
5回目	新規接客カウンセリングシート作成②(グループワーク) / 接客項目等、カウンセリングシートの完成/接客カウンセリングができるようになる。
6回目	実践カウンセリング1.(接客員1名×お客様2名) /ロールプレイングを行う事で実践の練習を行い、感想のディスカッションができるようになる。
7回目	実践カウンセリング2.(接客員1名×お客様2名) /ロールプレイングを行う事で実践の練習を行い、感想のディスカッションができるようになる。
8回目	接客プレゼンテーション 準備① /個々の資料集めとスケジュール決定 /目標に向けての計画やスケジュール管理ができるようになる。
9回目	接客プレゼンテーション 準備② /与えられたエリア情報をスライドの配置計画を行い、完成までの流れを作る。パワーポイントが使えるようになる。
10回目	接客プレゼンテーション 準備③ /プレゼンテーションするパワーポイントを完成する。海外挙式のポイント項目がもれなく盛り込めるようになる。
11回目	接客プレゼンテーション 準備④ /接客側と顧客側で、完成したプレゼンテーションで接客練習を行い、リハーサルができるようになる。1グループ。
12回目	接客プレゼンテーション 準備⑤ /接客側と顧客側で、完成したプレゼンテーションで接客練習を行い、リハーサルができるようになる。2グループ。
13回目	海外ウェディングロールプレイング(接客実技試験)1日目 / 他者の発表の評価が正しくできるようになる。
14回目	海外ウェディングロールプレイング(接客実技試験)2日目 / 他者の発表の評価が正しくできるようになる / 講師より評価まとめ
15回目	海外ウェディング 授業振り返り / まとめレポート提出 / 1500~2000文字のレポートが書けるようになる

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価+ 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度) なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・(出席、発言、グループワーク、プレゼンテーション等参加度)40% ・ロールプレイング(接客実技発表) 60%

【使用教科書・教材・参考書】	
使用教科書:無し / 参考資料:ゼクシィ 海外ウェディング 2021 Spring&Summer(リクルートムック)ムック誌(870円税込)	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 経営戦略 I Management strategy I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	プライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

システムエンジニアとゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年にコンサルティング会社設立。
 <エマージェンス・ジャパン合同会社 代表> <https://emergence-japan.com/>

【授業の学習内容】

経営に必要な基礎スキルを学ぶ

【到達目標】

経営に必要な基礎知識を学び、世の中の見方を変えることができるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	自己紹介 今の日本の経済について思うことや、成功していると思う企業をあげ、その理由も含めて自己紹介を行う
2回目	
3回目	経営とは何かや、経営をするにあたって重要なこと等、経営学の基礎を理解することができるようになる ※ワーク、プレゼンテーション有
4回目	
5回目	マクロ経済・ミクロ経済を学ぶことにより、一つの物事を両方の視点から見るようになる ※ワーク、プレゼンテーション有
6回目	
7回目	自己紹介であげた企業の業界分析ができるようになる ※ワーク、プレゼンテーション有
8回目	
9回目	先週調査した業界の顧客分析を行うことができるようになる ※ワーク、プレゼンテーション有
10回目	
11回目	経営にあたり、必要となる法律を学ぶことができるようになる ※ワーク、プレゼンテーション有
12回目	
13回目	経営者としての責任や経営管理の基礎を理解することができるようになる ※ワーク、プレゼンテーション有
14回目	
15回目	企業経営者の講義で1～14の学びがどのように実践に活かされているのかを知る
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 経営戦略Ⅱ	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員
	Management strategy Ⅱ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分
学科	プライダルマネジメント科					曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
システムエンジニアとゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年にコンサルティング会社設立。 <エマージェンス・ジャパン合同会社 代表> https://emergence-japan.com/						
【授業の学習内容】						
経営に必要な基礎スキル、マインドを学び、経営から社会に貢献する方法を考える						
【到達目標】						
経営に必要な心構えを学び、経営者の立場で社会を見ることができるようになる						

回数	授業計画・内容
1回目	人事組織の仕組みについて学び、社員教育に力を入れ、社員を成長させることは会社の成長につながることを理解することができるようになる ※ワーク・プレゼンテーションあり
2回目	
3回目	貸借対照表・損益計算書の見方を学べることにより、決算書を正確に読み取ることができるようになる ※ワーク、プレゼンテーションあり
4回目	
5回目	相手に自分の考えや戦略を分かりやすく伝える方法について学ぶ 良い考えを持っていても相手に伝わらなければ意味がなく、相手にどのように説明すれば伝わりやすいかを知ることにより、伝わりやすいプレゼンテーションを行えるようになる。
6回目	
7回目	プレゼンテーション練習 2人1組となり、与えられた課題をもとにプレゼンテーションの練習を行う
8回目	自己紹介であげた企業を各々分析する 決算書をもとに企業の財務状況、また離職率や年齢層から、働きやすさ・福利厚生面を分析できるようになる
9回目	
10回目	先週分析した結果から、自分がこの企業の経営者だった場合、どのような経営を行っていくかを考えることができるようになる ※ワーク、プレゼンテーションあり
11回目	
12回目	1人5分間のプレゼンテーションを行う
13回目	先週のプレゼンテーション振り返 全員の発表を聞き、参考になったものを自分の意見に取り入れ、他者の意見を参考にすることで自分にはない考えを持てるようになる。
14回目	国内時事に意識を向け、経営からどのように社会貢献できるか考えられるようになる
15回目	国際情勢に意識を向け、経営からどのように国際社会へ貢献できるか考えられるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【総合スタディ】 書道 I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
	Japanese calligraphy I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	プライダルマネジメント科				2	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

【書歴】 第45回日本美術展覧会(日展)入選 ・ (公益社団法人)日本書芸院評議員 ・ 読売書法展幹事 ・ 璞社(山本大悦主催)総務

【授業の学習内容】

硬筆では、日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得する。そのうえで漢字の原則を学ぶ。
封筒、返信はがきのマナーと書き方を身につける。
毛筆では、祝儀袋を作り表書きをすることで、表書きの知識やマナーと書き方を身につける。

【到達目標】

日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得することで、文章全体の印象を70%よくする。
社会に出たときに恥ずかしくない様に、表書き、封筒や結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につける。
日本の伝統文化である書道に触れ親しみ、おもてなしの心と精神を養う。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション シラバスの確認、自己紹介、書道とホスピタリティ、硬筆文字診断を行い、自分の「字」を理解することができる。
2回目	硬筆 ひらがな特有の線を身につけることができる。
3回目	硬筆 ひらがなの字源を知り字形をマスターすることで、日本文の印象がよくなる。 12回目のはがきの書き方に生かすことができる。
4回目	硬筆 住所・氏名がバランスよく書けるようになる。実習⑩の表書きに生かすことができる。
5回目	硬筆 漢字の基本点画を身につけることができる。
6回目	硬筆 漢字の基本点画を身につけ、丁寧に文字が書けるようになる。
7回目	硬筆 漢字の書き方の原則を学ぶことができる。
8回目	硬筆 漢字の書き方の原則を効率よく学ぶことで、実習⑪のいろんな文字に生かすことができる。
9回目	筆ペン 表書きの知識やマナーと書き方を身につけることができる。
10回目	筆ペン 祝儀袋の作製を通して祝儀袋のマナーを身につけることができる。実習⑩に生かすことができる。
11回目	筆ペン 10回目で作った祝儀袋に表書きをすることで、より一層心を込めて表書きができるようになる。
12回目	硬筆・筆ペン 封筒、はがきのマナーと書き方のポイントを身につけることができる。
13回目	硬筆 結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につけることができる。
14回目	毛筆 毛筆の基本点画を身につけることができる。
15回目	毛筆 全員で1つの課題に取り組むことで、他者の気持ちを組み取り、また配慮することができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 演習の取り組みと課題の提出
【使用教科書・教材・参考書】	
硬筆用箋(岩本オリジナル)	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 エステ基礎 I Esthetic basic I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】 エステティックサロンで技術者として約9年勤務、専門学校で講師として4年。
【授業の学習内容】 フェイシャルエステティックの基礎理論、基本技術をセルフケア、相モデル実技演習で行う。
【到達目標】 スキンケアなど社会人に向け、自身のセルフケアができるようになるとともに、簡単なトリートメントが提供できるようになる。 相モデル実技演習を通して、おもてなしのスキルを向上させる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】 フェイシャルエステの概要が理解できるようになる。
2回目	【セルフスキンケア】 クレンジングの理論の理解と、正しいクレンジングができるようになる。
3回目	【相モデル実技演習①】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
4回目	【相モデル実技演習②】 クレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
5回目	【セルフスキンケア】 マッサージの理論の理解と、基本のマッサージができるようになる。
6回目	【相モデル実技演習①】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
7回目	【相モデル実技演習②】 フェイシャルマッサージを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
8回目	【セルフスキンケア】 ディープクレンジングの理論の理解し、選択できるようになる。
9回目	【相モデル実技演習①】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
10回目	【相モデル実技演習②】 ディープクレンジングのトリートメントを人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
11回目	【相モデル実技演習①】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(テクニックの手順、効果を学ぶ。)
12回目	【相モデル実技演習②】 フェイシャルトリートメントを通して人にできるようになる。(スムーズに行えるように心がける。)
13回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
14回目	【セルフスキンケア】 自分に合ったトリートメントを行えるようになる。
15回目	総まとめとよく起きうる肌トラブルの対処方法アドバイスを行い、さらに美意識を高めることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎演習課題の完成度_100%

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 テーブルデコレーション I Table decoration I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。
フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級

【授業の学習内容】

ブライダルコーディネートについて理解し、花嫁コーディネートからテーブル・空間コーディネートの基礎を学ぶ

【到達目標】

トータルコーディネートの基本を理解し、パーソナルヒアリングから提案ができるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション この授業の目標点について トータルコーディネートに必要な事と目的について理解できるようになる
2回目	配色のセオリー 色相・トーン・配色を理解しトータルコーディネート出来るようになる
3回目	イメージとカラーの関係性を理解し、イメージからトータルコーディネート出来るようになる
4回目	パーソナルチェックシートを利用し骨格・パーソナルカラーから似合うドレスをコーディネート出来るようになる
5回目	ドレスとブーケの関係性・ヘアメイク・ヘアードについて 似合うブーケ・ヘアードをコーディネート提案出来るようになる①
6回目	ドレスとブーケの関係性・ヘアメイク・ヘアードについて 似合うブーケ・ヘアードをコーディネート提案出来るようになる②
7回目	ブーケ、テーブル造花の種類と配色について理解する
8回目	花の種類とカラーコーディネートについて理解する ブーケ、テーブル造花デザインが出来るようになる①
9回目	花の種類とカラーコーディネートについて理解する ブーケ、テーブル造花デザインが出来るようになる②
10回目	ヒアリングからコーディネートコンセプトシートを作成 花嫁に合わせたテーブルコーディネートをデザイン出来るようになる①
11回目	ヒアリングからコーディネートコンセプトシートを作成 花嫁に合わせたテーブルコーディネートをデザイン出来るようになる②
12回目	コーディネート発表を行い、フィードバックを元に次回コーディネート提案を行う
13回目	ヒアリングからコーディネートコンセプトシートを作成 花嫁に合わせたテーブルコーディネートをデザイン出来るようになる③
14回目	ヒアリングからコーディネートコンセプトシートを作成 花嫁に合わせたテーブルコーディネートをデザイン出来るようになる④
15回目	総評を行い、前期で学んだことの復習をする
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出課題 1, 2の評価 各10% ・技術試験 20%
【使用教科書・教材・参考書】	
カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 テーブルデコレーションⅡ Table decoration Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
【担当教員・実務者経験】							
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。 現在フリーランスで活動。フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級							
【授業の学習内容】							
前期で得た知識を活かして、テーブルコーディネートを実践する							
【到達目標】							
コンセプトウェディングをコーディネート提案し、形にすることができるようになる							
回数	授業計画・内容						
1回目	前期授業の振り返りと後期授業の目的・目標について理解する						
2回目	会場装飾について学ぶ① インテリアカラーコーディネート・テーブルクロス・ナプキン他 空間に合わせたコーディネートが提案出来るようになる						
3回目	会場装飾について学ぶ② ペーパーアイテム・キャンドル・フラワーについて コンセプトに合わせたコーディネート提案が出来るようになる						
4回目	食空間コーディネート 食空間の在り方・食器、カトラリーの種類・セッティング方法について理解する						
5回目	テーマ・コンセプトに合わせたテーブルコーディネートコンセプトシートを作成できるようになる(企画組み立てシートとデッサン)						
6回目	発表会のチーム分け チーム名・チームのコンセプト・役割分担・プレゼン発表のタイムスケジュール クロス/ナプキンの決定						
7回目	コンセプトに合わせたテーブルコーディネートを考える・MC内容を考える・BGM・コンセプトシート作成(企画組み立てシート・デッサン)、 使用花器、キャンドルを選ぶ 予算について考えられるようになる						
8回目	ショールーム見学を行い、実際のトレンドを知ることができる ※先方の都合により日程変更の場合あり						
9回目	キャンドル・花器・クロス発注表提出 フラワーデザインの最終確認と発注						
10回目	コンセプトとモデルに合わせたドレス・ブーケ・ヘア飾りをコーディネート及びスタイリングコンセプトシートの作成ができるようになる						
11回目	センターピース・ブーケ(ブートニア)・ヘア飾り・ペーパーアイテム等作成ができるようになる MC/プレゼンの流れ確認						
12回目	リハーサル 本番の流れ、MC内容・各担当者の動きの確認 (実際にテーブルセッティングも行います)						
13回目	発表会①アイデアを形にして、プレゼンテーションできるようになる						
14回目	発表会②アイデアを形にして、プレゼンテーションできるようになる						
15回目	発表会の振り返りを行い、自己評価・他己評価を自分の成長ポイントとする						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							
カラーカード・色鉛筆・のり・はさみ							

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダルプランナーV Bridal Planner V	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	

【担当教員_実務者経験】

フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。
様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。

【授業の学習内容】

新規顧客の取得方法、ブライダルフェアについて学び、実践する

【到達目標】

集客、ブライダルフェアの企画の仕組みを理解し、実際にリアルウェディング用のフェアをリリース・開催することができるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	ブライダル業界の業績を知り、収支の流れを理解することができるようになる
2回目	トレンドの集客方法を知ることができるようになる
3回目	大手ブライダル企業特別講義を通して、集客・マーケティングの大切さを理解することができる
4回目	ブライダルフェアの意義を理解することができるようになる
5回目	各企業のブライダルフェアを調べ、自分達が行きたいと思うフェアをプレゼンテーションする
6回目	企業をピックアップし、企業研究を行った上で集客方法を考える
7回目	ブライダルフェアの収支を知り、フェアを企画する上で優先順位をつけられるようになる
8回目	リアルウェディング用のブライダルフェアを立案し、WEBにて集客を図ることができるようになる
9回目	リアルウェディング用のブライダルフェアを立案し、WEBにて集客を図ることができるようになる
10回目	リアルウェディング用のブライダルフェアを立案し、WEBにて集客を図ることができるようになる
11回目	新規顧客接客のロープレを通して、顧客への案内方法を整理し、実践できるようになる(ヒアリング)
12回目	新規顧客接客のロープレを通して、顧客への案内方法を整理し、実践できるようになる(会場案内)
13回目	ブライダルフェア準備、接客ロープレを繰り返し行い、自信を持って接客できるようになる
14回目	ブライダルフェア準備、接客ロープレの繰り返し行い、自信を持って接客できるようになる
15回目	ブライダルフェアの実施
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

--	--

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 ブライダルプランナーVI Bridal Planner VI	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
<p>フローリストナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。 フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。</p>							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> ・2月開催の結婚式、披露宴に向けたブライダルフェアのプランニングを考え、第2回目のフェアを開催する ・WEB集客方法の改善、再構築 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目よりも更に新郎新婦にとって知りたいことが100%理解できるようなフェアを立案、実践できるようになる ・フェアだけではなく、オンラインでの集客方法を立案できるようになる 							
回数	授業計画・内容						
1回目	第1回の改善点を踏まえて、フェアの改善、立案ができるようになる						
2回目							
3回目	ブライダル企業に向け、自分達が考えたフェアをプレゼンテーションする						
4回目							
5回目	2月リアルウェディング挙式用のブライダルフェアを立案し、WEBにて集客を図ることができるようになる						
6回目							
7回目	新規顧客接客のロープレを通して、顧客への案内方法を整理し、実践できるようになる(ヒアリング)						
8回目	新規顧客接客のロープレを通して、顧客への案内方法を整理し、実践できるようになる(会場案内)						
9回目	ブライダルフェア準備、接客ロープレを繰り返し行い、自信を持って接客できるようになる						
10回目	第2回ブライダルフェアの実施						
11回目	ブライダルフェアを振り返り、WEB集客につなげることができるようになる						
12回目	WEB集客方法を立案し、まとめることができるようになる						
13回目	WEB集客方法を立案し、まとめることができるようになる						
14回目	ブライダル企業に向け、自分達が考えたWEB集客をプレゼンテーションする						
15回目							
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 フラワー基礎 I Bridal Flower I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。
フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級

【授業の学習内容】

花嫁に関するフラワーの製作方法を理解し、実践する

【到達目標】

ヘアード・ブーケを形にすることが出来るように構成と製作方法を学ぶ

回数	授業計画・内容
1回目	ブライダルフラワーの概要・種類について理解することができる
2回目	ヘアード実技演習① 花材について理解する ワイヤークラップとテーピングを学びヘアードの仕組みを理解することができる
3回目	ヘアード実技演習② プリザーブド・ドライ素材のワイヤークラップとテーピングの練習を行い、作品を作ることができる。
4回目	ヘアード実技演習③ 生花のワイヤークラップ・テーピングと保水処理の練習を行い、作品を作ることができる。
5回目	ブーケの種類と製作方法について理解する デモンストレーション形式でクラッチブーケ・ラウンドブーケの作り方を学ぶ
6回目	花の種類とカラーコーディネートについて理解する ブーケデザインが出来るようになる
7回目	ドレス・ブーケ・ヘアについてのスタイリングコンセプトシートを作成 パーソナルチェックを踏まえたスタイリングと似合うブーケをデザイン出来るようになる ※提出課題 コンセプトシート
8回目	ブーケ実技演習① 生花を使ってクラッチブーケの製作方法とラウンドブーケの基礎練習(ラウンドアレンジ)を行い、作品を作ることができる。
9回目	ブーケ実技演習② 生花を使ってラウンドブーケを製作練習 ブーケのステム処理・リボンの製作方法を理解する
10回目	ブーケ実技演習③ 生花を使ってラウンドブーケを製作 ラウンドブーケを製作できるようになる
11回目	花材(生花)のヘアード作成 保水処理・ワイヤークラップとテーピングの総復習を行い、さらに理解度を深めることができる。
12回目	コンセプトシートを基にブーケ・ヘアード・ブートニアの作製を行う。
13回目	コンセプトシートを基にプレゼン発表 ブラッシュアップをはかることができる。
14回目	課題提示 イメージに合わせたヘアードを作成する。
15回目	作品の総評を行い、自分のレベルアップを確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 フラワー基礎Ⅱ	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員
	Bridal FlowerⅡ	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科			2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。 現在フリーランスで活動。フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級
【授業の学習内容】
披露宴に関するフラワーの製作方法を理解し、実践する
【到達目標】
テーブル造花や空間造花を形にすることが出来るように構成と製作方法を学ぶ

回数	授業計画・内容
1回目	テーブル造花や空間造花の概要・種類について理解することができる
2回目	テーブル造花実技演習① 花材について理解することができる
3回目	テーブル造花実技演習② コンセプトシートを作成し、イメージを具現化することができる
4回目	テーブル造花実技演習③ コンセプトシートを元に生花で作品を作ることができる。
5回目	テーブル造花実技演習④ コンセプトシートを元に生花で作品を作ることができる。
6回目	空間造花の種類と製作方法について理解する
7回目	カラーコーディネートについて理解する デザインが出来るようになる
8回目	空間実技演習① コンセプトシートを作成し、イメージを具現化することができる
9回目	空間実技演習② 生花を使って作品を作ることができる。
10回目	空間実技演習③ 生花を使って作品を作ることができる。
11回目	空間実技演習④ アーティフィシャルフラワーを使って作品を作ることができる。
12回目	空間実技演習⑤ アーティフィシャルフラワーを使って作品を作ることができる。
13回目	コンセプトシートを基にプレゼン発表 ブラッシュアップをはかることができる。
14回目	課題提示 イメージに合わせた作品を作成する。
15回目	作品の総評を行い、自分のレベルアップを確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 華道 I Kado I	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	

【担当教員 実務者経験】

生花店勤務・花の総合会社ウェディング部門を経て、現在はスクール部門でレッスンデザイン・講師を務める。花職向上委員会会員。同委員会編の書籍出版(誠文堂新光社)に作品提供。生け花・フラワーアレンジメントなど花の装飾全般を研究中。

【授業の学習内容】

生け花の基礎を学ぶ。(道具の使い方、生け花の歴史、フラワーアレンジメントとの違い、色合わせや花合わせについて、場の演出について、行事と花についてなど)
生け花の成り立ちを通して、日本人が「自然」とどのように関わってきたかを学ぶ。生け花の歴史を探ると、日本人のものの考え方や精神性は「自然」が大きく関連していることが分かる。それを自覚することは今後の個人の大きな礎になると思われる。

【到達目標】

生け花を通じて、日本の伝統文化の理解を深める。
花でもてなす楽しさを感じ、空間演出に際して花が重要であるという感性を身につける。
基礎的な「生け花」ができるようになり、花を通じて日本を語れるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション① レポートの書き方。生け花についての概要を知る。ハサミ・剣山が使えるようになる。
2回目	オリエンテーション② 免状取得について。簡潔なデッサンでデザインを他者に伝えられるようになる。
3回目	オリエンテーション③ 池坊DVD鑑賞。生け花の歴史から日本文化の理解を深めることができる。
4回目	オリエンテーション④ 器に対する花の比率を考える。バランス感覚を身につける。
5回目	植物の扱い① 水揚げ法。植物を大切に扱う方法を知る。
6回目	植物の扱い② 植物を矯める方法。植物の動きを生かす技を知る。
7回目	作品鑑賞① 教科書の作例を観る。縦・横・斜めの作品の違いが分かるようになる。
8回目	作品鑑賞② 教科書の作例を観る。造形美と自然美の違いが分かるようになる。
9回目	生け花の歴史 歴史の復習。 池坊の「立花・生花・自由花」3つの代表的な型の成り立ちが理解できるようになる。
10回目	花の文化① 日本人の自然観について。日本人の自然に対する感じ方を生け花の歴史から学ぶ。
11回目	花の文化② 日本人と西洋人。 それぞれの文化を比較し、花文化の違いを認識することで異文化理解ができるようになる。
12回目	花の文化③ 生け花とフラワーアレンジメントの違い。それぞれの違いが理解できるようになる。
13回目	花のコーディネート① 季節感、色合わせ、花合わせについて。ハーモニーの重要性が理解できるようになる。
14回目	花のコーディネート② 場の演出について。花を用いた空間演出の作例を鑑賞し、空間装飾の感性を養う。
15回目	花のコーディネート③ 行事と花について。花と行事の関わりを知り、花でおもてなしができるような感性を養う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・各回のレポート (レポートの内容+完成度をもって理解度とする) ・各回の実技演習 10%

【使用教科書・教材・参考書】

いけばな池坊 自由花入門カリキュラム お稽古ノート

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 書道 I Japanese calligraphy I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当 教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講 区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

【書歴】 第45回日本美術展覧会(日展)入選 ・ (公益社団法人)日本書芸院評議員 ・ 読売書法展幹事 ・ 璞社(山本大悦主催)総務

【授業の学習内容】

硬筆では、日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得する。そのうえで漢字の原則を学ぶ。
封筒、返信はがきのマナーと書き方を身につける。
毛筆では、祝儀袋を作り表書きをすることで、表書きの知識やマナーと書き方を身につける。

【到達目標】

日本文の60～70%を占めるひらがなの書き方を習得することで、文章全体の印象を70%よくする。
社会に出たときに恥ずかしくない様に、表書き、封筒や結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につける。
日本の伝統文化である書道に触れ親しみ、おもてなしの心と精神を養う。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション シラバスの確認、自己紹介、書道とホスピタリティ、硬筆文字診断を行い、自分の「字」を理解することができる。
2回目	(実技演習①)硬筆 ひらがな特有の線を身につけることができる。
3回目	(実技演習②)硬筆 ひらがなの字源を知り字形をマスターすることで、日本文の印象がよくなる。 実技演習⑫のはがきの書き方に生かすことができる。
4回目	(実技演習③)硬筆 住所・氏名がバランスよく書けるようになる。実技演習⑩の表書きに生かすことができる。
5回目	(実技演習④)硬筆 漢字の基本点画を身につけることができる。
6回目	(実技演習⑤)硬筆 漢字の基本点画を身につけ、丁寧に文字が書けるようになる。
7回目	(実技演習⑥)硬筆 漢字の書き方の原則を学ぶことができる。
8回目	(実技演習⑦)硬筆 漢字の書き方の原則を効率よく学ぶことで、実技演習⑪のいろんな文字に生かすことができる。
9回目	(実技演習⑧)筆ペン 表書きの知識やマナーと書き方を身につけることができる。
10回目	(実技演習⑨)筆ペン 祝儀袋の作製を通して祝儀袋のマナーを身につけることができる。実技演習⑩に生かすことができる。
11回目	(実技演習⑩)筆ペン 実技演習⑨で作った祝儀袋に表書きをすることで、より一層心を込めて表書きができるようになる。
12回目	(実技演習⑪)硬筆・筆ペン 封筒、はがきのマナーと書き方のポイントを身につけることができる。
13回目	(実技演習⑫)硬筆 結婚式招待状の返信はがきのマナーと書き方を身につけることができる。
14回目	(実技演習⑬)毛筆 毛筆の基本点画を身につけることができる。
15回目	(実技演習⑭)毛筆 全員で1つの課題に取り組むことで、他者の気持ちを組み取り、また配慮することができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。

【使用教科書・教材・参考書】

硬筆用箋(岩本オリジナル)

授業シラバス

科目名 (英)	【プランニングスタディ】 茶道 I tea ceremony I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

学生時代に師と出会い、入門。師のお稽古場にて活動。

【授業の学習内容】

茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。

【到達目標】

茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け閉め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション：茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目	和室での立ち居振る舞い①：お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を理解することができる。
3回目	和室での立ち居振る舞い②：立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見を理解することができる。
4回目	和室での立ち居振る舞い③：水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を理解することができる。
5回目	割稽古①：袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い、棗と茶杓を清める作法を理解することができる
6回目	割稽古②：茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目	割稽古③：茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までを通して理解することができる。
8回目	盆略点前①：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
9回目	盆略点前②：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
10回目	盆略点前③：客と亭主に分かれ、お仕舞いまで理解することができる。
11回目	盆略点前④：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
12回目	盆略点前⑤：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
13回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
14回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
15回目	着物をきて、お点前を行い、総まとめを行う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 ブライダルフラワーコーディネートⅡ Bridal Flower Coordination Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。
フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級

【授業の学習内容】

花嫁に関するフラワーコーディネートについて学ぶ ヒアリングからコーディネート提案の方法を学ぶ

【到達目標】

ブーケを形にすることが出来るように構成と製作方法を学ぶ

回数	授業計画・内容
1回目	授業の振り返りとこれからの授業について理解をしたうえで取り組むことができる。
2回目	テーマに合わせたヘアードが作成できるようになる
3回目	テーマに合わせたヘアードが作成できるようになる
4回目	ブーケの種類と製作方法について理解する デモンストレーション形式でクラッチブーケ・ラウンドブーケの作り方を学ぶ
5回目	花の種類とカラーコーディネートについて理解する ブーケデザインが出来るようになる
6回目	ヒアリングからドレス・ブーケ・ヘアについてのスタイリングコンセプトシートを作成 パーソナルチェックを踏まえたスタイリングと似合うブーケをデザイン出来るようになる ※提出課題 コンセプトシート
7回目	生花を使ってクラッチブーケの製作方法とラウンドブーケの基礎練習(ラウンドアレンジ)を行い、 作品を作ることができる。
8回目	生花を使ってクラッチブーケの製作方法とラウンドブーケの基礎練習(ラウンドアレンジ)を行い、 作品を作ることができる。
9回目	生花を使ってラウンドブーケを製作練習 ブーケのステム処理・リボンの製作方法を理解する
10回目	生花を使ってラウンドブーケを製作練習 ブーケのステム処理・リボンの製作方法を理解する
11回目	生花を使ってラウンドブーケを製作練習 ブーケのステム処理・リボンの製作方法を理解する
12回目	生花を使ってラウンドブーケを製作 ラウンドブーケを製作できるようになる
13回目	花材(生花)のヘアード作成 保水処理・ワイヤーテクニックとテーピングの総復習を行い、さらに理解度を深めることができる。
14回目	作成したコンセプトシートを基にブーケ・ヘアード・ブートニアの作製を行う。
15回目	作成したコンセプトシートを基にブーケ・ヘアード・ブートニアの作製を行う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出課題『コンセプトシート』 ・実習の取り組み
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 ブライダルフラワーコーディネートⅢ Bridal Flower CoordinationⅢ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・色彩検定2級・食空間コーディネーター2級							
【授業の学習内容】							
花嫁に関するフラワーコーディネートについて学ぶ ヒアリングからコーディネート提案の方法を学ぶ							
【到達目標】							
コーディネート提案したヘアード、ブーケを形にすることが出来るように構成と製作方法を学ぶ(アーティフィシャルフラワーを中心に)							
回数	授業計画・内容						
1回目	授業の振り返りとこれからの授業について理解をしたうえで取り組むことができる。						
2回目	花材について理解する ワイヤークラップとテーピングを学びヘアードの仕組みを理解することができる (アーティフィシャルフラワー)						
3回目	プリザーブド・ドライ素材のワイヤークラップとテーピングの練習を行い、作品を作ることができる。 (アーティフィシャルフラワー)						
4回目	ヒアリングからドレス・ブーケ・ヘアードについてのスタイリングコンセプトシートを作成 パーソナルチェックを踏まえた スタイリングと似合うブーケをデザイン出来るようになる ※提出課題 コンセプトシート						
5回目	クラッチブーケの製作方法とラウンドブーケの基礎練習(ラウンドアレンジ)を行い、作品を作ることができる。 (アーティフィシャルフラワー)						
6回目	クラッチブーケの製作方法とラウンドブーケの基礎練習(ラウンドアレンジ)を行い、作品を作ることができる。 (アーティフィシャルフラワー)						
7回目	ブーケのステム処理・リボンの製作方法を理解する(アーティフィシャルフラワー)						
8回目	ブーケのステム処理・リボンの製作方法を理解する(アーティフィシャルフラワー)						
9回目	ラウンドブーケを製作できるようになる(アーティフィシャルフラワー)						
10回目	ラウンドブーケを製作できるようになる(アーティフィシャルフラワー)						
11回目	コンセプトシートを基にブーケ・ヘアード・ブートニアの作製を行う。						
12回目	コンセプトシートを基にブーケ・ヘアード・ブートニアの作製を行う。						
13回目	コンセプトシートを基にプレゼン発表 ブラッシュアップをはかることができる。						
14回目	課題提示 お客様のヒアリングを行い、希望に沿って提案、ヘアード・ブーケを作成する。						
15回目	課題提示 お客様のヒアリングを行い、希望に沿って提案、ヘアード・ブーケを作成する。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出課題『コンセプトシート』 ・実習の取り組み						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 ブライダルヘアメイク V Bridal Hair Make V	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

フリーのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。
現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。

【授業の学習内容】

ブライダルヘアメイクの基礎技術・接客ヘアメイクを学ぶ

【到達目標】

- ①イメージメイクの習得→顔の個性やイメージメイクを知り、相手の要望に応えるカウンセリングメイクアップができるようになる。
- ②主に面を生かしたヘアスタイル作り→面を生かすスタイル～ゆるふわスタイルへのチェンジ等、ブロッキングの理解を深め、ヘアアレンジへの構造を考えられるようになる。現場としてはアシスタントが関わることの多い、列席者のヘアメイクが仕上げられるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】ブライダルヘアメイクにおいて必要な目標を理解し前期の授業内容を把握できるようになる。
2回目	【イメージメイク理論①】メイクの基本である顔分析を理解しイメージメイクを理解することができる。 ※接客セッティング・A4バインダー
3回目	【イメージメイク理論②】眉の様々な形とそれぞれのイメージを知り描けるようになる。相モデルで※シートレッスン
4回目	【イメージメイク理論③】アイメイク・チーク・ハイライト・ローライトのバリエーションを知り理想バランスに近づける事ができるようになる。
5回目	【ヘア実習①】面を生かしたスタイルの基本であるかぶせのアップスタイル・シニヨンスタイルができるようになる。ブロッキングの順序を知る事ができる。
6回目	【ヘア実習②】面を生かしたスタイルを完成できるようになる。飾りをつけられるようになる。
7回目	【ヘア実習③】一つのブロッキングから重心をかえて和・洋装のスタイル作りができるようになる。
8回目	【カウンセリングメイク】メイク接客に際して不可欠なカウンセリングの方法を知る事ができる。
9回目	【イメージヘアメイク②】キュート・エレガントヘアメイクの特徴を理解し、知識の応用編を取得することができる。
10回目	【イメージヘアメイク③】フレッシュヘアメイクの特徴を理解し、知識の応用編を取得することができる。
11回目	【イメージヘアメイク④】クールヘアメイクの特徴を理解し、知識の応用編を取得することができる。
12回目	【イメージヘアメイク⑤】相モデルで相手の要望に応えたヘアメイクができるようになる。
13回目	【ヘア実習④】ブライダルヘアの資料を集め、習得したブロッキングからヘアメイクを考案できるようになる。
14回目	1年生モデルの要望に応えたヘアメイクを完成させる。
15回目	【フィードバック】これまでの振り返りから後期に向けての目標を設定することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・実技メイク50% ・実技ヘア50%

【使用教科書・教材・参考書】

・プリントは適宜配布しますので、ファイルの一つ準備して下さい。また、授業でお伝えする内容をメモするノート・筆記用具を準備して下さい。

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 ブライダルヘアメイク VI	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
	Bridal Hair Make VI	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分
学科	ブライダルマネジメント科				4	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
フリーランスのブライダルヘアメイクアーティストとして活動。 現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA Shu-Uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。						
【授業の学習内容】						
ブライダルヘアメイクの基礎技術・接客ヘアメイクを学ぶ						
【到達目標】						
新たに花嫁様の和装等のヘアアレンジの知識を増やし、これまでに習得した技術を含め、お客様のニーズに応えながらトータルでメイクアップを提案し、接客できるようになる。当日に提示したドレスからペアでメイク・ヘアメイクのアレンジを考え、時間内に完成させる						

回数	授業計画・内容
1回目	授業説明 前期の振り返り メイク、ヘアメイクにおいてどんな技法を学んできたか、各自苦手な部分ができるようになっているかを確認する。
2回目	【和装①】白無垢に合わせたヘアメイクスタイリングができるようになる。
3回目	【和装②】色打ち掛けに合わせたヘアメイクスタイリングができるようになる。
4回目	【和装③】和装ウェディングのヘアメイクをコーディネートできるようになる。撮影・色直し・メンズメイクなどを知る。
5回目	和装の着せ付けを行った上で、和装ヘアメイクを行う①(日本髪)
6回目	和装の着せ付けを行った上で、和装ヘアメイクを行う②(和装ヘアメイクのアレンジ)
7回目	【エレガント】提示したウェディングドレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
8回目	【クール】提示したウェディングドレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
9回目	【キュート】提示したウェディングドレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
10回目	【フレッシュ】提示したウェディングドレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
11回目	【エレガント】提示したカラードレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
12回目	【クール】提示したカラードレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
13回目	【キュート】提示したカラードレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
14回目	【フレッシュ】提示したカラードレスからヘアメイクをつくる。 グループワーク(当日にペアを発表。担当を決め、スタイリングを話し合う。)
15回目	総まとめ行ったヘアメイク・メイクから学んだことから、自分の成長を振り返ることができる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・チームワークでの取り組み ・技術の完成度
【使用教科書・教材・参考書】	

前期 授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 花嫁着付Ⅱ	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
	Bride Kimono Ⅱ	授業 形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダルマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・箆笥整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営している。							
【授業の学習内容】							
日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では結婚式についての着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。							
【到達目標】							
講義・実技を通して結婚式における和装衣装、列席者の着物について理解・実践できるようになる							

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)列席者の着物・着物についての復習
2回目	(講義)日本の婚礼の歴史が理解できるようになる
3回目	(講義)花嫁の和装について理解できるようになる
4回目	(講義・実習)新郎和装について理解・実践できるようになる
5回目	(実習)新郎和装について着付けが理解できるようになる
6回目	(講義・実習)体型補正・かつらについて理解できるようになる
7回目	(実習)掛下までの説明と実技ができるようになる
8回目	(実習)掛下帯までの説明と実技ができるようになる
9回目	(実習)掛下帯までの説明と実技ができるようになる
10回目	(実習)打掛までの説明と実技ができるようになる
11回目	(実習)花嫁振袖・相生結びの説明と実技ができるようになる
12回目	(実習)花嫁振袖・相生結びの説明と実技ができるようになる
13回目	(実習)花嫁振袖・相生結びの説明と実技ができるようになる
14回目	模擬試験を行い自分のレベルを知ることが出来るようになる
15回目	(フィードバックと総復習)新郎新婦・列席者着付けを理解できるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験 70% ・レポート30%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 花嫁着付Ⅲ Bride KimonoⅢ	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当教員
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・箆笥整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営している。

【授業の学習内容】

新しい和装衣装のスタイルとして着物ドレスがある。着物ドレスの着せ付けと変わり結びを学ぶ(前半)
和装コーディネート(接客ロールプレイングを含め)

【到達目標】

実技を通して、着物とドレスを組み合わせた新しい着付けと変わり結びができるようになる(前半)
お客様との接客ロールプレイングを通して、理想の和装コーディネートができるようになる

回数	授業計画・内容
1回目	(オリエンテーション)ドレスの選定・変わり結びの復習
2回目	変わり結びができるようになる
3回目	変わり結びができるようになる
4回目	ドレスの上に着物を合わせて着付けることができるようになる
5回目	着物ドレスの着せ付けができるようになる
6回目	着物ドレスの着せ付けができるようになる
7回目	(試験)着物ドレスの着せ付け (レポート提出)
8回目	フィードバック
9回目	お客様へのヒアリング・和装選びができるようになる
10回目	コーディネート提案ができるようになる
11回目	フィッティングができるようになる
12回目	小物選びができるようになる
13回目	プレゼンテーション並びにコーディネート実演①ができるようになる
14回目	プレゼンテーション並びにコーディネート実演②ができるようになる
15回目	振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・実技試験 50% ・レポート50%

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 華道 I Kado I	必修 選択	必須 選択	年次	3	担当 教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講 区分	
						曜日/ 時限	

【担当教員_実務者経験】

生花店勤務・花の総合会社ウェディング部門を経て、現在はスクール部門でレッスンデザイン・講師を務める。花職向上委員会会員。同委員会編の書籍出版(誠文堂新光社)に作品提供。生け花・フラワーアレンジメントなど花の装飾全般を研究中。

【授業の学習内容】

生け花の基礎を学ぶ。(道具の使い方、生け花の歴史、フラワーアレンジメントとの違い、色合わせや花合わせについて、場の演出について、行事と花についてなど)生け花の成り立ちを通して、日本人が「自然」とどのように関わってきたかを学ぶ。生け花の歴史を探ると、日本人のものの考え方や精神性は「自然」が大きく関連していることが分かる。それを自覚することは今後の個人の大きな礎になると思われる。

【到達目標】

生け花を通じて、日本の伝統文化の理解を深める。
花でもてなす楽しさを感じ、空間演出に際して花が重要であるという感性を身につける。
基礎的な「生け花」ができるようになり、花を通じて日本を語れるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション① レポートの書き方。生け花についての概要を知る。ハサミ・剣山が使えるようになる。
2回目	オリエンテーション② 免状取得について。簡潔なデッサンでデザインを他者に伝えられるようになる。
3回目	オリエンテーション③ 池坊DVD鑑賞。生け花の歴史から日本文化の理解を深めることができる。
4回目	オリエンテーション④ 器に対する花の比率を考える。バランス感覚を身につける。
5回目	植物の扱い① 水揚げ法。植物を大切に扱う方法を知る。
6回目	植物の扱い② 植物を矯める方法。植物の動きを生かす技を知る。
7回目	作品鑑賞① 教科書の作例を観る。縦・横・斜めの作品の違いが分かるようになる。
8回目	作品鑑賞② 教科書の作例を観る。造形美と自然美の違いが分かるようになる。
9回目	生け花の歴史 歴史の復習。 池坊の「立花・生花・自由花」3つの代表的な型の成り立ちが理解できるようになる。
10回目	花の文化① 日本人の自然観について。日本人の自然に対する感じ方を生け花の歴史から学ぶ。
11回目	花の文化② 日本人と西洋人。 それぞれの文化を比較し、花文化の違いを認識することで異文化理解ができるようになる。
12回目	花の文化③ 生け花とフラワーアレンジメントの違い。それぞれの違いが理解できるようになる。
13回目	花のコーディネート① 季節感、色合わせ、花合わせについて。ハーモニーの重要性が理解できるようになる。
14回目	花のコーディネート② 場の演出について。花を用いた空間演出の作例を鑑賞し、空間装飾の感性を養う。
15回目	花のコーディネート③ 行事と花について。花と行事の関わりを知り、花でおもてなしができるような感性を養う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・各回のレポート (レポートの内容+完成度をもって理解度とする) ・各回の実技演習 10%

【使用教科書・教材・参考書】

いけばな池坊 自由花入門カリキュラム お稽古ノート

授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティースタディ】 茶道 I Tea ceremony I	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
学科	ブライダルマネジメント科	授業形態	講義演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
曜日/時限							

【担当教員_実務者経験】

学生時代に師と出会い、入門。師のお稽古場にて活動。

【授業の学習内容】

茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、
他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。

【到達目標】

茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け閉め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。
おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション：茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目	和室での立ち居振る舞い①：お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を理解することができる。
3回目	和室での立ち居振る舞い②：立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見を理解することができる。
4回目	和室での立ち居振る舞い③：水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を理解することができる。
5回目	割稽古①：袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い、棗と茶杓を清める作法を理解することができる
6回目	割稽古②：茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目	割稽古③：茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までを通して理解することができる。
8回目	盆略点前①：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
9回目	盆略点前②：客と亭主に分かれお茶を点てるまで理解することができる。
10回目	盆略点前③：客と亭主に分かれ、お仕舞いまで理解することができる。
11回目	盆略点前④：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
12回目	盆略点前⑤：客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし、身につけ理解することができる。
13回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
14回目	和室での立ち居振る舞い、盆略点前の演習を行い、理解度を確認することができる。
15回目	着物をきて、お点前を行い、総まとめを行う。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎筆記試験+実技試験

【使用教科書・教材・参考書】